



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学



平成27年度採択 文部科学省
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)

平成30年度 事業成果報告書

島根大学地域未来協創本部
地域人材育成部門



目 次

第1章 総説	1
第2章 地域未来創造人材の育成	24
第3章 しまね大交流会	53
第4章 しまね協働教育パートナーシップ	67
第5章 地域情報アーカイブAgo-Lab	79
第6章 しまねクリエイティブラボネットワーク	82
第7章 その他事業全般に係る事項	96
第8章 文部科学省による事業フォローアップについて	104

第1章. 総説

本章では、この「オールしまね COC+事業」について、文部科学省に対する申請内容および年度ごとの計画調書や実績報告と照らし合わせながら、事業全体について以下の項目について報告する。

- 1-1. 事業概要
- 1-2. 平成 30 年度計画と取組・成果の概要
- 1-3. 本事業の各計画に対する文部科学省への実績報告について
- 1-4. 本事業の年度別 KPI に対する進捗状況

1-1. 事業概要

「地域未来創造人材の育成を加速するオールしまね協働事業」は、県内全ての大学・高専が行政・企業・NPO 等と連携し、【地域未来創造人材の育成】【魅力ある地域産業・雇用の創出支援】に取り組む事業である。具体的には、COC 事業で整備してきた体系的な地域志向教育を継続し、各大学・高専の地域志向型キャリア教育プログラムを強化して、特殊鋼・IT 産業（Ruby）・観光等の特色ある島根県の産業分野で活躍する地域未来創造人材を育成する。さらに大学・高専と企業等のシーズ・ニーズをつなぎ共同研究等を促進し、学生・地域ステークホルダーの多様な交点を創出するしまね大交流会を実施する。これらの実効性を上げるため、人・アイデア・情報を交差させ、地域協創型の人材育成・企業等の雇用力向上・イノベーション創出を促進するしまね協働教育パートナーシップとしまねクリエイティブラボネットワーク、及び地域情報アーカイブ『Ago-Lab』を構築する（文部科学省へ提出の事業計画調書等より引用）。本事業は図 1-1 に示す通り大きくは 5 つのプロジェクトに区分可能である。地域未来創造人材の育成を残り 4 つのプロジェクトを通し、地域と高等教育機関が一体となって取り組む構想である。

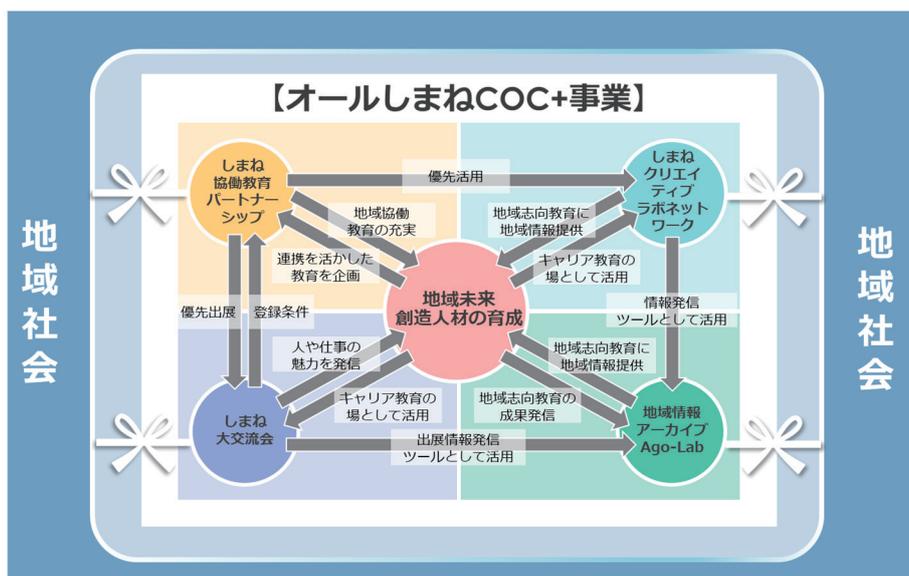


図 1-1：事業を構成する 5 つのプロジェクトの相互関係図

2

3

4

5

6

7

8

1-2. 平成 30 年度計画と取組・成果の概要

(1) 平成 30 年度計画の概要

本事業の目標を達成するため、前項の 5 つのプロジェクトそれぞれについて平成 30 年度は表 1-1 の通り取組む計画とした。

表 1-1：平成 30 年度計画の骨子

<p>【1】 地域未来創造人材の育成</p>
<p>各高等教育機関では、これまでCOC事業で強化してきた取組を継続して実施するとともに、それらを基盤としてCOC+事業で開始した取組をさらに加速する。また、学生が地域の産業や働く場・ひとを知るための多様な正課外の教育として、しまね協働教育パートナーシップを活用し、インターンシップフェア、企業ツアー、キャリアデザインに関するセミナー、業界研究フェア、企業と学生の交流会等を島根県と協働して年間6回実施する。</p> <p>【島根大学】 地域志向型初年次教育を全学必修で実施し、COC+事業で開発した授業科目「地域未来論」および「実例ビジネス開発論」やCOC事業で構築した地域基盤型教育および地域課題解決型教育を行う約200の授業科目との円滑な連携を図ることで、入学直後から3・4年次の地域における中・長期インターンシップまで、全学年を通して地域をフィールドとした地域志向教育を体系的に実施する。また、地域未来創造人材を育成するための「キャリアデザインプログラム」を展開し、より実効性の高い地域志向型キャリア教育を全学的に実施する。特に、地域貢献人材育成入試を実施して選抜したCOC人材育成コース生においては、事業協働機関とともに地域事例に関する探求セミナーやフィールドワークを実施するほか、都市圏の大学生との共同演習型プログラム、プロジェクト型中長期地域インターンシップを新たに開発・実施する。</p> <p>【島根県立大学・同短期大学部】 「しまね地域共生学入門」を始めとする地域志向教育科目の実施と「しまね地域マイスター」制度の拡充・効果的な運用を行う。</p> <p>【松江工業高等専門学校】 地域志向教育科目「地域産業とエンジニア」「ふるさと学」の開講およびエンジニアリングデザイン演習やPBL手法を用いた創造演習等で課題解決能力の伸長を図る正課教育を実施する。</p>
<p>【2】 しまね大交流会</p>
<p>第4回しまね大交流会を実施するために、COC+大学および連携校・事業協働機関の代表者からなる「しまね大交流会実行委員会」を年間6回開催し、出展者交流会の効果的なマッチング機能の創出等企画の改善を行い、参加者数を平成28年度比50%増とする。</p>
<p>【3】 しまね協働教育パートナーシップ</p>
<p>「オールしまねCOC+事業 しまね協働教育パートナーシップ推進協議会」を年間4回開催し、同パートナーシップ登録団体の募集・認定を行い、登録団体を平成29年度より30団体増やし、地域との協働教育体制を強化する。また、同制度登録団体を対象にした研修会やワークショップ等を年3回開催し、地域協働で行う地域未来創造人材の育成理念と方針を共有する。加えて、登録団体を、地域における協働教育に積極的な事業所として学生に周知する広報活動を行う。</p>
<p>【4】 地域情報アーカイブ『Ago-Lab』</p>
<p>事業協働地域の地域活動情報の蓄積や魅力発信を支援するとともに、地域志向型初年次教育科目を含む地域志向教育において地域情報を効果的に利用することで、相乗効果的に利用を拡大し、投稿アカウント登録数を平成28年度比300%とする。加えて、利用者からのフィードバックをもとに、システム運用上の問題点を把握・改善する。</p>
<p>【5】 しまねクリエイティブラボネットワーク</p>
<p>「地域コミュニティラボ」では、地域ステークホルダーと島根大学が協働で展示企画を行い、地域の魅力を学生に向けて発信する展示を年4回程度行う。「技術コミュニティラボ」では、高等教育機関に所属する主に若手研究者が先端の研究についての話題提供を行い、地域ステークホルダーの若手エンジニア・開発担当者らとディスカッションする双方向のミーティング型交流の場を年3回以上実施する。「ものづくりコミュニティラボ」では、ものづくりを通じ課題解決に必要な創造性を伸長させる教育を行う授業「ものづくりと創造性」の開講および市民参加型のワークショップ等を年2回程度実施する。</p>

上表は、本事業の計画骨子であり、これを遂行していくために計画番号①～⑮までの詳細な年度計画を設計している。表記の重複を避けるため、詳細版の計画①～⑮それぞれの内容については、p. 7 以降の文部科学省への実績報告を基にした項に掲載する。

(2) 平成 30 年度の取組・成果の概要

年度計画の遂行にあたっては、当該年度の第 1 四半期に前年度の事業に対する総括・1 次評価・2 次評価を行い、事業協働機関とともに交付申請時の本年度計画を見直し、実務レベルでの改善を積み重ねている。平成 30 年度の年度計画においても同様にきめ細かく PDCA を繰り返して取り組んだ結果、本事業を構成する 5 つのプロジェクトは、当初計画の本年度目標を達成し、いくつかの項目では想定以上の成果をあげた。図 1-2 は、既出の図 1-1 に、過去 4 年間の本事業の取組成果を抜粋で重ねて表現したものである。5 つのプロジェクトの継続的な積み重ね・機関間連携の強化により、本事業開始時と比べ、その協働の様相は全く異なるレベルに達しつつある。

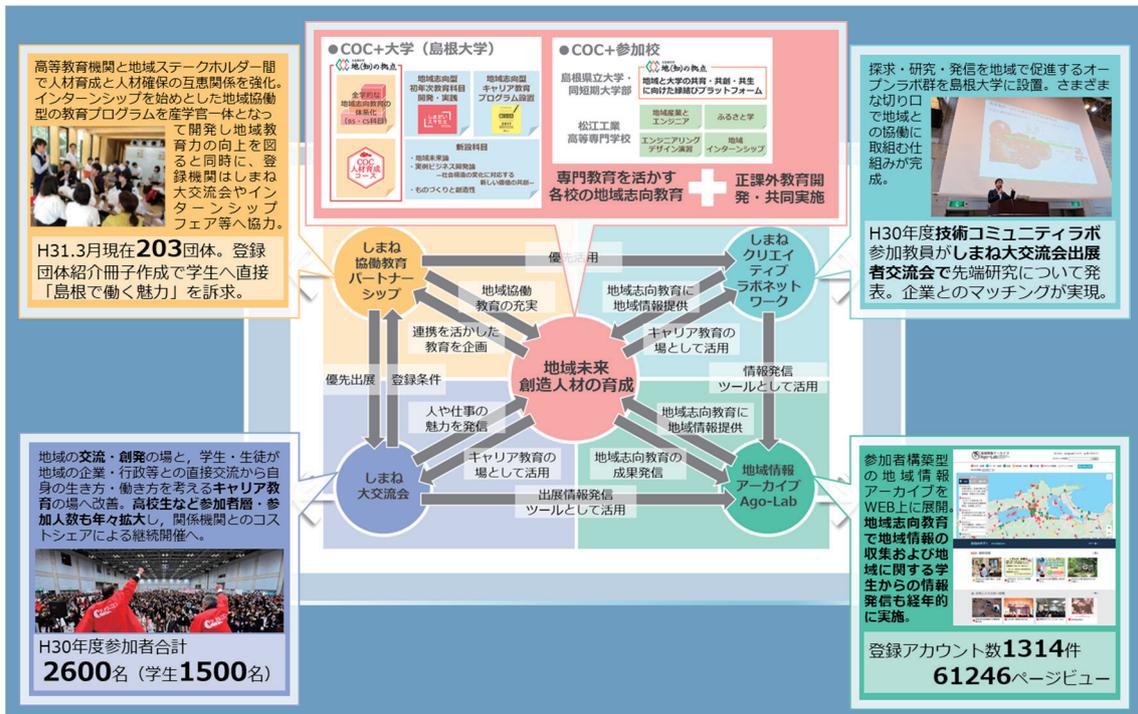


図 1-2 : 本事業の 5 つのプロジェクトの大まかな成果と相互関連

以下、5 つのプロジェクトの今年度の取組概要及びその成果の概要を報告する。詳細版の報告は、第 2 章以降にプロジェクトごとに報告したので適宜そちらも参照いただきたい。

【1】地域未来創造人材の育成

各高等教育機関では、それぞれ特色ある地域未来創造人材の育成に取り組むとともに、各高等教育機関および島根県主催事業として、地域と協働した多彩な正課外教育を実施した。本年度は、汎用性が高く全学的に取り組むものから学部等が企画する専門性の高い内容まで、約 20 の地域協働教育事業が実施され、延べ 1300 名を超える学生がこれに参加した（しまね大交流会参加学生約 1500 名を除く人数）。

年間を通じ、授業だけでなく授業外における地域志向型キャリア教育を重層的かつ多数実施し、企業・自治体見学ツアーなど現地に赴く活動を県の支援等を得ながら年度計画を超えて拡大して実施したことにより、学生が、地域の企業・自治体等の働く・暮らす魅力を実地で知ることができた。また、大規模な合同説明会形式での学生集客が近年大幅に減少している中、各校で学生と企業（社会人）との対話・交流の場を数多く開催することにより、地域企業・団体への興味関心を高めることができた。

以下教育機関別に取組および成果の概要を報告する。

【島根大学】

地域志向科目として地域基盤型科目（ベースストーン科目）90 科目、地域課題解決型科目（キャップストーン科目）として 107 科目を開講し、それぞれのべ 7037 名、3657 名が受講した。特に、昨年度より全学で必修化とした地域志向型初年次教育科目は 25 科目が開講され、延べ 1198 名が受講し、当該年度 1 年生の 100%（休学者等除く）が地域志向型初年次教育科目を履修した。また、「初年次教育プログラムガイドライン」の改定により、島根大学の COC 事業で構築してきた「専門教育と連動する地域基盤型教育・地域課題解決型教育からなる地域志向教育」を、初年次より切れ目なく受講できる環境が整い、より体系化され質が向上した教育内容を学生に提供できた。

COC+事業で平成 29 年度に構築した「キャリアデザインプログラム」は、平成 30 年度の入学生 175 名を含む全 347 名が履修し、地域志向科目を含むキャリア教育科目群と、「しまね協働教育パートナーシップ」の仕組みを活用し、より質の高い地域協働型の学びを学生に提供することができた。

さらに、COC 事業で整備した「地域貢献人材育成入試」の入学生である COC 人材育成コース生 49 名が新たに入学し、コースに所属する学生は 1 期生から 3 期生までの 152 名となった。また、今年度も入試（平成 31 年度入試）を実施し、次年度は 57 名の 4 期生を迎えることとなった。このコースでは、各学部が提供する地域志向教育を受けながら、学部横断型で地域課題に特化したプロジェクト学習を正課科目「地域課題解決プロジェクト」や「地域共創インターンシップ（2 週間以上の中長期地域インターンシップ）」、正課外活動の各種セミナーに加え、しまね協働教育パートナーシップ登録団体の地域企業・自治体等とタイアップした高度な PBL である「COC コース生プロジェクト」の機会を学生に提供することができた。

【島根県立大学】

「しまね地域共生学入門（1年次全学必修）」を開講したほか、「地域課題総合理解（2年次）」「地域共生演習（2・3・4年次）」など「しまね地域マイスター課程」の履修科目を開講し、地域課題の解決に向けての地域学習を段階的・体系的に行った。同課程の最終年度には、島根県内のさまざまな地域課題に対して地域学習、卒業研究を通じた提言を行うなど、自ら地域の課題に対して向き合い、考え、課題解決に向けた行動力のある人材の育成につながった。なお、今年度初めて「しまね地域マイスター課程」の修了生を8名輩出した。

【松江工業高等専門学校】

地域志向科目として「地域産業とエンジニア」および「ふるさと産業学（計画時は「ふるさと学）」を開講した。「地域産業とエンジニア」では、外部講師を招いて地域産業に関連した内容の講義を行い、「ふるさと産業学」では、地域をフィールドに体験学習を行った。「地域産業とエンジニア」（4年生対象）および「ふるさと産業学」（3年生対象）の科目において、学生が熱心に受講するとともに、学生からの授業アンケートにおいても、高い評価を得ることができ、学生の地域志向を高めることができた。

【2】しまね大交流会

第4回目となる「しまね大交流会 2018」の開催にあたって、しまね大交流会実行委員会を事業協働機関とともに組織し7回の委員会を開催した。特に、島根県教育委員会と連携し、高校生のキャリア教育のためのセミナーを別途設けたことにより高校生参加者を含む1481名（平成28年度比112%増）の学生・生徒の参加を得ることができ、参加者総数は2622名（平成28年度比64%増）となった。

また、開催にあたっては、島根県教育委員会、島根県総務部に加え、中海圏域就業支援連携事業推進協議会（松江市・米子市・安来市・境港市）とも県境を越えて実質的な事業連携が実現し、一部コストシェアを図ることができた。

【3】しまね協働教育パートナーシップ

事業協働機関とともに構成する「しまね協働教育パートナーシップ推進協議会」を年間3回開催し、本パートナーシップ登録団体の募集・認定ほか本協議会として実施する地域協働による人材育成に関する研修会等の企画について協議を行った。今年度は、昨年度登録した136団体から67団体増加して合計203団体となり、最終目標値である200団体を1年前倒しで達成することができた。さらに、新たな試みとして登録団体の魅力を紹介する学生向け冊子を作成し、キャリア教育や就職活動指導などに活用を開始した。

また、年間を通じた取組として、登録団体を対象とした研修会、インターンシップフェア、企業ツアー、学生との交流会を年度計画を超えて実施し、昨年以上に学生と登録団体との接点を拡大することができ、しまね大交流会や各校で取り組む地域志向型キャリア教

2

3

4

5

6

7

8

育との連動が進展した。

【4】地域情報アーカイブ『Ago-Lab』

昨年度に引き続き地域志向教育等とタイアップさせ、地域情報の収集や発信を教育コンテンツとして導入するとともに、しまね大交流会の出展団体による出展内容・自社や自組織の魅力に関する事前PRにも活用してもらった。投稿アカウント数は1314件となり、平成28年度末の107件から12倍にまで拡大した。

【5】しまねクリエイティブラボネットワーク

「地域コミュニティラボ」では、地元自治体や企業、また一般市民との協働による学生向け地域資源展示を5回行い、計3199名の来場があった。学生や教職員のみならず一般市民団体も含む幅広い地域ステークホルダーが、山陰地方が保有する地域資源の価値の再認識と探究の必要性に対する洞察を得、大学と地域が協力して地方創生のきっかけを提供することができた。例えば、「お城の動物園」と題した展示会では、松江城にかつて動物園があり、市民の憩いの場として設計されていたなど、「地域にあるものの意味合い」が時代によって異なり、だからこそ過去の取組を知ることで今後の地域資源の可能性の幅が広がることを多くの学生・市民に伝えることができた。

「技術コミュニティラボ」では、最新技術に関する少人数・双方向型のミーティングを3回開催し、若手教員や地元企業エンジニア等が約60名参加した。また、しまね大交流会と連携し、出展者交流会の時間帯に「技術コミュニティラボ in 大交流会」と題して、島根大学および松江工業高等専門学校の若手データサイエンティストによるライトニングトークで、近年、地域の関心が高いデータサイエンスに関する紹介を行った。その結果、研究者と地元企業のマッチングが進み、商品開発に関する独自の勉強会が発足するなど産学連携の新たな接点が生まれた。

「ものづくりコミュニティラボ」では、大学生向けの教養科目「ものづくりと創造性」を開講したほか、市民向けのものづくりワークショップを公開講座や松江・安来広域連携事業親子講座などの形式で4講座計24回開講した。「豊かな発想力・創造性を備えた課題解決能力の高い人材育成」をいう地域からの要望に対し、創造性を発揮できる場所を提供することでも、地域未来創造人材の育成に資することができると考えているが、例えば、中学生のロボコン講座から主にリタイア層の参加者が多かったデジタルものづくり講座まで、まさに人生100年時代にふさわしい幅広い年齢層にこのラボの環境が受け入れられ、多彩に活用することができた。

1-3. 本事業の各計画に対する文部科学省への実績報告について

前述の本事業の5つのプロジェクトを計画通り推進するため、15項目の年度計画を策定し実行した。以下に文部科学省に提出した様式とその際の通し番号に沿って、その計画、取組、学生教育に関する成果を記す。

15項目の計画は、本事業で取り組む5つのプロジェクトおよび事業全体に係る事項の6つに区分した上で、その詳細を次章以降に報告する。個々の計画には、詳細報告を行うページをそれぞれ右上に付した。また、特に重要な成果や計画を上回った事項は、下線で示した。

【1】地域未来創造人材の育成

計画番号	計画内容	詳細
④	<p>④-1：地域志向型初年次教育を全学必修で実施し、COC+事業で開発した授業科目「地域未来論」および「実例ビジネス開発論－社会構造の変化に対応する新しい価値の共創－」やCOC事業で構築した地域基盤型教育および地域課題解決型教育を行う約200の授業科目との円滑な連携を図ることで、入学直後から3・4年次の地域における中・長期インターンシップまで、全学年を通して地域をフィールドとした地域志向教育を体系的に実施する。【島根大学】</p> <p>④-2：「しまね地域共生学入門」を始めとする地域志向教育科目の実施と「しまね地域マイスター」制度の拡充・効果的な運用を行う。【島根県立大学】</p> <p>④-3：地域志向教育科目「地域産業とエンジニア」「ふるさと学」の開講およびエンジニアリングデザイン演習やPBL手法を用いた創造演習等で課題解決能力の伸長を図る正課教育を実施する。【松江工業高等専門学校】</p>	<p>p. 34- p. 47- p. 49-</p>
具体的な取組		学生教育の観点での成果
<p>1) 島根大学では、地域志向科目として地域基盤型科目（ベースストーン科目）90科目、地域課題解決型科目（キャップストーン科目）として107科目を開講し、それぞれのべ7037名、3657名が受講した。特に、<u>昨年度より全学で必修化とした地域志向型初年次教育科目は25科目が開講され、延べ1198名が受講し、当該年度1年生の100%（休学者等除く）が地域志向型初年次教育科目を履修した。</u>特に、地域貢献人材育成入試を実施して選抜したCOC人材育</p>		<p>1) 島根大学では、昨年度に開発を行った地域志向型初年次教育科目をさらに精査して、今年度当該科目を開講し、これを基にして「初年次教育プログラムガイドライン」を改定した。これにより、高等学校までの学びを大学での学びに円滑に接続させつつ、地域を学ぶことを通じた大学での学びに対する動機づけ、学習の自己デザインなど、島根大学のCOC事業で構築してきた「専門教育と連動する地域基盤型教育・地域課題解決型教育からなる地域志向</p>

2

3

4

5

6

7

8

<p>成コース生を対象とした教育プログラム (⑤) において、全学年を通して地域をフィールドとした地域志向教育を体系的に実施することができた。</p> <p>2) 島根県立大学では、「しまね共生学入門 (1 年次全学必修)」を開講したほか、「地域課題総合理解 (2 年次)」「地域共生演習 (2・3・4 年次)」など「しまね地域マイスター課程」の履修科目を開講し、地域課題の解決に向けての地域学習を段階的・体系的に行った。</p> <p>3) 松江工業高等専門学校では地域志向科目として「地域産業とエンジニア」および「ふるさと産業学」を開講した。「地域産業とエンジニア」では、外部講師を招いて地域産業に関連した内容の講義を行い、「ふるさと産業学」では、地域をフィールドに体験学習を行った。また、演習科目「エンジニアリングデザイン演習」、「創造演習 (PBL)」では、問題解決型の設計製作演習やフィールドワークを実施した。</p>	<p>教育」を、初年次より切れ目なく受講できる環境が整い、より体系化され質が向上した教育内容を学生に提供できた。</p> <p>2) 島根県立大学では、<u>今年度初めて「しまね地域マイスター課程」の修了生を 8 名輩出した</u>。同課程の最終年度には、島根県内のさまざまな地域課題に対して地域学習、卒業研究を通じた提言を行うなど、自ら地域の課題に対して向き合い、考え、課題解決に向けた行動力のある人材の育成につながった。</p> <p>3) 松江工業高等専門学校では、「<u>地域産業とエンジニア (4 年生対象) および「ふるさと産業学」 (3 年生対象) の科目において、学生が熱心に受講するとともに、学生からの授業アンケートにおいても、高い評価を得た。このことから、学生の地域志向を高めることができた。</u></p>
--	--

計画番号	計画内容	詳細
⑤	島根大学において、各学部および全学センターが協働し、地域未来創造人材を育成するための「キャリアデザインプログラム」を展開し、地域志向教育 (④ - 1) や、他の高等教育機関や島根県と連携して行う正課外の地域志向型キャリア教育 (⑥)、しまね大交流会 (⑦) などをプログラムの構成要素とするより実効性の高い地域志向型キャリア教育を全学的に実施する。特に、地域貢献人材育成入試を実施して選抜した COC 人材育成コース生においては、事業協働機関とともに地域事例に関する探求セミナーやフィールドワークを実施するほか、都市圏の大学生との共同演習型プログラム、プロジェクト型中長期地域インターンシップを新たに開発・実施する。【島根大学】	p. 35-
	具体的な取組	学生教育の観点での成果
	1) 島根大学において地域未来創造人材を育成するために「キャリアデザインプログラム」を運営し、 <u>当該年度の入学生 175 名を含む全 347 名が履修をした</u> 。この履修生に対し、 <u>COC 事業で整備した地域志向科目を含むキャリア教育科目群と、しまね協働教</u>	1) 本事業で整備した「しまね協働教育パートナーシップ」の仕組みを活用し、しまね大交流会 (⑦) や地元企業とのプロジェクト「コミュニティイノベーションチャレンジ」、県立大学や島根県とも連携した「履修生対象セミナー」など、より質の高い地

<p>育パートナーシップ登録団体（⑨）と取組む学外での学びを提供した。</p> <p>2) 島根大学においてCOC事業で整備した「地域貢献人材育成入試」による入学生が当該年度57名入学し、COC人材育成コース3期生を迎えた。同コース生は、各学部が提供する地域志向教育を受けながら、<u>学部横断型で地域課題に特化したプロジェクト学習を正課科目「地域課題解決プロジェクト」(大田市連携)や、正課外活動の各種セミナーに加え、「吉田プロジェクト」(株式会社吉田ふるさと村)、「カエルプロジェクト」(島根県教育委員会)、「駅魅力化プロジェクト」(西日本旅客鉄道株式会社米子支社)等として取組んだ。</u></p> <p>また、都市圏の大学生との共同演習型プログラムは<u>本事業の協力大学である大正大学とともに、内閣府「地方と東京圏の大学生滞留促進事業」に採択され、本年度は大正大学の学生が島根県に滞在し島根大学の学生とともに学ぶことができた。</u></p> <p>プロジェクト型中長期地域インターンシップについては、COC人材育成コース1期生(3年生)を対象に本年度初めて開講し10名が履修した。</p>	<p>域協働型の学びを学生に提供することができた。また同時に、それをキャリアデザインプログラムの修了要件に位置付けることでモチベーションアップを図ることができた。</p> <p>2) COC人材育成コースの教育においても、1)と同様に、「しまね協働教育パートナーシップ」の仕組みを活用し、地域企業・自治体等と効果的かつ高度なPBLの機会を学生に提供することができた。</p>
--	---

計画番号	計画内容	詳細
⑥	<p>学生が地域の産業や働く場・ひとを知るための多様な正課外の教育として、しまね協働教育パートナーシップ（⑨）を活用し、インターンシップフェアや、企業ツアー、キャリアデザインに関するセミナー、業界研究フェアや企業と学生の交流会等を、東部・西部のキャリアプランナーが企画に携わり、キャンパス間ネットワーク等を活用しながら島根県と協働して年間6回実施する。これに加え、「しまね大交流会（⑧）」を地域志向型キャリア教育の起点に位置づけて活用する。また、高等学校を含めた教員等を対象とする企業ツアー等、学生の教育に携わる者同士の交流と相互理解を深める取組を島根県と共に実施する。</p>	p. 24-
具体的な取組		学生教育の観点での成果
各高等教育機関および島根県主催事業として、地域		年間を通じ本事業と島根県主催事業により、授業だ

2

3

4

5

6

7

8

<p>と協働した多彩な正課外教育を実施した。本年度は、汎用性が高く全学的に取り組むものから学部等が企画する専門性の高い内容まで、当初の計画を超えて約20の地域協働教育事業が実施され、延べ1300名を超える学生がこれに参加した（しまね大交流会（⑦）の参加者を除く人数）。特に今年度新規で開催した「しまねDEEP まちツアー」は授業と連動したツアーではあったが、授業を受けていない学生、大学院生、留学生のほか、教職員が複数参加した。</p>	<p>けでなく授業外における地域志向型キャリア教育を重層的かつ多数実施し、企業・自治体見学ツアーなど現地に赴く活動についても拡大して実施したことにより、学生が、地域の企業・自治体等の働く・暮らす魅力を実地で知ることができた。また、大規模な合同説明会形式での学生集客が近年大幅に減少している中、各校で学生と企業（社会人）との対話・交流の場を数多く開催することにより、学生が地域で働く魅力のほか休日の過ごし方などの暮らす魅力を知ることができ、地域企業・団体への興味関心を高めることができた。</p>
--	---

【2】しまね大交流会

計画番号	計画内容	詳細
⑦	第4回しまね大交流会を実施するために、COC+大学および連携校・事業協働機関の代表者からなる「しまね大交流会実行委員会」を年間6回開催し、出展者交流会の効果的なマッチング機能の創出等企画の改善を行い、参加者数を平成28年度比50%増とする。	p. 53-
具体的な取組		学生教育の観点での成果
<p>1) 第4回しまね大交流会（以下大交流会）を実施するために、事業協働機関とともに「しまね大交流会実行委員会」を組織し、本委員会を7回開催した（5/15、7/19、8/22、10/4、11/15、12/6、1/31）。委員会での協議を経て、昨年度からの高等教育機関が共同で活用する地域志向型キャリア教育（⑤⑥）としての目的に加え、出展者同士の交流にクリエイティブラボネットワークの成果（⑩）および、島根県教育委員会との連携による高校生向けセミナーなども組み込み、12/16 にくにびきメッセ（松江市）にて開催した。当日は、208 ブースの出展（うち企業142、自治体13、NP01、その他団体10、大学・高専42）、2622名（学生1481名、一般1141名）の参加があり、平成28年度比64%増となった。学生参加者には県内高校生約340名、ポリテクカレッジ約50名も含まれ、本事業を実施する高等教育機関以外の</p>		<p>1) ～ 3) しまね大交流会実行委員会を事業協働機関とともに組織したことで、<u>昨年度比125%の学生参加を得た</u>。特に、<u>島根県教育委員会との連携により、高校生のキャリア教育のためのセミナーを別途設け、本事業が目指す地域協働教育がさらに拡大した</u>。県内定着率向上の観点からは、<u>島根県内の高校生に対する地元企業等の魅力発信も重要であり、しまね大交流会の取組がその好事例となるよう、今後</u><u>もさらに島根県教育委員会との連携を強化することとした</u>。</p> <p>参加者及び出展者を対象としたアンケート調査の結果は、「しまね大交流会2018開催報告・アンケート分析速報」（全23ページ）としてまとめた。以下では、報告書から幾つかの指標について紹介する。</p> <p>→「参加者の満足度」・・・「満足した」と回答した</p>

<p>県内教育機関においてもキャリア教育の場としての活用があった。</p> <p>2) 大交流会参加者および出展者を対象としたアンケートを開催当日に実施し、結果の集計および分析した結果を、教育プログラム開発専門委員会 (③、2/13)、しまね大交流会実行委員会 (1/31)、パートナーシップ推進協議会 (⑦、2/13) およびしまねCOC+推進協議会 (②、3/26) で報告し、その他出展企業等へも情報提供を行った。</p> <p>3) しまね大交流会開催にあたっては、<u>島根県教育委員会、島根県総務部に加えて、中海圏域就業支援連携事業推進協議会 (松江市・米子市・安来市・境港市)とも県境を越えて実質的な事業連携が実現し、一部コストシェアを図ることができた。</u></p>	<p>参加者の比率は、学生、一般ともに 90%以上であった。特に学生の比率は 97%に達した。</p> <p>→「学生の意識変化」・・・「企業・NPO・自治体の魅力」「職場見学への興味関心」「インターンシップ先としての魅力」「生活の場としての魅力」のすべての観点において、「増した」と回答した学生の比率はいずれも 90%以上であった。特に、「インターンシップ先としての魅力」「生活の場としての魅力」が増したと答えた学生はいずれも 98%を超えた。</p> <p>→「キャリア教育の場としての大交流会に対する評価」・・・しまね大交流会が自身のキャリアデザインに役立つと回答した学生の比率は 97%であった。</p> <p>さらに、アンケートの詳細な分析結果より、<u>しまね大交流会に低学年次から参加している学年では、その上級学年よりも地元企業を知っている数が多いことが明らかになり、本取組が地元企業を知る機会として有効に働いていることが明らかとなった。</u></p>
--	--

【3】しまね協働教育パートナーシップ

計画番号	計画内容	詳細
⑨	「オールしまね COC+事業 しまね協働教育パートナーシップ推進協議会」を年間 4 回開催し、同パートナーシップ登録団体の募集・認定を行い、登録団体を平成 29 年度より 30 団体増やし、地域との協働教育体制を強化する。また、同制度登録団体を対象にした研修会やワークショップ等を年 3 回開催し、地域協働で行う地域未来創造人材の育成理念と方針を共有する。加えて、登録団体を、地域における協働教育に積極的な事業所として学生に周知する広報活動を行う。	p. 67-
具体的な取組		学生教育の観点での成果
1) 「オールしまね COC+事業 しまね協働教育パートナーシップ推進協議会」を年間 3 回開催し (5/24、11/29、2/13)、本パートナーシップ登録団体の募集・認定ほか本協議会として実施する地域協働による人材育成に関する研修会等の企画について協議を行った。今年度は、67 団体からの登録申請を受け、昨年度登録した 136 団体に加え、 <u>合計 203 団体をパート</u>		1) ~ 2) 「しまね協働教育パートナーシップ推進協議会」を年間通じて開催し、 <u>登録団体の募集や啓発活動、学生教育への参画事業、自組織の教育力向上事業の 3 点から常時活動を行うことができ、本 COC+事業の中心である人材育成における産官学連携を強化することができた。</u>

2

3

4

5

6

7

8

<p><u>ナーシップ登録団体とすることができ、最終目標である200団体を1年前倒しで達成することができた。</u></p> <p>加えて、<u>登録団体の魅力を紹介する学生向け冊子を作成し、キャリア教育や就職活動指導などに活用を開始した。</u></p> <p>2) 本パートナーシップ登録団体を対象とした、特に地域におけるインターンシッププログラムの教育力・魅力向上に関する研修会を5/30、11/8、11/16、1/9の計4回開催し、延べ73団体から102名が参加した。</p> <p>3) 本パートナーシップ登録団体に協力を依頼し、インターンシップフェア（東部5/30、西部11/7）や企業ツアー（5/26、5/30、6/2、6/6、8/6、8/29等）、学生との交流会（5/23、7/11、11/16/等）などの正課外教育（⑥）を島根県主催事業として実施したほか、しまね大交流会（⑦）に出展者として参画を募り、多様な接点での地域協働教育を実施した。</p> <p>4) 本パートナーシップ登録団体が、学生と取組む各種プロジェクトやインターンシップの好事例を共有し、持続可能な協働教育の在り方を検討するフォーラムを3/27に開催した。本セミナーはキャンパス間ネットワークを活用して西部地域にも同時中継し、機関の枠を超えた情報共有と参加者全員の参加型ワークショップで協議を行った。<u>フォーラムには55団体から計141名と、各高等教育機関から20名の学生が参加し、有益な情報を得たと回答のあった割合は94%であった。</u></p>	<p>3) 本パートナーシップ登録のメリットでもある、学生との多様な接点を提供できただけでなく、企業等からの一方的な説明の場である合同会社説明会等と違い、学生の学びと成長を主眼においた教育の場に、地元企業等からの参入を可能にし、学生らの就業観や勤労観についての本音を企業等が直接聞くという機会の提供が定着した。これにより、雇用ミスマッチや早期離職を未然に防ぐことにつながる「働くことに関する共通理解の関係性」を学生・企業双方に提供できた。</p> <p>4) インターンシップの固定観念をなくすと同時に、<u>さまざまなレベル・方法で学生の地域協働教育が可能であることを事例を通じて、企業等が理解することができ、地域でがんばりたいと思う学生と受入企業等とのミスマッチの解消につながった。</u>また、フォーラムのワークショップを通じ、学生・企業等がそれぞれの本音を共有することができ、今後のよりよい在り方を模索するにあたっての実践的なヒントや示唆を、本協議会自体が得ることができた。</p>
--	---

【4】地域情報アーカイブ『Ago-Lab』

計画番号	計画内容	詳細
⑧	地域情報アーカイブ『Ago-Lab』を運用し、事業協働地域の地域活動情報の蓄積や魅力発信を支援するとともに、地域志向型初年次教育科目を	p. 79-

	む地域志向教育において地域情報を効果的に利用することで、相乗的に利用を拡大し、投稿アカウント登録数を平成 28 年度比 300%とする。加えて、利用者からのフィードバックをもとに、システム運用上の問題点を把握・改善する。	
具体的な取組	学生教育の観点での成果	
<p>1) 島根大学の地域志向型初年次教育科目「スタートアップセミナー」(受講者数 401 名) および「島根学」(同 379 名)、「地域未来論」(同 73 名)、「実例ビジネス開発論」(同 22 名) 等において、『Ago-Lab』を用いた地域情報の収集や発信を教育コンテンツとして導入した。</p> <p>2) しまね大交流会に出展する団体のうち、44 団体から『Ago-Lab』を用いた出展内容・自社や自組織の魅力に関する事前 PR が行われた。</p>	<p>1)～2) 地域情報の発信およびその活用といった、シーズとニーズの双方に対して効果的に働きかけたことで、『Ago-Lab』利活用の好循環を作り出すことができた。これにより、学生教育においては、地域ステークホルダーと Web 上の情報を介した接点の創出により、潜在的に地域に存在していた価値・資源への気づきを促すことにつながり、より充実した地域志向教育を実施することが可能になった。また、学生教育において、学生が見つけた地域の価値を学生自らが発信することを通じ、情報リテラシーに関する実践的教育を行うことができたと同時に、地域に対して学生目線からの情報を蓄積し、資源として活用することができる先進事例を作ることができた。その結果、投稿アカウント数は 1314 件にまで増え、平成 28 年度末の 107 件から約 <u>1200%</u>に拡大した。また、本年度よりページビュー数の統計を取り始めたところ、<u>本年度は 61,246 回のページビュー</u>があった。</p>	

【5】しまねクリエイティブラボネットワーク

計画番号	計画内容	詳細
⑩	<p>地域コミュニティラボでは、地域ステークホルダーと島根大学が協働で展示企画を行い、地域の魅力を学生に向けて発信する展示を年 4 回程度行う。技術コミュニティラボでは、高等教育機関に所属する主に若手研究者が先端の研究について話題提供を行い、地域ステークホルダーの若手エンジニア・開発担当者らとディスカッションする双方向のミーティング型交流の場を年 3 回以上実施する。教育コミュニティラボでは、ものづくりを通し課題解決に必要な創造性を伸ばさせる教育を行う授業「ものづくりと創造性」の開講および市民参加型のワークショップ等を年 2 回程度実施する。</p>	p. 82-

具体的な取組	学生教育の観点での成果
<p>1) 「地域コミュニティラボ」において、地元自治体や企業、また一般市民との協働による学生向け地域資源展示を計5回行い、それぞれ779名、625名、892名、650名、253名の計3199名の来場があった。</p> <p>2) 「技術コミュニティラボ」を3回開催し(5/24、7/27、11/30)、大学・高専の研究者、学生・院生、自治体職員、地元企業エンジニア等が約60名参加した。また、しまね大交流会(⑦)と連携し、出展者交流会の時間帯に「技術コミュニティラボ in 大交流会」と題して、若手データサイエンティストによるLT(ライトニングトーク)で、近年、地域の関心の高いデータサイエンスに関する紹介を行った。</p> <p>3) 「ものづくりコミュニティラボ(昨年度に計画調書の「教育コミュニティラボ」から名称を変更)」においては、大学生向けの教養科目「ものづくりと創造性」を開講し8名の学生が、ものづくりをベースとしたPBLに取組んだ。また、同ラボを活用し、市民向けのものづくりワークショップを公開講座や松江・安来広域連携事業親子講座などの形式で4講座計24回提供し、小学生を含む47名が講座を受講した。</p>	<p>1) 「地域コミュニティラボ」を活用した展示の企画～設営といった一連のプロセスを通じ、一般市民団体も含む広い地域ステークホルダーが、それぞれが保有する地域資源の価値の再認識と探究の必要性に対する洞察を得、住民団体レベルからの地方創生のきっかけを提供することができた。同時に、大学内で地域資源に関する展示を行うことで、地域志向教育を行う複数の授業科目とのシームレスな連携が可能となり、学生教育に大きな効果をもたらした。</p> <p>2) 少人数・双方向型の最新技術に関するミーティングというスタンスをとって「技術コミュニティラボ」を実施したことで、<u>研究者と地元企業のマッチングが進み、商品開発に関する独自の勉強会が発足</u>するなど産学連携の新たな接点ができた。また、<u>高学年次の学部生や院生の参加もあり、本ラボを通じた企業の最前線で活躍するエンジニアとの交流は、彼らのキャリア教育に効果的であった。</u></p> <p>3) 「豊かな発想力・創造性を備えた課題解決能力の高い人材育成」という地域からの要望に応える人材育成の場所として、学生および社会人・一般市民を対象にした授業科目、公開講座、セミナー等の開催をすることができた。また本ラボは、学生からのニーズに基づいたものとなっており、ものづくりによる課題解決を志す学生らの取組を支援する体制を整えることができた。</p>

その他事業全般に係る事項

計画番号	計画内容	詳細
①	地域協創推進本部会議を開催し、平成30年度の本事業の事業計画を決定し、計画全体の進捗マネジメントを行う。(島根大学)	p. 96
具体的な取組	学生教育の観点での成果	

島根大学において地域協創推進本部会議（H30 年度から COC+推進会議）を 2 回開催し、本事業の年度計画全体の進捗マネジメントを行った（5/15, 6/11）。	地域協創推進本部会議（COC+推進会議）を開催し、事業の進捗をマネジメントすることで本事業の全学的推進が可能になった。
--	---

計画番号	計画内容	詳細
②	しまね COC+推進協議会を開催し、平成 30 年度の本事業の取組状況について報告し、事業計画の見直し・改善を行う。	p. 97

具体的な取組	学生教育の観点での成果
しまね COC+推進協議会を 3/26 に開催し、平成 30 年度の本事業の取組状況および次年度の計画概要を協議し、事業計画の見直し・改善を行った。また、今後の課題として、事業終了後の継続についても意見交換を行った。	県内各高等教育機関および事業協働自治体、事業協働機関の代表者によるしまね COC+推進協議会において、産官学それぞれの立場から本事業が地域の本質的課題により効果的に貢献するよう課題の洗い出しを行い、事業内容を精査することができた。これにより、地域未来創造人材の育成と、これを実行するにあたって必要な地域協働教育の体制整備の両側面から事業の実効性を高めることができた。また、事業終了後の継続についても方向性と検討課題を共有することができた。

計画番号	計画内容	詳細
③	教育プログラム開発専門委員会を開催し、本事業に係る各高等教育機関の教育プログラムを構成する事項について、企画・連絡調整・実施及び検証を行う。	p. 99

具体的な取組	学生教育の観点での成果
教育プログラム開発専門委員会を 2 回開催（5/15、2/13）し、本事業に係る教育プログラムを構成する事項について、本事業参加教育機関各所の取組内容の共有および、共同企画の調整を行った。また、本事業のフォローアップ結果および事業終了後の継続について協議した。	特に正課外において、各取組のより効果的な実施と有機的連携が確立され、学生が所属機関を越えて、より充実した地域志向型キャリア教育を受けることができた。また、事業終了後の継続に向けた方向性の共有を図ることができた。

計画番号	計画内容	詳細
⑪	本事業で取組む各プロジェクトの内容や取組実績について、ホームページや印刷物等各種メディアを用いた情報発信を行う。	-

具体的な取組	学生教育の観点での成果
1) 本事業の情報発信基盤として整備したオールシ	1) ~ 4) 各種メディアを活用し、本事業を広く PR

<p>まねCOC+情報ポータルサイトにおいて情報発信を積極的に行った。</p> <p>http://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/</p> <p>2) 定期刊行物「広報しまだい」に、COC/COC+事業の特集記事を掲載し、情報発信を行った。</p> <p>3) しまね大交流会(⑦)については、開催が一般市民にも広く浸透するよう島根県市町村振興センターの壁面広告、新聞折込広告など、多数の地域ステークホルダーの協力を得て広く情報発信を行った。</p> <p>4) 印刷物については、COC+事業パンフレット改訂版、しまね協働教育パートナーシップ(⑨)の登録事業所ガイドブック、技術コミュニティラボシリーズを作成し、学生や地域ステークホルダーへ配布した。</p>	<p>することで高等教育機関に属する学生だけでなく、県内の高校生、専門学校生およびその保護者を含む地域全体、また他地域への本事業の周知・プレゼンス向上につながった。</p>
---	--

計画番号	計画内容	詳細
⑫	平成29年度の本事業の一次(自己)評価と二次(外部)評価を実施する。	p.100
	具体的な取組	学生教育の観点での成果
	<p>本事業の1次評価および2次評価をそれぞれ6/11、7/2に行った。</p> <p>【1次評価結果】(評価点は5段階評価)</p> <p>I: 地域未来創造人材の育成 評価点3</p> <p>II: 異業種大交流会 評価点4</p> <p>III: しまね協働教育パートナーシップ 評価点4</p> <p>IV: しまねクリエイティブラボネットワーク 評価点3</p> <p>V: 地域情報アーカイブ Ago-Lab 評価点3</p> <p>VI: 全体 評価点3</p> <p>総合 評価点3</p> <p>【2次評価結果】(評価点は5段階評価)</p> <p>I: 地域未来創造人材の育成 評価点4</p> <p>II: 異業種大交流会 評価点3</p> <p>III: しまね協働教育パートナーシップ 評価点4</p> <p>IV: しまねクリエイティブラボネットワーク 評価点4</p>	<p>1次評価は、島根大学地域協創推進本部会議委員及び参加校、参加自治体の代表者で行い、その結果を用いた2次評価を学外の委員および高等教育機関の代表学生からなる評価委員会で行ったことにより、学生の意見や県外での取組との比較などを盛り込んだ実効性の高い事業改善を行えた。具体的な提言とそれに対する事業改善例としては、しまね大交流会(⑦)に関しては「事業終了後を見据えたコストシェアをさらに進める必要がある(1次評価)」という提言に対して、新たに島根県教育委員会との共催による高校生向けセミナー実施経費のコストシェアや島根県総務部による私立高校向けバス借り上げ代のコストシェアを実現することができた。</p> <p>また、しまね大交流会に、就職活動に関するイベントを含める又は情報を得られるようにすることが必要ではないか(2次評価)」との提言については、出展企業等のインターンシップ情報を配布資料に加え、出展ブースでもPRすることにより、2019年</p>

V：地域情報アーカイブ Ago-Lab 評価点 3 VI：全体 評価点 4 総合 評価点 4	1月～3月に実施するインターンシップ・企業見学等への参加を促進することができた。
--	--

計画番号	計画内容	詳細
⑬	平成 29 年度の年次報告書を作成する (7 月)。	-
具体的な取組	学生教育の観点での成果	
平成 29 年度の年次報告書を作成し、1 次評価および 2 次評価を行い (⑫)、これらの評価結果を掲載した平成 29 年度事業成果報告書として 9 月に刊行し、事業協働機関および関係各所に送付するとともに、Web サイトで公開した。	平成 29 年度の年次報告書を作成し、これをもとにして 1 次評価および 2 次評価を行うことができた。また、それらの評価結果を掲載し、平成 29 年度事業成果報告書として刊行し、関係各所へ配布したほか Web サイトに掲載し広く周知することができた。	

計画番号	計画内容	詳細
⑭	事業フォローアップの為のアンケートを実施する。	p. 100
具体的な取組	学生教育の観点での成果	
事業協働機関を対象としたフォローアップアンケート調査を 6/8 に実施した。その結果、 <u>平成 29 年度事業に対する満足度が 75%となり、目標値 65%を上回った。</u>	<u>アンケートを実施することにより、本事業の状況を客観的に分析することができた。満足していないと回答のあった団体は、担当者の変更等により COC+ 事業の理解が得られていない場合やメリットを感じていない場合が多く、COC+推進コーディネーターが積極的に事業協働機関との連絡調整を行うことにより現状把握に務め、より効果的な事業運営をすることができた。</u>	

計画番号	計画内容	詳細
⑮	平成 30 年度の事業の取組について報告する第 4 回事業成果報告会を開催する。	p. 74
具体的な取組	学生教育の観点での成果	
3/27 に第 4 回事業成果報告会を開催し、55 機関から 161 名 (うち企業・団体・行政 83 名、その他高等教育機関関係者等 78 名) の参加を得た。本事業のこれまでの取組・進捗状況、これまでの成果の総括および今後の課題と展開について報告した。また、本成	本事業のこれまでの取組・進捗状況、成果の総括および今後の課題と展開についての報告会を、しまね協働教育パートナーシップ (⑨) の登録団体を対象とした「オールしまね協働教育フォーラム」と合わせて開催したことにより、計画の全体像の共有およ	

2

3

4

5

6

7

8

<p>果報告会を、しまね協働教育パートナーシップ(⑨)の登録団体を対象に実施した「オールしまね協働教育フォーラム」と同時に3/27に開催し、来年度以降さらに地域協働での教育を円滑に取り組んでいくための理念共有と会場参加型ワークショップによる意見交換を行った。</p>	<p>び、学生を交えた参加者のワークショップを取り入れたことで地域協働教育の在り方について率直な意見交換ができ、学生の協働教育の理念の共有及び質の向上に寄与した。</p>
---	---

2

3

4

5

6

7

8

1-4. 本事業の年度別 KPI に対する進捗状況

本事業の目標値に対する本年度の実績は表 1-2 の通りであった。また、本年度までの各 KPI の推移を抜粋で図 1-3 に示す。

表 1-2：COC+事業計画申請時に文部科学省に提出した KPI に対する平成 30 年度実績

項目	H26年度 (基準)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		H31年度 (最終)
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標
事業協働地域就職率	35.1%	35.0%	34.7%	35.5%	42.5%	34.7%	45.1%
うち申請大学	32.0%	28.3%	28.9%	27.7%	39.5%	29.0%	42.5%
事業協働機関へのインターンシップ参加者数	343人	407人	500人	478人	439人	440人	473人
うち申請大学	148人	196人	185人	208人	208人	212人	221人
事業協働機関雇用創出数	0人	8人	10人	17人	5人	21人	5人
事業協働機関との共同研究・受託研究件数*	90件	111件	103件	111件	95件	114件	95件
しまね協働教育パートナーシップ参加企業・NPO等件数*	0件	12件	55件	136件	150件	203件	200件
大学以外の事業協働機関による事業への満足度	-	48%	82%	75%	85%	6月に調査	100%

*…本事業独自指標。その他は、COC+事業の共通成果項目

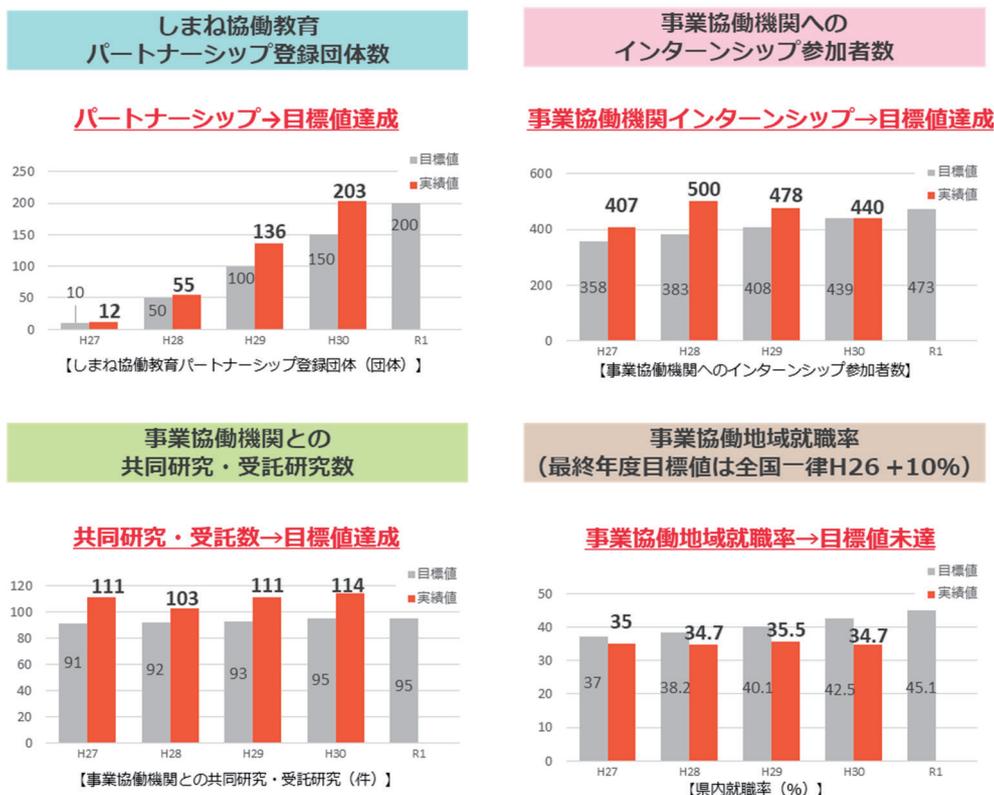


図 1-3：本事業の KPI の年度別推移

本事業の KPI のうち、事業協働機関へのインターンシップ参加者数やしまね協働教育パートナーシップ参加団体数、県内事業所との共同研究・受託研究数等は、年度目標値を上回ることができ、最終年度の目標を達成することが可能であると見込まれる。ただし、事業協働機関へのインターンシップ参加者数は、平成 28 年度の人数を最大値として減少傾向が近年続いている。おそらく県外で実施されるインターンシップにいわゆる 1 day インターンシップのような気軽に参加できるものが増え学生の選択肢が広がる一方、インターンシップへの参加が就職活動を行う際の前提条件化されるなど、インターンシップそのものの意味合いが重くなる傾向とも関連がある可能性が高い。この点は、しまね協働教育パートナーシップでの研修会制度などを充実させ、県外の動向も含めて本県でのインターンシップの強化を図る必要性がある。一方、事業協働地域就職率は高等教育機関全体としては目標値を下回ったものの、島根大学については平成 29 年度に比べ 1.3 ポイント増加した。島根大学の県内就職率については、県内出身者の割合と事業協働地域就職率は高い相関関係があることがわかっているが、平成 30 年度卒業者については、入学した年度の県内出身者の割合が近年で最も低かったにも関わらず県内就職率が平成 27 年度以降の実績値を上回る結果となった。平成 28 年度以降本格的に動き出した COC+事業の教育プログラムやしまね大交流会等の取組との関連性を今後調査していく必要がある。

平成 30 年 7 月から 10 月にかけて行われた文部科学省による本事業の平成 29 年度実施状況フォローアップにおいては、平成 29 年度の要因分析の提出が求められた。参考のため、その提出報告書の全文を次ページ以降に掲載する。平成 30 年度の状況についても、引き続き詳細な分析を行う必要がある。

2

3

4

5

6

7

8

＜平成 30 年 7 月提出フォローアップ実施状況報告書より指定項目書きを文章化＞

【本事業で設定した各 KPI における平成 29 年度の達成状況及び進捗状況】

■事業協働地域就職率

島根大学、島根県立大学、同大学短期大学部、松江工業高等専門学校を合わせた事業協働地域への就職率は、前年度と比較してわずかながら回復傾向にあるものの 35.5%と目標値の 40.1%を下回った。また、島根大学のみでも、目標値 36.5%に対して 27.7%という結果となった。表中には記載していないが、島根県立大学の平成 29 年度実績は基準年度の平成 26 年度から 12.7 ポイント上昇した。松江工業高等専門学校では、一貫して改善傾向にあり平成 27 年度から平成 29 年度までで 3.8 ポイント上昇した。この KPI に関して、学生全数における県内出身者の割合と、事業協働地域就職率は高い相関関係にあることが分かっている。COC+大学の学生就職状況の経年変化を更に詳しく分析した結果、島根県出身者が島根県に就職する割合は、基準年度である平成 26 年では 76.2%だったものが、平成 29 年度には 79.0%と 2.8 ポイント上昇している。この傾向は、隣県である鳥取県出身者の動向も含めても変わらず、島根県と鳥取県を合わせた山陰地域の出身者の、山陰地域への就職割合は基準年度の平成 26 年度で 79.9%だったものが、平成 29 年度は 82.1%と 2.2 ポイント上昇し、改善の傾向がある。しかしながら、島根県または鳥取県出身者の学生数は、卒業学年での比較で平成 26 年度→平成 29 年度は 2 割減となっており、地域における就職者実数は小さくなっており、地域就職率の変化に影響が及びにくくなっている。島根県商工労働部がとりまとめている雇用失業情勢および厚生労働省島根労働局の調査によると、島根県内の有効求人倍率の推移は、平成 26 年 3 月から平成 27 年 3 月まで横ばいだったものが、その後は上昇傾向のフェーズに入り、平成 30 年度 3 月時点における有効求人倍率は、島根県では「1.71」、全国平均では「1.59」と都市圏に本社を置く大手企業からの求人も増加している。このような社会情勢にあっても、島根県または山陰両県出身学生の、島根・山陰地域に対する就職割合が増加傾向にあることは、COC・COC+事業の取組成果が少しずつ現れてきた可能性もある。

総括的には、本事業のコア KPI である事業協働地域就職率向上には、COC 事業および本事業で取組む在籍学生に対する地域志向教育・キャリア教育の充実により、出身地を問わずこの地域で就職・活躍したい学生を増やすことに加え、県内高校からの進学者数の向上が必要である。後者においては、前述の通り各高等教育機関からも多数出展がある「しまね大交流会」を起点に、高等学校におけるキャリア教育分野で島根県教育委員会との連携強化をすでに開始した。また COC+大学では、COC・COC+事業を担当する地域未来戦略センターがこれまでの取組実績を活用し、アドミッションセンターとともに新たな高大接続事業を開始した。具体的には、島根県教育委員会が進める高校魅力化の取組と連携し、高等学校の総合的な学習の時間で取組まれる「地域課題研究」を支援する Web コンテンツの制作、出張講義、資料提供等の教育支援プロジェクトを平成 29 年度より開始した。

2

3

4

5

6

7

8

■事業協働機関へのインターンシップ参加者数

事業協働機関へのインターンシップ参加者数は 478 名と目標値を上回った。また、全ての高等教育機関で個別目標値を上回った。事業進捗としては順調で、事業協働機関であるふるさと島根定住財団によるインターンシップマッチングによるところが大きく、今後も継続した連携が必要である。

■事業協働機関雇用創出数

平成 29 年度事業協働機関雇用創出数は 17 人と目標の 4 人を大きく上回った。平成 27 年度からの累計も 35 人と目標の 19 人を上回った。これは事業協働機関である島根県の施策に基づいた業態拡大等により創出された雇用に対し、本事業に参加する高等教育機関からの就職者数を示しており、今後も島根県の産業振興・雇用促進対策と協働した取組の継続が必要である。

■事業協働機関との共同研究・受託研究件数

平成 29 年度の事業協働機関との共同研究・受託研究件数は、目標値の 93 件を大きく上回り 111 件となった。本事業における「しまね大交流会」や「しまねクリエイティブラボネットワーク」では、研究グループの立ち上げや知財創出等が報告されており、順調な事業進捗といえる。

■大学以外の事業協働機関による事業への満足度

満足度は平成 27 年度が 48%、平成 28 年度が 82%、平成 29 年度が 75%といずれも目標を上回っているが、平成 29 年度は前年度よりも数値が悪化した。これは、平成 29 年度は前述のパートナーシップ登録団体の個別企業・自治体等との連携が増え、事業協働機関であるこれら企業等を束ねる経済団体等との直接の連携が少なくなってしまうことが原因と考えられる。一方、パートナーシップキックオフセミナーの機会に調査したパートナーシップ登録団体の本事業満足度は 94%であった。この KPI により、事業協働機関との情報共有や事業取組の周知の仕方に課題があることが明らかになった。

■しまね協働教育パートナーシップ参加企業・NPO 等件数

COC+推進コーディネーターが企業訪問により参加を積極的に働きかけた結果、平成 28 年度に 50 件、平成 29 年度に 136 件と参加企業・NPO 等の件数を順調に伸ばし、平成 29 年度の目標である 100 件を大幅に上回り、順調な事業進捗である。今後はさらに、この制度を高等教育機関における学生教育に活用すると同時に、インターンシップや企業ツアー・しまね大交流会等の様々な地域協働教育の質の向上に資するよう地域の企業・自治体・NPO 等と教育機関の学び・自己研鑽の場を提供する。

以上、本事業の KPI のうち事業協働地域就職率を除き、事業協働機関へのインターンシップ参加者数やしまね協働教育パートナーシップ参加団体数等は年度目標値を上回り、最終年度の目標を達成することが可能であると見込まれる。

最終的な事業 KPI は、地元就職率の向上であるが、地元就職率を規定する大きな一因に高等教育機関における地元（島根）からの進学者率がある。各高等教育機関における COC 事業等による地域志向教育は、学生の地域への興味・関心の向上に大きく影響し、本事業ではそのための環境整備の点においては着実に成果をあげている。今後の取組としては、地元（島根）からの進学者増加に向け、これまでの事業でカバーが不十分だった高大接続や入試改革と密接に関連する分野で、地域を巻き込んだ取組がどれだけが進められるかにかかっていると見える。これについては、島根大学では COC/COC+事業を担当する地域未来協創本部がこれまでの取組実績を活用し、アドミッションセンターとともに新たな高大接続事業を開始した。具体的には、本県の高等学校における総合的な学習の時間で取組まれることが多い地域課題研究を支援する動画コンテンツ「そもそも」の制作・公開を行っている¹。しまね大交流会の高等学校での利用など、COC/COC+事業を起点とした高等学校と大学等とのさらなる連携を促進できるよう実効性の高い事業運営を行っていききたい。

1

http://www.shimane-u.ac.jp/_common/images/01/stories/profile/file_profile/admission/html/index.html

第2章. 地域未来創造人材の育成

本事業における人材育成に係る取組は、いわゆる授業科目としてではない「正課外教育」と、授業として行われる「正課教育」に区分することができる。本事業で連携する高等教育機関は、それぞれが各専門分野に特化した教育を行うと同時に、「地（知）の拠点整備事業（COC 事業）」の成果としてそれぞれの機関特性を活かした地域志向教育を行っている。また、授業開講時間帯が一樣でないなど、正課教育を共同実施することによるメリットを享受しにくい。一方、正課外教育は、授業科目の開設・運営に比べ、格段に弾力性・柔軟性が高いことから、学生および地域のニーズに見合った取組を教育機関の別を超えて展開可能であり、「事業目的＝若年層の東京一極集中の解消」を達成するために極めて有効である。そこで、正課外教育の新しいしくみを、地域の協働教育組織（第4章：しまね協働教育パートナーシップ）を構築しながら、地域と教育機関とが共にその取組方を考え、様々な試行を行っている。

そこで、本章は以下の構成で平成30年度（2018年度）の取組を報告する。

2-1. 高等教育機関間共同実施型の正課外教育に関する取組（企画別）

2-2. 各教育機関における正課教育に関する取組（高等教育機関別）

2-1. 正課外教育における取組（事業計画⑥）

学外において実施される地域協働型で学生のキャリア教育に資する取組としては、学生と企業の交流会、地域インターンシップフェア、企業ツアーといった種類があり、全国のCOC+事業で積極的に取組まれている。本事業においても、昨年度よりもそれらの取組を強化し、確定数で1300名（昨年度570名）を超える学生が正課外の教育活動に参加した（概数による報告を削除した合計数であり、実際はさらに多い）。それらに加え、本事業では、しまね大交流会（第3章参照。参加学生数約1500名）を実施している。この項目では、主たる企画別に正課外教育として行った地域協働型のキャリア教育の取組実績を報告する。

（1）島根県による企画

平成29年度までのCOC+事業の取組成果や様々な試行を経て、当該年度より本格的に島根県の費用負担にて、正課外の地域志向型キャリア教育支援が得られた。正課外教育として行う地域志向型キャリア教育には、主として高等教育機関の構内で実施する地域の社会人と学生が交流するイベント（①交流会型と呼称）、高等教育機関の学生や教職員がバスなどを利用して地域に赴くツアー（②現地訪問型と呼称）、インターンシップを検討する学生のための情報提供の場（③インターンシップフェアと呼称）といった、全国的にも実施されているアプローチに加え、④地域の企業等とタイアップして行う課題解決型の教育研究の支援の4つに大別可能である。①～③の取組は、主に島根県商工労働部雇用政策課が担当しており、その実施の概要を表2-1・2に示す。島根県による企画のうち①～③の区分に相当する正課外教育だけで、参加学生は概数でも877名となり昨年度から大幅に増加した。

表 2-1：島根県による高等教育機関向け正課外地域志向型キャリア教育支援

日時		テーマ	学生参加人数	備考
●島根大学の学生を主な対象とするもの				
①交流会型	5月23日(水)	12:00~13:30	第1回トーク交流カフェ 「いきいき働ける職場！」 *しまねいきいき雇用賞受賞企業が参加	8 ・(株)バイタルリード/出雲市 ・島根電工(株)/松江市 ・ワコムアイティ(株)/松江市
	7月11日(水)	12:00~13:30	第2回トーク交流カフェ 「しまねの“IT業界”を知ろう」	17 ・山陰合同銀行 ・島根銀行 ・島根中央信用金庫
	10月17日(水)	12:00~13:30	第3回トーク交流カフェ 「しまねの“IT業界”を知ろう」	12 ・株式会社ネットワーク応用通信研究所 ・株式会社テクノプロジェクト ・エクスウェア株式会社
	12月5日(水)	12:00~13:30	第4回トーク交流カフェ 「島根県で働く若手社員のホンネが聞きたい！」	6 ・(株)出雲村田製作所 ・(株)山陰中央新報社 ・島根トヨタグループ
	2月13日(水)	12:00~13:30	第5回トーク交流カフェ 「しまねで働く魅力を知ろう！-建設・小売・公務のセンパイに聞く！-」	4 ・島根電工(株) ・島根日野自動車(株) ・公務員
②現地訪問型	5月26日(土)	8:00~18:00	しまねDEEPまちツアー【A: 飯南町】	13 ・飯南町注連縄企業組合 ・(株)なつかしの森 ・社会福祉法人友愛会 ・ミセスロビンフット ・飯南町本庁舎 ・飯南町観光協会
	5月26日(土)	8:00~18:30	しまねDEEPまちツアー【B: 出雲市】	9 ・出雲鉄工(株) ・(株)バイタルリード ・出雲大社神門通り散策 ・コミュニティスペース「ツドリバ-RO-」 ・今市町付近散策
	5月30日(水)	12:40~18:40	しまねDEEPまちツアー【C: 奥出雲町】	12 ・(株)ニッポー ・東洋製鉄(株) ・古民家オフィスみらいと奥出雲
	5月30日(水)	12:00~18:40	しまねDEEPまちツアー【D: 雲南市】	7 ・入間交流センター ・島根イーグル(株) ・(株)吉田ふるさと村
	6月2日(土)	8:00~18:00	しまねDEEPまちツアー【E: 大田市】	16 ・(株)イワミ村田製作所 ・(株)necco ・(株)石見銀山生活文化研究所・群言堂 ・大森町散策 ・(株)シバオ ・石見銀山世界遺産センター
	6月6日(水)	12:45~17:15	しまねDEEPまちツアー【F: 安来市】	10 ・日立金属安来工場 ・(株)キクチテクノクス ・安来市役所
	10月20日(土)	7:30~19:30	しまねDEEPまちツアープラス【邑南町】	13 *コース別に邑南町内企業等を訪問
	2月7日(木)	12:45~15:50	しまねWORK発見バスツアー	24 ・(株)テクノプロジェクト ・(株)出雲村田製作所 ・東京靴(株) ・皆美グループ ・島根電工(株) ・(株)山陰合同銀行
③インターンシップフェア	5月30日(水)	14:30~18:00	しまねインターンシップフェア	189 ・(株)パソナテック ・社会福祉法人ひまわり福祉会 ・(株)イーウェル ・(株)玉造皆美 ・(株)さんわファクトリー ・(株)バイタルリード ・(株)伸興サンライズ ・(株)玉造温泉まちデコ ・マリエ・やしろ(株) ・(株)中筋組 ・島根県信用保証協会 ・島根トヨタグループ ・(株)島根富士通 ・大塚ファーム
			小計	340

表 2-2：島根県による高等教育機関向け正課外地域志向型キャリア教育支援（続き）

●島根県立大学の学生を主な対象とするもの					
①交流会型	11月16日（金）	18：30～20：30	島根県立大学浜田キャンパス 第1回ナイトワークカフェ	11	・(株)シマネプロモーション ・マルハマ食品(株) ・浜田市役所 ・島根トヨタ自動車(株) *公益財団法人ふるさと島根定住財団 共催
	12月12日（水）	12：30～14：35	島根県立大学松江キャンパス トーク交流 カフェ	74	*島根県中小企業家同友会 共催
	1月21日（月）	18：30～20：30	島根県立大学浜田キャンパス 第2回ナイトワークカフェ	11	・(株)大屋ハイテック ・(株)ヒューマンシステム ・(株)メディアスコープ ・石見ケーブルビジョン(株) *公益財団法人ふるさと島根定住財団 共催
③インターン シップフェア	11月7日（水）	15：00～18：00	インターンシップフェア	19	・山陰合同銀行 ・島根トヨタグループ ・島根電工(株) ・ジュンテンドー ・東京靴 ・ミック ・マルハマ食品 ・トップ金属工業江津工場 ・和幸情報システム ・島根県農業協同組合 ・Dramatic CIMANE ・e-Front島根支社
				小計	115
●松江工業高等専門学校の学生を主な対象とするもの					
①交流会型	6月13日（水）	13：00～16：00	第1回 松江高専3年生と県内の先進技術企業との交流会【環境・建設工学科】	約200	・松江高専だんだん技術士会
	6月22日（金）	14：40～16：10	第1回 松江高専3年生と県内の先進技術企業との交流会【電気情報工学科・電子制御工学科・情報工学科（3科合同）】		・(株)ニッポー-島根工場 ・島根自動機(株) ・シマネ益田電子(株)
	7月10日（火）	14：40～16：10	第1回 松江高専3年生と県内の先進技術企業との交流会【機械工学科】		・イワタクリエイト（株）
	2月13日（水）	10：35～12：10	第2回 松江高専3年生と県内の先進技術企業との交流会	約200	・(株)オーエム機械 ・(株)キグチテクニクス ・(株)八雲ソフトウェア ・パナソニックESソーラーシステム製造(株) ・(株)エブリプラン ・(株)トーフエンジニアリング ・三菱マヒンドラ農機(株)
②現地訪問型	8月29日（水）	8：45～15：45	松江高専企業見学ツアー【西部コース】	4	・シマネ益田電子(株) ・大見工業(株)益田工場 ・サン電子工業(株)益田工場
	9月5日（水）	8：45～16：30	松江高専企業見学ツアー【東部コース】	18	・(株)テクノプロジェクト ・小松電機産業(株) ・清和鉄工(株) ・島根富士通(株)
				小計	422
				合計参加学生	877

この区分①～③の取組について、特に今年度新規で開催した内容について、抜粋で報告を行う。

②現地訪問型に区分した「しまね DEEP まちツアー」シリーズは、これまで島根県等が実施してきた企業ツアーとは、次の点で異なる新たな取組として本年度予算化され、島根県商工労働部雇用政策課とともに開発・実施した。

＜しまね DEEP まちツアーの特色＞

- ツアーは市町村単位で計画し、その自治体の特徴や地方版総合戦略等で特に力を

入れていること（UI ターン、空き家活用等）をテーマにしたツアーを、受入自治体側担当者が企画。

- 島根大学の地域志向型初年次教育科目である「スタートアップセミナー」（教養育成科目。授業設計の詳細は平成 29 年度の本事業成果報告書を参考にされたい）の授業内容と連動して実施した。漫然とツアーに参加するのではなく、授業で行われるチームプロジェクトに必要な「地域の情報」を学生自らが収集していくという目的を明確化。ただし授業時間としてカウントせず、参加は自由意志に基づく。
- 授業と連動したツアーではあるが、授業を受けていない学生・院生、留学生のほか、教職員が積極的に参加し交流を行った。

この企画では、統一様式でのアンケートを実施できたので、その結果の一部を抜粋し、報告する。ツアー参加の満足度および次回参加への意識についての調査結果を図 2-1 に示す。

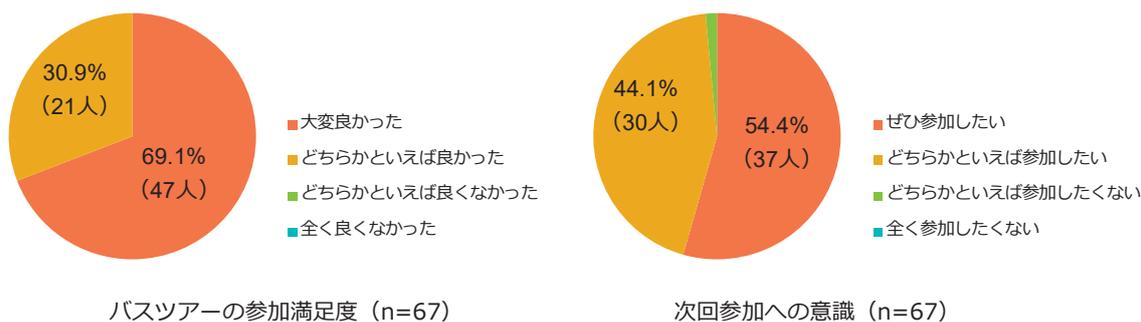


図 2-1：しまね DEEP まちツアー参加者へのアンケート結果（抜粋）

また、感想等を抜粋する。

<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップセミナーでは飯南町をフューチャーするわけではなかったのですが、地域としての取り組みやスタンスをととても勉強できた。 ・県外から来たので島根についてあまり知らなかったのが島根の人の熱意を強く感じられてよかったです。 ・初めて来た土地でも人々の魅力や食べ物の美味しさを気づくことができました。 ・ツアーがなかったら行く機会がなかったと思うので、貴重な経験ができたと思うから。 ・どの場所でも、自分が想定していた以上に詳しく説明してくださったり、雲南についての思いがすごかったから。 ・自分一人では足を運ばない、運べない場所に行けた。 ・工場見学など、普段はできないような体験ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答の時に他の人や先生方と企業の方のやりとりがとても参考になった。 ・食事の時の会話が楽しかった。 ・島根の知識が全くないまま進学してしまったので、4年間で少しでも多く島根の良さをみつけるという目標に近づけたと思う。 ・1つ1つの訪問先をもう少し詳しく見学できればよかったかなと思います。 ・Very interesting place, most of the enterprise have exist more than 100 years. (留学生) ・松江キャンパスのため、出雲に行く機会があまりありませんでした。今日のツアーを通して出雲について学びとても充実した一日となりました。 ・正直、出雲は出雲大社しかないだろうと思っていました。しかし今日のツアーで坂根屋や旭日酒造などがある商店街はと 	<ul style="list-style-type: none"> ても魅力的だと思いました。友達に広めていきます。 ・出雲鉄工では面白い社長さんの話をきくことができ、人との出会いや縁の大切さを学ぶことができた。今市では自分の地元と同じように、かつては栄えていたが少し今はさびれてしまった商店街を見学して、現状の課題と魅力を知ることができた。 ・話をしてくださった方との距離がとても近かった。観光地ではなく商店街に行ったことで、地域の実際の様子がよく分かった。 ・日本の文化だけでなく島根県、そして出雲の文化も勉強することができました。その学んだことをマレーシアにいる日本人の先生に報告することもできて、自分もうれしく感じています(留学生)。
--	--	--

しまね DEEP まちツアーは、参加学生の満足度も高く取組としては成功したと言える。一方、授業と連動したことにより、低学年次でもこのようなバスツアーに参加する目的が明

1

2 地域未来創造人材の育成

確化されたこと、また、ツアーへは自由意志に基づく参加だったことから、参加学生の意識も高く、活性の高いディスカッションが目立った。教職員も参加可能にしたことにより、教職員自身が県内の魅力に気づく機会になったと同時に、受入自治体側の担当者にとっても普段の行政職の経験を活かす良い場となり、まさに三方良しの企画となった。一方、授業と連動させているがために、ツアー催行好適時期が限られ、同日複数ツアー開催など、引率やフォローアップの面からは改善の余地がある。また、水曜午後で開催したツアーは参加者が少なくなる傾向があり、開催曜日についても検討を要することが明らかとなった。最後に、スタートアップセミナーの受講者でこのツアーに参加した学生は、その後のチーム活動で活発な取組が行われる傾向があり、高い教育効果が見込まれるものの、バスツアーを「フィールドワーク」として機能させるための事前学習に改善の余地が見られた。いずれにせよ、当該授業科目を運営する上で重要な経験を学生負担が少なく実施できた点については、従前とは大きな違いである。前述の感想の抜粋の中にもあるように、島根の良さを見つけたいという学生がいて、彼らのその願望が達成されたのであれば、人材の還流や流出超過の低減などにつながる、その第1歩ともいえる「島根に対する誇り」の醸成が行えたと考える。以下、このしまね DEEP まちツアーを含む区分①～③の取組の記録写真を抜粋して掲載する。

3

4

5



6

7

8

インターンシップフェア①
(島根大学松江キャンパス 5月)



インターンシップフェア②
(島根大学松江キャンパス 5月)



しまね DEEP バスツアー
(奥出雲町コース 5月)



交流カフェ
(島根大学松江キャンパス 7月)



ナイト・ワークカフェ

(島根県立大学浜田キャンパス 11月)



トーク交流カフェ

(島根県立大学松江キャンパス 12月)

さて、島根県が主催する正課外教育のうち④の取組は、COC+事業と連動した県の取組として、平成28年度より継続実施している「インターンシップ等受入企業改善提案事業」である。島根県商工労働部産業振興課がこの事業を担当しており、高等教育機関の学生・教員協働型で地域の企業の課題解決を行う。この取組みにより、地域における企業インターンシップの可能性を広げるような先行事例の開拓が可能となる。これについて本COC+事業を行う大学・高等専門学校が島根県より委託を受け、各機関内で公募・採択を行い、表2-3のとおり計12件の事案に取組んだ。同表に各事案の連携先および取組テーマを示す。秘密保持上の理由から、各取組の詳細な成果については本報告書には記載しないこととする。

表2-3：平成30年度インターンシップ等受入企業改善提案事業 採択案件一覧

No.	代表者	連携先	テーマ	参加学生	参加院生
1	島根大学 総合理工学部 教授 藤田 恭久	キシ・エンジニアリング 株式会社	新機能機械製品の提案及び設計	3	1
2	島根大学 総合理工学部 准教授 李 樹庭	株式会社 日立メタルプレジジョン	金属部品の精密な鋳造方法に関する研究	3	2
3	島根大学 生物資源科学部 教授 一戸 俊義	株式会社 浜田メイブル牧場	浜田市の大規模乳牛飼養企業でのインターンシップおよび飼養状況調査	2	1
4	島根大学 キャリアセンター 准教授 丸山 実子	中浦食品株式会社	食品開発プロジェクト	3	0
5	島根大学 人間科学部 准教授 宮崎 亮	株式会社さんびる	児童対象の運動教室における運動強度・パフォーマンスなどの確認と、それに基づく科学的アドバイスの提案	5	0
6	島根県立大学 総合政策学部 准教授 ヘネベリー・スティーブン	株式会社石見麦酒	石見麦酒の地ビールを、特に外国人観光客に広めるための方策について	3	0
7		カナツ技建工業株式会社	学生のためのインターンシップ設計	6	0
8		株式会社 テクノプロジェクト	会社を有名にするためのCM作成	5	0
9		株式会社ダイハツメタル	からくり改善を用いた台車の改善	5	0
10	松江工業高等専門学校 機械工学科 教授 山根 清美	オーエム金属工業株式会社	展示会での企業チラシの改善	3	0
11		ヤンマーキャステクノ 株式会社	ピストンの砂型の持ち上げ・運搬作業の負担軽減	4	0
12		株式会社 日立メタルプレジジョン	ショットプラスト設備のホース交換における設備停止時間の短縮	5	0
合計				51	

(2) ふるさと島根定住財団（石見事務所）による企画

ふるさと島根定住財団石見事務所では、島根県立大学との共催事業として「Deep Iwami 1day tour」を以下の通り開催した。

事業名：	島根県西部地域で活躍する社会人と出会うバスツアー「Deep Iwami 1day tour」		
実施日時：	平成30年8月6日（木）9：45～18：00		
概要：	<p>課題先進地といわれる島根で活躍する「人」にスポットを当て、なぜ石見地域で働き、どんな想いで暮らしているのかを聞き出し、その答えから自分の人生自身自身の深堀りすることをねらいとして企画した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング ・現地訪問（3社：） ・振り返りワーク 		
連携先：	<p>【案内役】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三浦大紀キャリアプランナー（㈱シマネプロモーション） <p>【訪問先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)真砂 ・㈱益田公房 ・シマネ益田電子(株) 		
実施主体：	主催：ふるさと島根定住財団石見事務所 共催：島根県立大学	参加学生数：	11名



(有)真砂訪問の様子



振り返りワーク&交流会

満足度は、全行程を通じて100%（5段階尺度で「非常に満足」と「満足」の回答割合を合算）となり、振り返りのワークにおいても感想や気づきを共有し、学生同士の交流も活発に行われた。レクチャー形式でただ話を聞くよりも、主体的かつ積極的な参加を促すことができ、学生の興味・関心・行動へのきっかけを醸成することができた。

(3) 島根県技術士会青年部による企画

島根県技術士会青年部が主催し、松江工業高等専門学校および島根大学と共に開催した企画である。単に交流を深めるだけでなく、技術士会の青年部に所属する技術士らが、問題解決の方法についてワークショップ形式で学生に教え、社会人として必要な論理的思考やプレゼンテーション能力などを学生が学ぶ場であり、自由時間には、学生からの実際の業務についての質問や進路選択に対する悩み相談などに応じ、キャリア教育としての効果が高い取組となった。

事業名：	課題解決ワークショップ		
実施日時：	平成 29 年 12 月 9 日（土） 10:30～17:00		
概要：	10:30～ 開会 11:00～ 第一部（技術士によるキャリア相談タイム） 12:00～ 昼食 13:00～ iPad 使い方講座 13:15～ 第二部（課題発表・解決） 15:45～ プレゼン 16:45～ 審査・表彰・閉会		
実施主体：	島根県技術士会青年部	参加学生数：	19 名
			
課題解決ワークショップの様子		発表会の様子	

(4) 高等教育機関による企画

① 島根大学

島根大学においては、昨年度に実施した学内の各部局による学生のキャリア教育に資する取組に対する支援事業を行った。その取組を表 2-4 に掲載する。

表 2-4：県内企業等研究活動支援事業（島根大学）実施一覧

No.	日時	事業名	実施主体	参加学生数
1	12月22日	COCコース生と社会人との交流ワークショップ (未来づくりセミナー内)	地域未来協創本部	27
2	1月29日	学生の地域活性化実現のための進路探し(江津)	生物資源科学部	6
3	2月4日	島根県の文化振興団体研究 「公立文化施設運営と地域における文化事業の課題」	教育学部	15
4	2月7日	学生の地域活性化実現のための進路探し(雲南)	生物資源科学部	8
5	2月8日	業界研究フェア	キャリアセンター	51
6	1月18日	山陰地域の企業・団体・施設における 低学年からのインターンシップ	人間科学部 (身体活動・健康科学コース)	14
7	12月7日	山陰地域の企業・団体・施設における 低学年からのインターンシップ	人間科学部 (心理学コース)	7
8	2月8日	精神保健福祉士の仕事とは	人間科学部 (福祉社会コース)	23
	2月12日 14日	福祉社会2年生インターンシップ (高齢者デイスサービス訪問)	人間科学部 (福祉社会コース)	21
9	2月21日	学生と企業技術者による合同研究技術発表会	総合理工学部 生物資源科学部	76
10	2月26日	就活直前合宿	キャリアセンター	29
合計				277

上記のうち、昨年度までの取組をさらに発展させた「学生と企業技術者による合同研究技術発表会」について、特に大きな効果があったため、企画を担当した山田容士教授による文書を基に抜粋して報告する。

事業名：	学生と企業技術者による研究技術発表会	
実施日時：	平成 31 年 2 月 21 日 (木) 13:00~16:30	
概要：	<p>13:00~ オープニング</p> <p>13:10~ 1min ショート プレゼン</p> <p>14:00~ 休憩・配置換え</p> <p>14:10~ ポスターセッ ション</p> <p>15:40~ 休憩・配置換え</p> <p>15:50~ 意見交換会</p> <p>16:20~ クロージング</p>	<p>学生と企業の情報交換、大学と企業との研究協力、配属前学生の企業活動と大学研究活動の比較情報提供のため、学部生・院生、および企業で開発・研究する技術者の活動を紹介する場を提供した。企業側発表者は総合理工の学生の就職先や共同研究先として考えられる近隣企業 15 社であり、学生側発表者は理工特別コース 3 年、島大大学院に進学する 4 年生、大学院 M1 学生による 26 件であった。また、聴講者は学部内の学生約 50 名、教職員約 45 名、企業・公的機関 43 名であった。</p>
効果：	研究会の参加者は 160 名を超え、ポスター発表の 1 時間 30 分の間、途切れる	

ことなく意見交換が交わされていたことは、本発表会の当初の目的に沿った形で実行できたと考えられる。終了後の発表者へのアンケートから、つぎの効果が認められる。

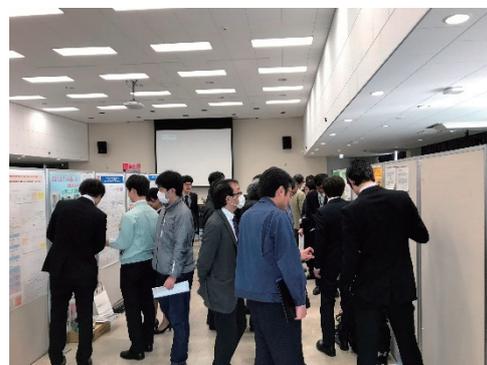
1. 企業側への効果：島根県内の大学・企業で多様な研究が行われていることを知らしめることができた。特に、学生の発表に対して、企業活動と直接交わらない研究であっても技術者の興味を引き、抱えている課題を別の面から考えるきっかけとなりうるものであった。

2. 学生への効果：企業技術者から研究に対するアドバイスを得ることができ、大きな刺激を受けた。企業の技術者と話す機会を得、企業はどのような観点でものを見ているかを知ることができた

実施主体： 島根大学総合理工学部・生物資源科学部 参加学生数： 76名



ポスターセッションの様子①



ポスターセッションの様子②

このほか、しまね協働教育パートナーシップ登録団体の協力を得て、学生と地域がともに取組むプロジェクト「コミュニティイノベーションチャレンジ（以下 CIC）」を今年度も説明会を開催し、表 2-5 のプロジェクトが取組まれた。CIC は、次項で報告する「キャリアデザインプログラム」の中にも組み込まれており、当該年度はのべ 58 人がこれに参加した。

表 2-5：平成 30 年度 CIC 実施プログラム一覧

No.	プログラム	提供団体	参加人数
1	出雲の魅力・企業の魅力伝えるプロジェクト	出雲地区雇用推進協議会	5
2	「稗原マルシェ」で六次産業化実現プロジェクト	稗原マルシェ実行委員会	24
3	「採用の最前線」求む！学生アンバサダー	タスクターニング株式会社	4
4	雲南コミュニティキャンパス うなんんチャレンジSpring Camp 2018	雲南市	5
5	木次線活性化プロジェクト	JR木次線出雲大東駅指定管理者つむぎ	3
6	ベンチャーキッズスクールin未来博	株式会社まちぐるみ	3
7	島根でSDGsを広めるプロジェクト	JICA中国	6
8	子供向けIoT&プログラミング 育成プロジェクト	だんだんパソコン倶楽部	3
9	Let's create! ～あなたの夢をグラウンドキャンパスに描こう～	松江山本金属株式会社	3
10	朝酌川さくら祭り	学園通り商店街振興組合	2
合計			58

③その他の取組

・しまね大交流会

本事業を特色づける地域協働型の取組である。初発は産学連携等の強化に主眼を置き、大学・企業等とのネットワークづくりを活発化することに重きを置いていたが、学生のキャリア教育にも適した場であることから、平成28年度にキャリア教育としての取組目的を付加して実施されてきた。詳細は第3章にて報告を行う。

2-2. 各高等教育機関における地域未来創造人材育成のための取組（高等教育機関別）

(1) 島根大学（事業計画④-1 および⑤）

①地域志向型初年次教育の全学必修化と「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」による教育改革の継続（事業計画④-1）

当該年度より地域志向型初年次教育科目の全学必修化するため、平成29年度の本COC+事業の計画ではその準備を全学的に行い、既設科目の教育内容の見直しと改善を行った。その結果25科目が地域志向型初年次教育科目に指定された。これにより、当該年度において全ての学部の専門教育科目および全学共通教育科目において地域志向型初年次教育科目が開講され、延べ1198名が受講し、当該年度1年生全員（休学者等除く）が地域志向型初年次教育科目を履修した。

また、島根大学では、地（知）の拠点整備事業（以下COC事業）（平成25～29年度）の終了後も継続して地域志向教育を軸とした大学教育改革を行っている。その特色は、地域を扱う授業科目を各分野の専門科目と切り離した独立型で実施するのではなく、地域志向科目と専門教育科目の有機的な連携を図っている点にある。すなわち、前述の地域志向型初年次教育科目を含む「地域基盤型科目（ベースストーン科目：以下BS科目）」を低学年次向けに開講し、島根県を中心とした地域の事例を扱うことで専門教育への動機づけを行い、また、ある程度専門分野に関する知識が深まった段階において「地域課題解決型科目（キャップストーン科目：以下CS科目）」を受講することで、地域課題の解決に専門教育を応用することを学べるような体系としている。また、これらについて「地域志向教育の充実に向けた基本方針」を定め²、地域志向教育科目の定義を以下の通りとしている

BS科目：教養育成科目又は各学部の専門教育科目のうち、地域の基礎的な現状と課題について学習することのできる科目であり、かつ、地域社会との関わりを通じて大学で専門領域を学ぶことへの意欲を喚起できる科目
CS科目：各学部の専門教育科目のうち、身に付けた知識と経験を課題解決能力の修得につなげる科目

² <https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/policy/local.html>

平成30年度は、地域志向教育科目のうちBS科目を90科目、CS科目を107科目開講した。BS科目には、本COC+事業で開発した授業科目「地域未来論」および「実例ビジネス開発論-社会構造の変化に対応する新しい価値の共創-」が含まれ、PBLを組み込んだアクティブラーニングの要素をこれまでより強めた教育方法を試行し、それぞれ74名・14名がこれらの科目を受講した。また、BS・CS科目全体の履修学生は、BS科目がのべ7037名、CS科目がのべ3657名となり、合計でのべ10694名の学生が地域志向科目を受講した。図2-2に示した通り、地域志向科目を受講する学生数は、経年的に増加してきたが、当該年度においてはその数がほぼ前年並みとなっている。これは、COC事業最終年度に当たる平成29年度が、本学としての地域志向科目の全体像が完成した年度に当たるためである。この観点からは、当該年度はCOC事業を不足なく継承していると言えるが、刻々と変わる社会の様相や地域の課題に対応し、その教育内容の改善を引き続き行っていく必要がある。また、事業計画④-1において計画した「入学直後から3・4年次の地域における中・長期インターンシップまで全学年を通して地域をフィールドとした地域志向教育を体系的に実施する」とある部分については、後述のCOC人材育成コースの教育プログラムとして取り組んだので、別途報告をする(p.41～)。

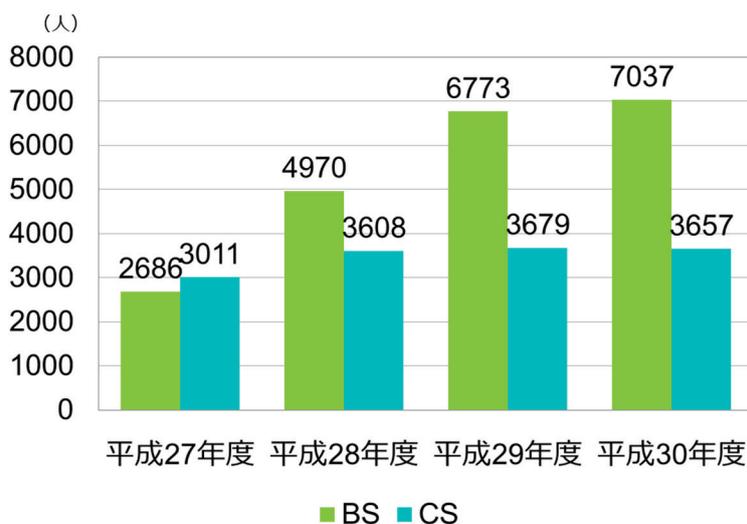


図2-2：BS科目・CS科目履修者数の経年変化

②地域未来創造人材を育成する教育プログラムの実施（事業計画⑤）

島根大学においては、本事業により「キャリアデザインプログラム」と「COC人材育成コース」の運営を行っている。前者は、COC+事業で新たに構築した地域協働型のキャリア教育プログラムであり、後者は、COC事業で構築した「地域貢献人材育成入試」による入学生の教育コースである。それぞれの教育プログラムについて、当該年度の取組を次の通り報告する。

【②-1：キャリアデザインプログラム】

キャリアデザインプログラム（以下 CDP）は、島根大学が本事業で構築した教育プログラムである。平成 27 年度に本プログラム構築のためのワーキングを立ち上げ、平成 28 年度に地域ニーズの調査等を行ってプログラムを構築、平成 29 年度より学生のプログラム履修を開始した。その特色は、第 3 章で報告する「しまね大交流会」、第 4 章で報告する「しまね協働教育パートナーシップ」を最大限に生かし、前項の正課外教育と正課科目を組み合わせた「地域協働型で実施するキャリア教育プログラム」という点にある。なお CDP の運営は、教育・学生支援機構キャリアセンターおよび教育・学生支援部学生支援課が担当している。

a. プログラム履修状況

CDP のホームページやパンフレット、PR 動画を用いて、特に新入学生に対して重点的に発信を行っている。CDP の履修登録は入学年次（1 年次）のみとなっているが³、昨年度の入学生の CDP 履修者数 140 名に対し、当該年度は 175 名の登録となった（図 2-3）。これは、各学部・学科のキャリア・就職担当教員の協力により、各学部・学科が行う入学時のガイダンス等で、CDP の説明を重ねたことによる。よって、履修者数の合計は 347 名となり、入学生（1 年生）に限っても 175 名と、本事業申請時の当初計画（入学者数の 10% に相当するおよそ 110 名）を上回る履修者数を獲得することができた。

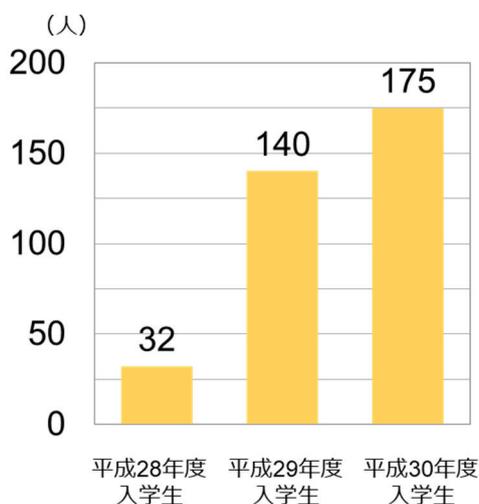


図 2-3：各年度の入学生の CDP 履修登録者数（CDP 登録は入学年次のみ）

³ CDP を履修開始した平成 29 年度のみ 2 年次から（すなわち平成 28 年度入学生）の履修希望者も受け入れた。

b. CDP 履修者を対象としたセミナー等の実施

CDP は、授業科目と正課外教育の受講で構成されている。正課外教育には、第3章で報告する「しまね大交流会」や、地元企業等とのプロジェクト「CIC：コミュニティイノベーションチャレンジ」⁴その他 CDP 関連プロジェクトなどの正課外教育を CDP の修了要件に組み込んでいる。これらの正課外教育のうち、社会人基礎力向上のための CDP 履修者を対象としたセミナー等の実施について表 2-6 に本年度の開講一覧を示す。

表 2-6：平成 30 年度 CDP 履修者対象セミナー一覧

内容 No	日程	時間	内容	講師等	CDP 1年	CDP 2年	CDP 3年	CDP 以外	教員	職員	その他	合計
1	① 5月23日(水) 同一内容反復実施	14:30~16:00	「キャリアとマネープランニング講座」	日本銀行松江支店 ファイナンシャルプランナー 池原元樹氏	38	4	0	3	0	0	0	45
2		16:15~17:45			5	3	0	1	0	0	0	9
3	② 6月1日(金)	18:00~19:30	「FridayNIGHT★キャリアサロン」	パナソニック株式会社 ホームアプライアンス開発センター 濱田長生氏	16	3	3	0	0	0	0	22
4	③ 6月6日(水)	14:30~16:00	「島根県立大学生と遠隔TVで繋がろう」 ○県立大学と合同実施	島根大学 丸山実子 島根県立大学 田中恭子	15	2	1	0	0	0	4	18
5	④ 6月20日(水)	14:30~16:30	「伝えたいことが伝わる！ビジュアルデザイン基礎講座」① ビジュアルデザインの基礎	島根大学 高須佳奈	3	2	0	9	0	6	1	21
6	⑤ 6月27日(水)	15:30~16:30	「伝えたいことが伝わる！ビジュアルデザイン基礎講座」② 制作物ブラッシュアップ講座	島根大学 高須佳奈	1	0	0	2	0	5	0	8
7	⑥ 7月4日(水) 同一内容反復実施	14:30~16:00	「ローカルジャーナリスト田中輝美さんのマイキャリアストーリー」	ローカルジャーナリスト 田中輝美氏	8	5	1	0	1	1	0	16
8		16:15~17:45			5	4	2	0	1	0	0	12
9	⑦ 7月11日(水) 同一内容反復実施	14:30~16:00	「ステキ★女性起業家・経営者の人生論」	モルツワエル株式会社 野津昭子氏 株式会社Cocoro Ribbon 大川真美氏	10	6	0	2	0	1	0	19
10		16:15~17:45			4	0	2	1	1	0	0	8
11	⑧ 8月2日(木)	18:00~19:30	「Thursday NIGHT★キャリアサロン」	浜田市議会議員 三浦大紀氏	3	5	2	2	0	0	0	12
12	⑨ 8月8日(水)	13:00~16:00	「夏休み企画★空の玄関口・出雲空港バスツアー&航空業界研究」 ○県立大学参加有	出雲空港ターミナルビル(他)航空関係機関	3	5	1	0	2	0	4	15
13	⑩ 9月5日(水) 9月6日(木)	10:00~16:00	「島根県職工会しまねものづくりフェア」 ○高専生の参加者数は右記に含まない	(主催：島根県職工会)	0	0	0	0	0	0	0	0
14		2			0	0	0	0	0	0	2	
15	⑪ 9月11日(火)	15:00~18:00	「学生Project報告会&交流会」	ファシリテーター： 島根大学 丸山実子	4	0	2	7	0	0	0	13
16	⑫ 10月19日(金)	18:00~19:30	「FRIDAY NIGHT★キャリアサロン」	YAHOO JAPAN(株) コーポレート本部 採用育成部 赤堀聡平氏	7	6	0	18	5	1	0	37
17	⑬ 10月20日(土)	1日	「しまねDEEPまちツアー@島南町」 ○県立大学と合同実施	引率・ワークショップ： 島根大学 丸山実子	3	2	0	1	1	1	8	16
18	⑭ 11月7日(水)	14:30~16:00	「ヒト・モノ・コト視点の地域学」	浜田市議会議員 三浦大紀氏	7	5	2	11	3	0	0	28
19	⑮ 11月16日(金)	14:30~16:00	「Friday Night! 業界初!先輩・後輩二人三脚採用って?!」	(株)シグナル(本社・東京) 草場大輔氏・天野渉氏・松本圭司氏	3	1	0	2	1	1	0	8
20	⑯ 12月1日(土)	10:30~17:00	「技術士と課題解決してみよう!」 ○松江高専と合同実施	島根県技術士会青年部	2	1	0	2	5	0	19	29
21	⑰ 12月21日(金)	18:00~19:30	「Friday Night★キャリアサロン」	Original Point(株) 高橋氏 森山氏	5	0	0	1	0	0	0	6
22	⑱ 1月9日(水)	14:30~16:00	「新聞の読み方から学ぶ・文章作成講座」	山陰中央新報社読者局 清水由紀子氏	2	2	0	4	0	0	0	8
23	⑲ 1月23日(水) 同一内容反復実施	14:30~16:00	「知ってお得な医療と保険アドバイス」	全国健康保険協会 島根支部 大本孝司氏	8	2	0	1	2	1	0	14
24		16:15~17:45			8	2	0	1	2	1	0	14
25	⑳ 2月7日(木)	13:00~14:30	「学生Project報告と新Project★交流会」	ファシリテーター： 島根大学 丸山実子	21	15	2	0	0	0	0	38

当該セミナーは、20 回開講し（反復含め 25 回実施）、延べ 333 名の学生が参加した。また、今後社会人になる学生が「知りたい」または、キャリア教育の一環として大学側が「学

⁴ https://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project01/prj01-shimaneuv/cic_top/

ばせたい」ことは、現在すでに社会人である教職員にとっても有益な情報となるため、積極的に取組内容を教職員にも開放し、学生と教職員が共に学ぶ場を作っていることも大きな特徴の一つである。本年度は述べ 39 名の教職員が CDP 履修者対象の正課外教育に参加した。



航空業界研究出雲空港バスツアー



FridayNight キャリアサロン



しまね DEEP まちツアー@邑南町



学生 Project 報告会

c. キャリア教育専門委員会における CDP に関する今年度総括

島根大学では、キャリアセンターが主催する「キャリア教育専門委員会」において、学部の就職担当委員及び全学の各部署から兼任教員が選出され、CDP を含めた本学の学生のキャリア教育について検討を行っている。CDP は当該年度で運用 2 年となるが、今年度までの取組を総括しプログラム改善の手立てを協議したのでその結果を報告する。

検討の基準には、CDP が履修者の学びの伸長の目安として導入しているルーブリック評価の結果を活用した。ルーブリック評価は表 2-7 に示す 8 つの力を観点別評価の項目としている。

表 2-7：CDP で学生が身につける 8 つの力

主体性	物事に対して、自らの意見で目標を設定すること、判断し行動すること、困難な状況においても進んで取り組むことができる。
創造的思考力	前例にとらわれず、様々な角度から考えてアイデアを創造することができる。
文章力	文章の細部にわたり、目的を理解したうえで、課題に対し、条件や読み手に配慮し文章を作成することができる。
問題解決力	「今、この問題解決のために何をすべきか」を整理し、計画・実行したのち、評価することができる。
プレゼンテーション力	プレゼンテーションの場面で、自分の意見を論理立てて整理し、聞き手が理解しやすいよう、校正やスピードや言葉遣いを配慮しながら話すことができる。
チームワーク力	自分のすべきことを明らかにし、他のメンバーの忙しさや仕事の良を把握し、日程のなかで全体がうまく回るように配慮ができる。
協調性	自分の意見をもちながら、一人ひとりの意見を活かす方法を考え、折り合いをつけることができる。
社会参画	コミュニティに参加し、その一員としての役割を務め自己の成長につなげることができ、コミュニティそのものに変化を促すことができる。

ルーブリック評価は4段階評価となっており、CDP 履修生の年度初めのガイダンス時および年度末に実施している。当該年度末の検討では、①学生の自己評価が低い力を抽出すること ②入学年次による自己評価結果の違いから、学生の伸びのベクトルを抽出すること などに焦点をあてた。その結果、①については学年に関わらず「プレゼンテーション力」「社会参画」「文章力」に関する自己評価が低いことが明らかとなった。この点のアンバランスを解消するために、CDP 修了要件に組み込まれている授業科目群を見直すと同時に、授業内容の変更を担当教員に依頼したほか、社会参画に関しては、前述の CIC などの地域社会との関わりがベースとなる活動を充実させる必要性が確認された。②については、学年が上がるにつれ、各観点の自己評価の平均値も増していくことから、CDP で学生に身につけてほしい力を学生は順調に獲得しているものと考えられるが、極端に自己評価が低い学生などに対するフォローアップに加え、キャリアセンターと CDP 学生の日々のコミュニケーションなど、学生理解を継続して行っていく必要がある。

【②-2 : COC 人材育成コースの運営】

COC 人材育成コースは、COC 事業によって構築した「地域貢献人材育成入試」によって入学した学生が、学部を超えて所属する教育コースである。平成 28 年度より入学生を迎え、当該年度は第 3 期生が入学した。「地域貢献人材育成入試」およびその面談会の運営は、教育・学生支援機構アドミッションセンターおよび教育・学生支援部入試企画課が担当している。また、COC 人材育成コースの運営は、地域未来協創本部地域人材育成部門（旧：地域未来戦略センター）および企画部地域連携・研究協力課が担当している。

a. 地域貢献人材育成入試および面談会の実施

島根大学が実施する地域貢献人材育成入試の特徴は、出願「する」「しない」に関わらず、出願前から「地域貢献人材育成入試面談会」を通じて高校生を育成する「育成型」の入試であるという点である。この面談会では、本学教職員が高校生と一対一で向き合い、地域課題について考えていることや、将来どのように社会に貢献したいのかを対話することで高校生の意欲を高め、島根大学で学ぶ目的と意義を明確にしていく。面接者は研修会を経ることが義務付けられ、入試に直接関係のない全学センター系教員と事務系職員延べ 45 名が研修を受けた。また、述べ 63 名の教職員が面談を実際に担当した。また、本年度の面談会は図 2-4 の通り計 15 回実施し、延べ 127 名の高校生の参加があった。

No.	開催日	開催時間	場所	会場		申込締切
				会場	申込締切	
松江	1	6月10日(日)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	松江	島根大学 松江キャンパス 附属図書館2階 ラーニングcommons	6月1日(金)
	2	8月4日(土)	A 11:30 B 16:00	松江	島根大学 松江キャンパス 学生会館2階 委員会	7月27日(金)
	3	8月5日(日)	A 11:30~の面談は、高校3年生を優先させていただきます	松江	★オープンキャンパス同時開催	
	4	8月25日(土)	A 15:00 B 16:00	松江	島根大学 松江キャンパス 教養講義室2号館	8月17日(金)
	5	9月9日(日)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	松江	島根大学 松江キャンパス 本部棟 1階	8月31日(金)
出雲南	6	6月17日(日)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	出雲	さんびーの出雲 講習室1	6月8日(金)
	7	7月8日(日)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	出雲	出雲市民会館 305学習室	6月29日(金)
	8	7月16日(月・祝)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	雲南	チェリヴァホール 第2小会議室・3階コピー	7月6日(金)
石見	9	6月17日(日)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	津和野	HAN - KOH	6月8日(金)
	10	6月30日(土)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	江津	パレットごうつ 会議研修室2	6月22日(金)
	11	8月26日(日)	A 14:30 B 15:30	浜田	石炭文化ホール 小ホール・301会議室	8月17日(金)
隠岐	12	7月8日(日)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	隠岐	サンテラス ホール	6月29日(金)
米倉鳥子吉取	13	7月1日(日)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	米子	米子市福祉保健総合センター 「ふれあいの里」福祉団体活動室	6月22日(金)
	14	7月16日(月・祝)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	倉吉	倉吉未来中心 セミナールーム4	7月6日(金)
	15	8月18日(土)	A 15:00 B 16:00	鳥取	県民ふれあい会館 4階 大研修室・中研修室3	8月10日(金)

図 2-4 : 平成 30 年度実施 地域貢献人材育成入試面談会スケジュール (同パンフレットより抜粋)

この面談会の実施後に行った「地域貢献人材育成入試」は、表 2-8 の通り行われ、次年度は 57 名の COC 人材育成コース生を受け入れることとなった。

表 2-8：島根大学地域貢献人材育成入試実施状況（平成 31 年度入試）

学部	学科・課程等	入試区分	募集人員	志願者数	入試倍率	合格者数
法文学部		推薦入試 I (地域貢献型)	5	14	2.8	5
教育学部	学校教育課程 I 類	A O 入試 II (地域貢献型)	7	23	3.3	7
人間科学部	人間科学科	A O 入試 II (地域貢献型)	5	10	2.0	5
医学部	医学科	前期日程 (県内定着枠)	7	36	5.1	7
		推薦入試 II (地域枠)	10	14	1.4	10
		推薦入試 II (緊急医師確保対策枠)	5	16	3.2	5
	看護学科	推薦入試 II (地域枠)	5	10	2.0	5
総合理工学部		推薦入試 I (地域貢献型)	7	13	1.9	7
生物資源科学部		A O 入試 I	6	20	3.3	6
計			57	156	2.7	57

b. COC 人材育成コースのコース特化型教育の実施

COC 人材育成コースの学生は、前述の通り各学部にも所属しながら、学部を超えた学びの場として「COC 人材育成コース」にも所属している。その教育カリキュラムは、学部で実施される専門教育に係る内容と、地域未来協創本部が提供する学部を超えた教育内容からなり、前者については各学部の独自の内容が実施されている。本項では、後者の COC 人材育成コース生（以下コース生）のみが受講可能な学部を超えた教育実践について報告を行う。

地域未来協創本部がコース生に提供している教育は、正課科目の「地域課題解決プロジェクト」「地域共創インターンシップ」と正課外教育の各種セミナーに大別可能である。

正課科目の「地域課題解決プロジェクト」は、今年度 16 名のコース生がこの科目を受講し、昨年度から引き続き大田市の健康まちづくりをテーマに PBL 型で実施した。詳しい授業設計については平成 29 年度の報告書に詳細を記しているののでそちらを参考にされたい。正課科目のうち「地域共創インターンシップ」は島根県を中心とした山陰地域で取り組む中長期（2 週間以上）のインターンシップであり、平成 28 年度に入学した 1 期生が受講対象学年（3 年生）となったので、当該年度初めて開講した。地域共創インターンシップは 10 名のコース生が履修し、その受入は主として「しまね協働教育パートナーシップ登録団体」などに依頼した。最終的には、(有)アエラ地域文化デザイン室・島根県（中山間地域研究センター）・(株)御船組・(株)吉田ふるさと村・飯石森林組合・中国環境(株)に受け入れて頂いた。コース生と受入企業等とのマッチングは、地域未来協創本部が年間を通じて行うコース生の個人面談（学年にもよるが、年間 1～2 回、30 分程度の面談を地域未来協創本部の専任教員および COC+コーディネーター等が行う）や、次項の正課外教育での様子を参考に、コース生の課題認識や、積み重ねたいと考える経験を引き出した上で行っている。地域共

創インターンシップの事前・事後指導は、教育・学生支援機構のキャリアセンターに依頼し、その後のコース生の就職活動支援に円滑につながるよう共同体制で実施した。事後指導においては、このインターンシップを履修した全てのコース生が、地域から直接的に学びを得ることに加え、次の自分の課題について客観的に分析を行うなど、キャリアデザインにつなげることができており、インターンシップの有効性が認められた。一方、正課外教育の各種セミナーは、表2-9の通り実施し、のべ492名のコース生が参加した。

表2-9：平成30年度COC人材育成コース 正課外教育一覧

日 時	名 称	区分	対象	参加人数	備考
4月 6日(金) 18:00~19:30	COC入学セミナー	正課外教育	1年	49	
4月 27日(金) 18:00~19:30	COC未来づくりセミナー 「境港市の観光戦略」	正課外教育	1~3年	73	講師： 境港市観光協会 会長長 梶田知身氏
5月 18日(金) 12:00~12:30	COCフレッシュマンセミナー 事前説明・学習会	正課外教育	1年	12	
5月 25日(金) 18:00~19:30	COC未来づくりセミナー 「雲南市にみる「地域自主組織」とは」	正課外教育	1~3年	60	講師： 雲南市役所 須山雄介氏 ほか
6月 2日(土)~3日(日)	COCフレッシュマンセミナー@雲南市(入間・波多)	正課外教育	1年	12	
6月 15日(金) 18:00~19:30	COC未来づくりセミナー 「島根県ヘルスケア事業プレスト大会」	正課外教育	1~3年	50	ゲスト： 島根県商工労働部産業振興 課 八尾佳宏氏 金城観光ホテル代表取締役 佐々木健久氏 ほか
7月 20日(金) 18:00~19:30	COC未来づくりセミナー 「ローカル×グローバル」	正課外教育	1~3年	39	独立行政法人 国際協力機 構 国際協力推進員・島根県 JICAデスク 岩田和美氏
9月 29日(土)~30日(日)	課題探求セミナー	正課外教育	2・3年	19	
10月 19日(金) 18:00~19:30	COC未来づくりセミナー 「話を聞く・アイデアを創出するスキル(基礎編)」	正課外教育	1~3年	37	
11月 16日(金) 18:00~19:30	COC未来づくりセミナー 「話を聞く・アイデアを創出するスキル(応用編)」	正課外教育	1~3年	27	
12月 21日(金) 18:00~19:30	COC未来づくりセミナー 「話を引き出すファシリテーションスキル」	正課外教育	1~3年	25	
1月 25日(金) 18:00~19:30	COC未来づくりセミナー 「可視化・構造化・プレゼンテーションスキル」	正課外教育	1~3年	37	
2月 9日(土) 9:30~14:00	COC人材育成コース成果報告会	正課外教育	1~3年	40	*一般社団法人地域教育魅 力化プラットフォーム主催 「しまね未来協創フェス タ」にて合同実施
3月 27日(水) 14:00~17:30	COC人材育成コース生が取り組んだ地域との協働プロジェクト事例報告(3件)	正課外教育	2~3年	12	*しまね協働教育フォー ラムにて地域協働プロ ジェクト事例報告



未来づくりセミナー4月
(梶田氏による講演)



未来づくりセミナー6月
(島根県のヘルスケア産業)



未来づくりセミナー10月
(アイデアを創出するスキル演習)



成果報告会
(県外大学生との相互取組発表会)

c. COC コース生プロジェクト

当該年度より、COC 人材育成コースの正課外教育の一つとして「COC コース生プロジェクト」を立ち上げた。これは、これまでの未来づくりセミナーのような座学・演習型の内容だけでなく、地域から実際に持ち込まれる悩みに対し、コース生がその解決を行い、その伴走を地域未来協創本部の教員が行うものである。当該年度より試行的に立ち上げた取組であるが具体的成果につながったので、その概要を以下に簡単に報告する。

名称：	COC カエルプロジェクト	時期：	平成 31 年 10 月～1 月
提携先：	島根県教育委員会	参加学生：	永瀬友真・水津智翔・多幾咲穂
担当教員：	高須佳奈（地域未来協創本部）		
概要：	県内高校生のキャリア教育の充実を目的として、しまね大交流会で、島根県教育委員会の事業として地元高校生を対象にしたキャリア教育イベント（p. 65）を企画し実行する。実行までのプロセスで、ヒアリングスキルやプレスリリースなどの文章表現力を OJT 方式で修得する。		
結果：	<ul style="list-style-type: none"> ● 松江近辺だけでなく、遠方からは津和野や隠岐島前など、島根県中から高校生 260 名が集結した。 ● 参加高校生からは、「進路選択のきっかけとなった」「島根の良さに気づいた」「もっといろいろな大人の話が聞きたい」という積極的な声があった。 ● しまね大交流会出展者の大人から、次回本ワークへの参加希望者が続出した。 		



ミーティングの様子



高校生向けセミナーの様子

名称：	COC 駅魅力化プロジェクト	時期：	平成 31 年 9 月～2 月
提携先：	JR 西日本米子支社	参加学生：	土江あやか・酢谷大洋
担当教員：	高須佳奈（地域未来協創本部）		三浦彩花・高梨百香
概要：	JR 西日本が進める無人駅の在り方の見直し事業について、地域フィールドワークなどを行い、当該事業のよりよい在り方を模索・検討する。今年度プロジェクトでは、出雲市の田儀駅・小田駅を対象とし先行事例調査などもふくめ、駅の在り方を地域とともに考えていく必須スキームを抽出し、具体的検討事例と合わせて出雲市および JR 西日本に提案する。		
結果：	<ul style="list-style-type: none"> ● 出雲市および多伎コミュニティセンター等、具体的事例として扱った駅周辺の市民と出雲市に対し、駅の現状分析と市の総合戦略や問題認識に沿った施設利用の可能性について提案を行った。提案は、コミュニティセンターに引き継がれ、今後の活用について市民側で検討する際の参考にしていただくことになった。 		

JR 西日本米子支社の若手社員との
ワークショップの様子

出雲市役所で行われた報告会の様子

名称：	吉田プロジェクト	時期：	平成 31 年 1 月～3 月
提携先：	株式会社吉田ふるさと村	参加学生：	遠藤志乃・中平鈴乃・原 亜海 西尾紗恵・正木那央
担当教員：	高須佳奈（地域未来協創本部）		
概要：	吉田ふるさと村の地域資源を活用した商品「おたまはん」のパッケージリニューアル等リブランディングに資する企画を提案する。提案に当たっては、提携先へのヒアリング・工場見学のほか、主要取引先小売メーカー（本社東京）でのヒアリングを含め、現状ではまだ取り組まれていない PR 戦略を提案する。		
結果：	● 検討を重ねて企画した PR 戦略について、提携先側で実際に商品として実現することが決定され、系列宿泊施設の次年度 11 月オープンに合わせて商品として売り出すことが決定した。また、販売までの実現プロセスについても本チームが担当することとなった。		



同業他社の製品の比較実験



主要取引先「株式会社こだわりや」（本社東京）でのヒアリング・店舗販売体験

名称：	海士いわがきプロジェクト	時期：	平成 31 年 1 月～3 月
提携先：	海士いわがき生産株式会社 海士町	参加学生：	永瀬友真・泉 佑樹* *一般学生 板垣敦也・植木みのり* 鴨木恭子*・島内あさひ* 安達ひかり・荻野あれさ 佐々木あみ*・渡邊由渚 榎本一仁
担当教員：	高須佳奈（地域未来協創本部）		
概要：	海士町が誇る地域ブランド商品「いわがき春香」の生産現場では、人口減少に伴う慢性的な働き手不足に陥っている。加工現場の機械化など海士町の支援も行われているものの実装には数年を要することから、当該年度の冬季～春季にかけての加工・出荷最盛期に学生らが働き手としてこの問題解決にあたった。同時に、過疎地における 1 次産業の現状と地域ブランド商品をめぐる問題点を調査し、その問題を解決するための戦略として広報誌の制作に取組むもの。		
結果：	● 島根大学が全学的に推進する連携自治体との協働事業「じげおこしプロジェ		

	<p>クト」にも認定され、海士町が抱える問題の解決を実際に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 制作したパンフレットが個人向け出荷の際に海士町漁業協同組合にて同梱されることが決定した。 ● 本年度はトライアルとして取り組んだが、人手不足解消だけでなく学生の深い学びにもつながったため、次年度以降も海士町で予算を確保し取組むことが決定した。
--	--



加工場での休憩時間の様子



終業後に行う問題分析のミーティング

d. COC 人材育成コースの教育内容の改善

平成 31 年度より島根大学全体の授業時間変更により、これまで夜間（18:00～）に行ってきた正課外教育の実施が時間的に困難になることから、これまで未来づくりセミナーやフレッシュマンセミナーといった正課外教育で行ってきたコースの教育内容を授業科目化し、平成 31 年度入学生から、その内容をコースカリキュラムの初年次に据えるという教育内容の改善を行った。

具体的には、イノベーション創成基礎セミナーI・II の授業科目を COC 人材育成コースを対象として新設した。これらの授業科目については、中海・宍道湖・大山圏域市長会の若者育成事業と連携することも決定し、大学立地地域の近隣 5 市のからの支援を受けながら、フィールドワークも実施できる見通しとなった。

(2) 島根県立大学・島根県立大学短期大学部（事業計画④-2）

島根県立大学および同短期大学部では、平成25年度から5年間にわたってCOC事業において「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」事業に全学で取り組み、その際に新設した「しまね地域マイスター認定制度」も事業終了後も引き続き実施している。「しまね地域マイスター認定制度」は、以下の①～③のような地域志向教育科目で構成されており、当該年度において本認定制度の第1期修了生を輩出することができた。この第1期修了生の取組は、④の成果報告会で広く社会に発信した。以下、本学の特色ある地域志向教育の取組状況について概要を報告する。

①3 キャンパス全1年生必修科目「しまね地域共生学入門」

1年次に開講している、浜田・出雲・松江の3キャンパス共通科目「しまね地域共生学入門」を、講義中継システムを活用して実施した。学外からは益田市・山本市長、島根県政策企画監室からもそれぞれに出講いただき、全1年生は地域課題への実践的取組について理解を深めた。

②合同科目「地域課題総合理解」

浜田と出雲両キャンパスの合同科目「地域課題総合理解」も、引き続いて1泊2日の集中講義形式で、「島根県における防災・減災を目指した健康課題とその対策」をテーマに、開講することができた。

③地域課題の解決を目指す「地域共生演習」

3キャンパスある本学のうち、先行してこの取り組みを始めた浜田キャンパスでは、「地域共生演習」において「進捗状況報告会」（2年次）、「中間報告会」（3年次）、最終報告会（4年次）をそれぞれ学外協力機関にも公開して実施した。

この演習では、学生たちの調査・研究が行われるが、これについて地域のさまざまな方のご協力をいただいた。たとえば災害対策をテーマにした学生は、大田市災害ボランティアセンターをはじめ、市の関係部署3課へのヒアリングや市全域の住民アンケートを実施するなど、多くのご理解・ご協力のもと調査・研究をおこなうことができた。また、石見地域の老舗企業の経営をテーマにした学生は、石見地域の老舗企業と新企業各5社と都市部の老舗企業5社、計15社の企業のご協力のもとヒアリング調査を行い、石見地域の企業の特徴について考察した。



④成果発表の場「KENDAI 縁結びフォーラム」の開催。

1

2 地域未来創造人材の育成

年度末には全学における成果発表の場でもある「KENDAI 縁結びフォーラム」(参加者数180名)の中において、「しまね地域マイスター論文完成後の研究発表」と、最優秀賞並びに浜田市長賞の表彰式も実施し、広く学内外に対してその成果を発信した。このフォーラムにおいては、「学生の石見地域研究事業成果報告会」(主催:島根県西部県民センター)も実施され、邑南町の都市農村交流施設のカフェメニュー開発の取り組みなど事業成果報告があった。詳細は、島根県立大学のWebサイトにて報告しており⁵、そちらを参照されたい。



3

4

KENDAI 縁結びフォーラムの様子



5

6

7

8

KENDAI 縁結びフォーラムの様子

⁵ <http://www.u-shimane.ac.jp/foundation/center/cooperationcenter/>

(3) 松江工業高等専門学校（事業計画④-3）

松江工業高等専門学校では、本 COC+事業内で教育改革を推進している。その基本理念は「地域課題を知る」「問題解決力を身につける」「社会貢献を可能とするエンジニアを育成する」の3点であり、地域志向エンジニア育成プログラムを構築している。図 2-5 に、そのカリキュラムイメージを示す。このプログラムの構成要素として、講義科目「ふるさと産業学（3年生）」「地域産業とエンジニア（4年生）」、演習科目「創造演習（PBL）」「エンジニアリングデザイン演習（本科全学科および専攻科）」、実践科目「地域インターンシップ」および COOP 型研究に取り組んでいる。また、社会活動として前項の企業ツアーのほか、地域の市民を対象としたものづくりイベントを行っている。本報告書では、前述の各種教育のうち、COC+事業の経費で取組んでいる講義科目および演習科目について報告する。

		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科
【講義科目】							
ふるさと産業学 地域産業とエンジニア COC+大学連携（講義）	1科目 1科目 随時		●	↔	↔	★	
【演習科目】							
PBL手法を用いた創造演習 エンジニアリングデザイン演習 アクティブ・ラーニング（演習）	5科目 1科目 随時	↔	↔	↔	↔	↔	↔
【実践科目】							
地域インターンシップ COOP型研究	1科目 随時				↔	↔	
【社会活動】							
企業見学ツアー ものづくりイベント COC+大学連携（社会活動）	随時 随時 随時		↔	↔	↔	●	●

図 2-5：「地域志向エンジニア育成プログラム」カリキュラムイメージ

①講義科目「ふるさと産業学」・「地域産業とエンジニア」

3年生の「ふるさと産業学」では、低学年の段階で地域の産業や課題について学ぶこと、専門基礎を身につけることを主眼とした。地域の産業や課題を学ぶ過程では、地域の産業だけではなく地域の魅力や特徴などを知ることが重要と捉え、奥出雲地域における「たたら製鉄」などの文化歴史的な視点と製鉄などの産業について理解を深めた。安来地域の産業と歴史に関する見学も実施した。学生による授業評価アンケートでは総合満足度が5段階評価で4.7と極めて高い評価を得た。



ふるさと産業学：フィールドワーク



ふるさと産業学：発表会

4年生の「地域産業とエンジニア」においては、地域に関連した企業や新産業について外部講師を招き、毎週講義を行った。外部講師の一覧を表 2-10 に示す。

表 2-10：「地域産業とエンジニア」外部講師（敬称略）

島根県産業技術センター 所長	辰野 恭市
島根県産業振興アドバイザー	矢野 仁
日本製紙株式会社江津工場 事務課長代理	永山 達郎
日本製紙株式会社江津工場 化成一課技術調査役	中谷 丈史
島根県県央県土整備事務所太田事業所	今川 文
株式会社フクタ	加本 雅美
株式会社トーワエンジニアリング	齋藤 小夏
シマネ益田電子株式会社 取締役副社長	平谷 太
日立金属株式会社 冶金研究所 主任研究員	福元 志保
日本システム開発株式会社 第2事業部事業部長 兼 技師長	坂上 真市
株式会社島根富士通 代表取締役社長	神門 明
テクノフォーラム副会長	目次 真司
株式会社テクノ・インテグレーション 代表取締役	出川 通
株式会社ネットワーク応用通信研究所 フェロー	まつもとゆきひろ

この「地域産業とエンジニア」の授業では、地域産業に精通した学外の講師を招聘し多彩なテーマについての講演を行うことで、地域産業の現状や今後の展開に関する新規性のある話題をグローバルな視点・幅広い見識に基づいて受講学生に提供することを目的としている。一方、本授業は学生の正規の授業として実施すると同時に一般市民等にも公開し、学生のみならず地域企業・地域社会への教育的効果が期待できるカリキュラムを構築することで地域の高等教育機関としての新たな役割を模索している。学生による授業評価アンケートでは総合満足度が5段階評価で4.2と高い評価であった。



地域産業とエンジニア①



地域産業とエンジニア②

②演習科目：「創造演習（PBL）」・「エンジニアリングデザイン演習」

全学科の演習に、問題解決型の設計製作演習やフィールドワークなど、地域課題を取り入れた PBL を実施した。テーマに地域課題を取り入れる工夫を行うことで、地域志向を育む相乗効果を狙うと同時に、問題解決能力の涵養を目的としている。高学年・専攻科では、地域に自ら出向き課題探索とその解決を検討する「エンジニアリングデザイン演習」を実施した。



演習の様子①



演習の様子②

③地域インターンシップおよび地域研究を実現するための基盤構築

地域企業や工場，伝統産業などに関して実践的な産業体験を意欲的に行う企業の見学を実施し，地域について学ぶ機会を創出した。地域企業へのインターンシップには年度目標とちょうど同じ 130 名の学生が参加した。



企業見学
(株式会社守谷刃物研究所)



インターンシップ報告会
(地域インターンシップ)

【特記事項】

事業計画⑤においては、島根大学が行う事業として「都市圏の大学生との共同演習型プログラム」を計画していたが、これについては、平成29年度末にスピンアウト型のプロジェクトとして設計し、本COC+事業の協力大学である大正大学とともに、内閣府「地方と東京圏の大学生対流促進事業」に申請したところ、事業が採択された（主幹校：大正大学 協力校：島根大学・静岡産業大学）。よって、本COC+事業とは経費上は切り離し、島根大学運営を教育・学生支援機構教育推進センターおよび教育学生支援部教育企画課に移管した。ただし、教育コンテンツは本COC+事業で構築した「地域未来論」、COC事業で構築した「COC未来づくりセミナー」などを有効活用し、当該年度は11名の大正大学の学生が秋季に島根県に滞在して島根大学の学生とともに学んだ。

以上、地域未来創造人材の育成については事業計画を着実に実行し、一部昨年度以上の成果を出すことができた。

第3章. しまね大交流会

しまね大交流会とは、島根県及び鳥取県の産・官・学・金・労・言と市民や NPO が一同に会する機会を創出するプロジェクトである。具体的には、「学び」、「魅力発信」、「イノベーション」の3つを目的に企画している。具体的には、「低学年次の学生」には、地域の「ひと」から直接学ぶキャリア教育の場として、「高学年次の学生」には、学びや研究成果の発表の場として、そして、「地域ステークホルダー」には、それぞれの魅力を発信すると共に広い交流の場として機能することを目的としている。

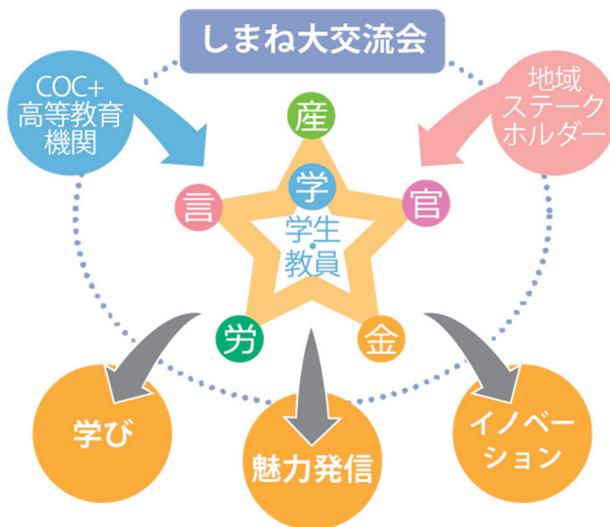


図 3-1 : しまね大交流会の取組イメージ

この事業を実施するにあたり、事業協働機関とともに実行委員会を設け、企画・運営を行っている。参加学生数は年々増加しており、学生ニーズにマッチした取組となっているといえる。一方、しまね大交流会の機会を利用し、取組自体の満足度を問うだけでなく、学生自身のキャリアデザインにおける潜在的ニーズを掘り起こすことで、学生・地域双方によりよい価値を創出できるよう努めている。本章では、このしまね大交流会について以下の項目の順に報告する。

- 3-1. 実行委員会開催報告
- 3-2. 開催結果
- 3-3. 参加者アンケート調査および結果・分析
- 3-4. 今年度の成果と今後の課題

なお、開催にあたって準備した文書類やチラシ、開催記録写真などは、まとめて本事業ホームページにアーカイブ⁶しているので、適宜参照いただきたい。

⁶ http://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project02/prj02_list/

3-1. 実行委員会開催報告

開催準備にあたり、「しまね大交流会 2018 実行委員会」を組織し、実行委員会を開催した。開催場所は、島根大学と島根県立大学浜田キャンパス、松江工業高等専門学校をTV会議システムにて中継した。実行委員の一覧を表3-1に、委員会の開催を表3-2に示した。

表 3-1：しまね大交流会 2018 実行委員会 委員一覧

■委員		
役 職	氏 名	備 考
島根大学地域未来協創本部本部長	秋重 幸邦	理事（学術研究・地域連携担当）
島根大学地域未来協創本部副本部長	佐藤 利夫	実行委員長
島根大学地域未来協創本部地域人材育成部門長	松崎 貴	
島根大学地域未来協創本部地域人材育成部門 地域人材育成マネージャー／講師	高須 佳奈	
島根大学COC+推進コーディネーター	池淵 昇平	
島根大学COC+キャリアプランナー	赤藤 明彦	
島根大学COC+キャリアプランナー	三浦 大紀	浜田会場
島根大学地域未来協創本部産学連携部門／准教授	服部 大輔	
島根大学教育・学生支援機構キャリアセンター／講師	田中 久美子	
島根県立大学事務局次長	中澤 信善	浜田会場
島根県立大学キャリア支援室長	俵 正光	浜田会場
松江工業高等専門学校 校長補佐（研究担当）	堀内 匡	
島根県政策企画局政策企画監室 企画員	赤井 英則	
島根県商工労働部雇用政策課 若年者就業支援グループ グループリーダー	青山 徳子	
島根県教育委員会	立石 祥美	
島根県西部県民センター 商工観光部 商工振興課 課長	松本 守正	浜田会場
中海圏域就業支援連携事業推進協議会事務局 松江市産業経済部定住企業立地推進課定住雇用推進係長	土江 充	
しまね産業振興財団 業務執行理事（兼）事務局長	馬庭 伸行	
ふるさと島根定住財団 ジョブカフェ事業課長	太田 俊介	
ふるさと島根定住財団 石見事務所 企業連携スタッフ	山藤 美幸	浜田会場
島根県商会議所連合会 事務局長	高尾 健司	
島根県商工会連合会 事務局長	越後 伸一	
島根県中小企業団体中央会 事務局長	荒田 裕司	
島根経済同友会 事務局長	富田 芳光	
山陰合同銀行地域振興部 地域振興グループ長	田村 剛	平成30年7月～
■委員以外の出席者（陌席含む）		
役 職	氏 名	備 考
島根大学 地域連携・研究協力課 地域連携推進グループ 課長補佐	青木 英治	
島根大学 地域連携・研究協力課 地域連携推進グループ 係長	長廻 徹	
島根大学 地域連携・研究協力課 地域連携推進グループ 主任	石倉 真由美	
島根県商工労働部雇用政策課 若年者就業支援グループ 主任	大串 健太郎	
島根県人材確保育成コーディネーター	藤本 朗	※大学との連携担当
島根県人材確保育成コーディネーター	山藤 美之	浜田会場
島根県人材確保育成コーディネーター	内藤 正裕	浜田会場
島根県人材確保育成コーディネーター	西藤 昌裕	浜田会場
島根県総務部総務課 私学・県立大学室 企画幹	土江 素子	H30.11～

表 3-2：しまね大交流会 2018 実行委員会開催一覧

	実施日時	議事内容
第1回	5月15日(火) 13:30~14:30	1) しまね大交流会2018 開催要項(案)及び出展要領(案)について 2) しまね大交流会2018の予定について 3) しまね大交流会2019開催候補日について 4) その他
第2回	7月19日(木) 13:00~14:00	1) 出展者の募集について 2) 当日プログラム(案)について 3) しまね大交流会2018 開催要項・出展要領・出展規約(案)について 4) しまね大交流会2019開催候補日について 5) その他
第3回	8月22日(水) 15:00~16:00	1) 出展申込状況について 2) 高校への参加依頼状況について 3) 企画(案)・会場レイアウト(案)について 4) チラシ(案)について 5) その他
第4回	10月4日(木) 10:30~12:00	1) 出展者の決定について 2) 出展者向け説明資料・動画について 3) ブース配置(案)について 4) ガイドブックの検討について 5) 広報について 6) 当日運営の検討について 7) その他
第5回	11月15日(木) 10:00~11:30	1) ブース配置の決定について 2) ガイドブックの決定について 3) 出展マニュアルの決定について 4) アンケートの検討について 5) 当日の運営について 6) その他
第6回	12月6日(木) 10:00~11:30	1) 来場者の集客見込数について 2) 各企画の準備状況について 3) 来場者への配布物について 4) 当日の運営について 5) その他
第7回	1月31日(木) 16:00~17:00	1) しまね大交流会2018開催結果概要について 2) 来年度に向けた課題について 3) 来年度予算について 4) その他

3-2. 開催結果

しまね大交流会 2018 を以下の通り開催した。進行に合わせ、出展ブースへの投票ワークや、スタンプラリー、ホンネフェス（中海圏域就業支援連携事業推進協議会主催）、大抽選会などを実施した。

日時：	平成 30 年 12 月 15 日(土) 【メイン開催時間】 13:00～17:00 9:00～ 出展準備 11:00～ 出展者交流会 12:20～ プレセミナー（学生向けセミナー） 13:00～ オープニング（挨拶・プログラム説明） 13:10～ 1st ステージ（自由な観覧） 14:00～ 2nd ステージ（自由な観覧） 15:00～ 3rd ステージ（出展者による 5 分間プレゼン） 16:00～ クロージング（大抽選会・ベストブース賞発表・閉会行事）
	 <p>交流会開催チラシ</p>
会場：	くまびきメッセ大展示場（〒690-0826 島根県松江市学園南 1 丁目 2 番 1 号）
主催：	しまね大交流会実行委員会・島根大学
共催：	島根県立大学・島根県立大学短期大学部・松江工業高等専門学校・島根県・島根県教育委員会
協賛：	中海圏域就業支援連携事業推進協議会（松江市・米子市・安来市・境港市）
後援：	島根県市長会・島根県町村会・島根労働局・しまね産業振興財団・ふるさと島根定住財団・島根県商工会議所連合会・島根県商工会連合会・島根県中小企業団体中央会・島根経済同友会・島根県経営者協会・島根県中小企業家同友会・山陰合同銀行・山陰中央新報社・新日本海新聞社・島根日日新聞社・TSK 山陰中央テレビ・日本海テレビ・BSS 山陰放送・NHK 松江放送局・山陰ケーブルビジョン・中海テレビ・島根職業能力開発短期大学校
参加人数：	約 2600 名

<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>学生約 1500 名</u> (島根大学、島根県立大学・同短期大学部、松江工業高等専門学校、島根職業能力開発短期大学校、その他高校生を含む) ・ <u>一般約 1100 名</u> (出展者含む上記「学生」以外の一般参加者総数)
--

全参加者の内訳は下表の通りであった。

表 3-3：しまね大交流会 2018 参加者属性内訳

		2015	2016	2017	2018
「若者」	島根大学		523	710	709 (昨年度比100%)
	島根県立大学		106	130	115 (昨年度比89%)
	島根県立大学短期大学部		34	72	99 (昨年度比138%)
	松江工業高等専門学校		35	115	144 (昨年度比125%)
	島根職業能力開発短期大学校		-	50	46
	その他の大学・高専		-	9	8
	その他専門学校等		-	6	2
	高校生		-	81	342
	小・中学生		-	5	3
	その他			9	13
			小計：約700	小計：1187名	小計：1481名
「大人」	地元企業・団体関係者【出展】			518	559
	地元企業・団体関係者			144	188
	大学・高専等教職員【出展】			108	106
	大学・高専等教職員			152	157
	小・中・高校の教員			7	44
	学生・生徒の保護者			8	10
	その他			46	77
			小計：約900	小計：983名	小計：1141名
合計		約1100名	約1600名	2170名	2622名

●記録写真

開催時の記録写真から抜粋して掲載する。記録写真については本事業 Web サイトにフォトアーカイブとして報告した⁷のでそちらを参照いただきたい。

⁷ https://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project02/prj02_about/



会場準備の様子



プレセミナーの様子



開会の「エイエイオー」



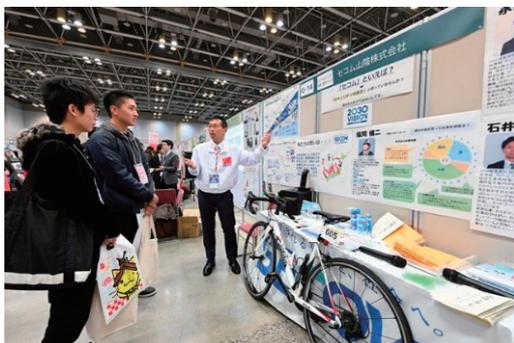
会場全体の様子



学生出展（島根県立大学）



学生による授業成果の出展（島根大学）



企業展示の一例



高校生向けセミナー（小ホール開催）



大人向けセミナー（小ホール開催）



協賛団体による「ホンネフェス」



クロージング 大抽選会



クロージング ベストブース1位表彰

3-3. 参加者アンケート調査および結果・分析

しまね大交流会 2018 開催当日、参加者（学生・一般）アンケートを実施した。アンケート結果のうち、特に本事業全体の推進に対し、示唆を含むものについて報告をする。

(1) 調査概要

- ・調査対象：しまね大交流会 2018 に参加した学生参加者および出展者
- ・標本数：アンケート回収枚数として次の表に示す。

表 3-5：アンケート回収枚数

	回収数	全数	回収率
参加学生アンケート	467	1481	32%
出展ブースアンケート	181	208	87%

- ・配布及び回収方法：しまね大交流会参加受付時に関連資料と共に配布を行い、退場時に出口にて運営スタッフが回収を行った。
- ・調査、集計、分析：島根大学地域未来協創本部

(2) 学生アンケート結果の概要

学生の参加のきっかけは何か

しまね大交流会は、学生にとってのキャリア教育の場となる設計を行っている。参加者のメインターゲットである学生が、何をきっかけに本交流会に参加したのかを質問したところ、結果は表 3-6 の通りとなった。

表 3-6：学生の参加のきっかけ（一択）

	度数	有効% (昨年度%)
1. 自分の意思で参加	126	27.6 (22.0)
2. 講義の一環として	251	55.1 (62.0)
3. 友人や知人等に誘われて	41	9.0 (6.2)
4. 家族に言われたから	5	1.1 (1.4)
5. 出展者として参加	33	7.2 (8.4)
計	456	100

本交流会が学生のキャリア教育に価値ある取組として効果が検証されたのは平成 28 年度の本交流会のアンケート結果の考察を行ってからである。およそ 2 年間の準備期間をかけ、各高等教育機関におけるキャリア系授業科目などに、本交流会の参加を効果的に組み込む体制が整いつつあることから、「講義の一環として」参加したという学生が 55.1%と過半数を超えている。昨年度の「講義の一環として」参加した学生 62%と比較すると減少した一方、「自分の意志で参加」したと回答した学生が昨年度の 22%より約 5%上昇し、27.6%となった。

学生はどの程度地元の企業を知っているのか

学生にとっての就職先の選択肢とは、学生の志向性による就職希望先選別の前段階で、そもそも学生が企業を知っているかどうかで選択の結果は大きく異なる。本交流会を初年次の学生をも対象に行っている大きな目的は、本地域のステークホルダーを広く「知って」もらうことにある。これについて、学生が知っていた企業数の平均について、昨年度との比較を表 3-7 に、2016 年度からの学年別経年変化を図 3-2 に示す。

表 3-7：学生が「知っていた」出展企業数

	全参加 学生平均	学年別比較（島根大学のみ抽出）		
		1年	2年	3年
しまね大交流会 2018（本年度）	11.63 社 (N=440)	7.99 (N=88, SD=6.77)	12.51 (N=102, SD=8.88)	16.06 (N=62, SD=12.78)
しまね大交流会 2017	10.61 社 (N=628)	9.40 (N=206, SD=8.31)	12.55 (N=102, SD=8.88)	10.72 (N=50, SD=8.74)



図 3-2：しまね大交流会に参加した島根大学の学生の「知っていた」企業数経年変化

全参加学生の平均は、昨年より知っている企業数が増加した。また、島根大学所属の学生について、学年別に結果を比較すると、学年が上がるにつれ、知っている参加企業数が多くなっている。さらに特筆すべきは、本年度3年生は約16社の企業を知っている点である。本年度3年生はキャリア教育の場として再設計した本交流会に1年次の段階で参加しており、継続的に取り組んでいるしまね大交流会が、地元企業を知る機会として有効に働いていることを示唆する結果となった。

参加学生の満足度

参加学生の満足度について質問した結果を図 3-3 に示す。

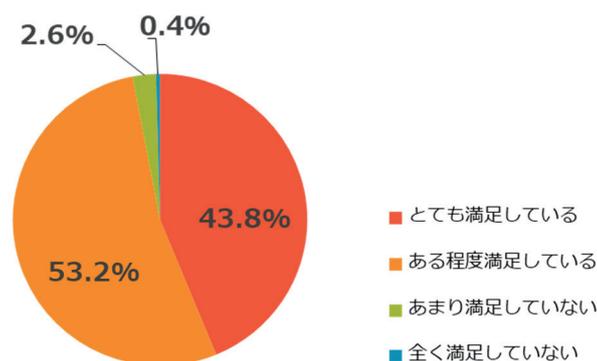


図 3-3：本交流会に対する参加学生の満足度（N=466）

本交流会の満足度を示す値として、「とても満足している」と「ある程度満足している」を合計したところ、97%となった。

参加学生の意識変化

本交流会に参加した学生が、次の①～④の各項目についてそれぞれどのような意識変化があったかを質問した。

- ①企業・NPO・自治体の魅力
- ②職場見学への興味関心
- ③インターンシップ先としての魅力
- ④生活の場としての魅力

各項目の結果を図 3-4 に示す。

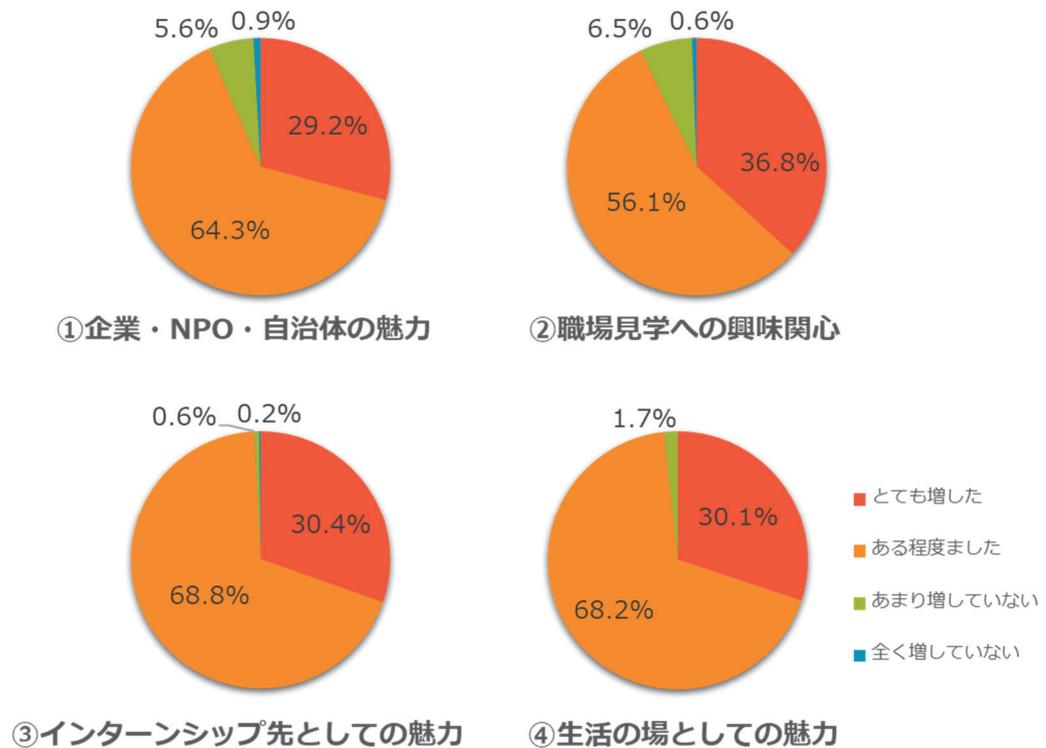


図 3-4：本交流会の参加学生の意識変化 (N=462)

すべての項目において、昨年度と同様にポジティブな意識変化があった学生が 90%を超える結果となった。とくに、項目③のインターンシップ先や、項目④の生活の場としての魅力については、「ある程度増した」と「とても増した」の合計がいずれも98%を超える結果となった。

参加学生自身のキャリアデザインに対する本交流会の有用感

本交流会は、一昨年度よりキャリア教育の場として設計しているが、その主体である参加学生が、自身のキャリアデザインに対して、本交流会がどの程度役立つと感じているかを質問した。その結果を図 3-5 に示す。

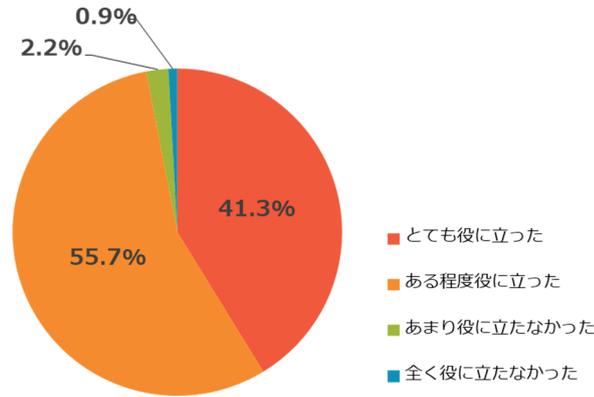


図 3-5：参加学生自身のキャリアデザインに対する本交流会の有用感 (N=463)

本交流会の有用度を示す値として「とても役に立った」と「ある程度役に立った」を合計したところ、97%となった。

参加学生の感想や要望

アンケートに記載された自由記述による感想を次に抜粋する。

- 企業などのブースをまわったときに皆さんがとてもフレンドリーで話しやすかった。説明も物を使ったり、試食ができたりととても分かりやすかったです。全体的にはとても有意義な時間をすごせとても楽しかったです。
- たくさんのジャンルの人から話を聞くことができたり、詳しい説明がたくさん聞けたりしてとても濃厚だった。
- 出展者としても自分たちの取り組んでいる活動を多くの人々に知ってもらえてよかった。
- 一箇所ですべてのブースを見られるのはよかったが、5分間プレゼンテーションの移動時間が少なく、次のプレゼンに間に合わなかったのが残念だった。
- 前年度に比べてパンフレットやシステム等のクオリティが上がっていて面白かったです。
- 企業研究のために訪れ、色々な業種を見れた。もっと見る時間が欲しいくらいだった。
- 興味のあるブースをある程度見れたと思います。ただ人が多いのでなかなかお話を聞くことができないことがあったのですこし残念でした。でもすごく楽しかったです！
- さまざまな企業の魅力や、インターンシップなどについて知ることができました。今まであまり知らなかった職種にも興味を持つことができた。

参加学生らは、いわゆる就活系のイベントと違い、自由に出展者と交流できる環境に良さや魅力を見出し、自発的な行動が促進されたことで、全体的な高い満足度を得る結果に至ったと考えられる。一方で、意欲的な参加者としては改善を要すると思われる要望や意見がいくつかみられた。

- ブースの説明する人をもう少し増やして欲しいところがあった。
- ブース等によっては、イベント主催者と意図がずれているところがあるのでは？数合わせのところがなかったとはいえない気もする。
- アピールに積極的でない、説明がてきとうな企業がありもっと乗ってほしかった。(原文ママ)

これらの学生からの要望・意見については、次年度の大交流会の企画改善に活かすとともに、しまね協働教育パートナーシップの登録団体対象の研修会などで情報提供をしていくこととする。

(3) 出展者アンケート結果の概要

出展者の満足度

出展者の満足度について質問した結果を図3-6に示す。出展者の満足度は96%となった。

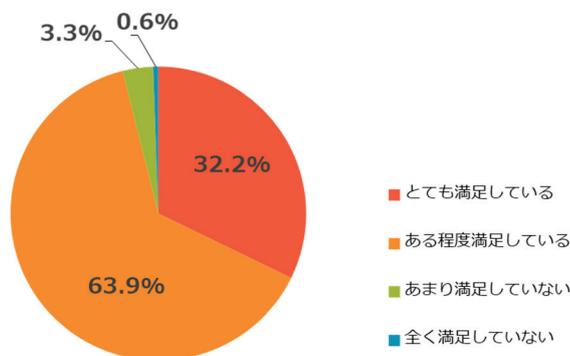


図3-6：本交流会に対する出展者の満足度 (N=180)

(4) 出展ブースにおける交流状況に関するアンケート結果について

本交流会のアンケートは、参加学生と出展者それぞれを対象として実施しているが、「参加学生は、出展者からどのような情報を聞きたいか交流をしたのか」、一方「出展者はどのような話題を参加学生に提供しようとしたのか」を明らかにする設問を設定した。その結

果は表 3-8 および表 3-9 の通りとなった。

表 3-8：参加学生の出展者との交流状況

N=462	聞こうと思って いなかった	聞きたかったが 聞けなかった	聞くことが できた	聞くことができ印象 に残った
業務、製品、サービス	5.9%	6.5%	61.0%	26.7%
インターンシップ	24.6%	14.3%	47.8%	13.3%
職場の魅力	7.4%	7.8%	57.0%	27.8%
地域・社会貢献やイベント	12.7%	7.9%	55.6%	23.8%

表 3-9：出展者が参加学生との交流で話題にした内容

N=124	話題にしなかった	話題にしたかった ができなかった	話題にした	話題にしたところ 好評だった
業務、製品、サービス	1.6%	0.8%	68%	29.5%
インターンシップ	29.2%	3.3%	55.0%	12.5%
職場の魅力	18.8%	10.7%	51.6%	18.9%
地域・社会貢献やイベント	29.8%	10.7%	50.4%	9.1%

調査の結果、「(出展者の) 地域・社会貢献やイベント」については、話題にした出展者の割合が合計 60%にあるのに対し、「聞いて良かった」と感じている参加学生が 79%となった。同様に、「(出展者の) 職場の魅力」に関しても話題にした出展者の割合が合計 71%にあるのに対し、「聞いて良かった」と感じている参加学生が 85%となるなど、出展者が提供する話題と、学生が「知ってよかった」と感じる情報には依然として微妙な差が生じている。

また、今年度は冬～春期インターンシップ広報を導入したことにより、「インターンシップ」を話題にした出展者の割合が合計 68% (前年度 53%)、「聞いて良かった」と感じている参加学生が 61% (前年度 54%) となり、インターンシップに対する意識が双方向上した様子が見える。

3-4. 今年度の成果と今後の課題

以下に本年度の開催における特色ある取組およびその成果、また今後の課題について報告する。

①高校生向けセミナー／大人向けセミナー

第2章で報告した、COC 人材育成コース生の正課外地域協働型プロジェクト「かえるプロジェクト」の企画として、島根県教育委員会とともに、高校生を対象としたセミナーを、当日午前中に小ホールにて開催した。20名の島根に関わりのある大人たちが、20組のピクニックシートに分かれ、10～15名の高校生およびサポート役の大学生らに対し、自分の生き方・失敗談・これからしたいと思うこと・島根ってこんなところ、などについてレクチ

1

2

3
しまね大交流会

ヤーをしていただいた。この20名の大人は、COC人材育成コース生の2年生が中心となつて、アポイントメント取りや直接取材の調整などを行い、20名の様々な分野で活躍する大人の参加をえることができた。当日は松江近辺だけでなく、遠方からは津和野や隠岐島前など、島根県中から高校生260名が集結し、関係する高校教員等も合わせると300名以上の参加者となった。参加高校生からは、「進路選択のきっかけとなった」「島根の良さに気づいた」「もっといろいろな大人の話が聞きたい」という積極的な声があった。また、しまね大交流会出展者の大人から、次回、本ワークへの参加希望者が続出した。あわせて、キャリアセンター丸山准教授による「大人の意識アップデート講座」と題した大人向けセミナーを開催した。100名程度の参加者があり、高校教員も含め熱心にメモを取る姿が見られた。本件は今年度からの新規事業として取り組んだが、多数の高校生および高校教員の参加もあり、結果として当初の年度計画以上の波及効果を創出することができた。

②技術コミュニティラボ in しまね大交流会

第6章で報告する「技術コミュニティラボ」の取組みの一環として、しまね大交流会の会場で午前中に開催する出展者交流会の時間帯に若手研究者による、データサイエンスに関するライトニングトークをステージにて行った。詳細は、第6章を参考にいただきたい。

③今後の課題

4

5

一方、今後の課題としては、しまね大交流会の波及効果のさらに詳しい検証と関係機関のコストシェアによる持続可能な実施体制の構築が挙げられる。今年度の開催にあたっては、島根県教育委員会、島根県総務部、中海圏域就業支援連携事業推進協議会（松江市・米子市・安来市・境港市）と一部コストシェアを図ることができたと同時に、県境を越えて実質的な事業連携が実現した。しかし、補助機関終了後の継続的な開催を目指すうえで、より一層のコストシェアを進めていく必要がある、今後も島根県などと協議を進めていくこととした。

6

本取組の価値に関しては、地域の認知度や理解も向上してきており、継続を期待する声も大きい。補助期間終了後も最善のかたちで地域に提供していけるよう、準備を進めていきたい。

7

8

第4章. しまね協働教育パートナーシップ

しまね協働教育パートナーシッププロジェクトは、県内企業等と県内高等教育機関が人材育成の理念や知識、教育スキルを共有することで、人材育成と人材確保を中核とする互恵関係を構築し、ともに若者の地域への定着促進を図ることを目的としている。



図 4-1：しまね協働教育パートナーシップの概念図

本パートナーシップ制度の運用フローは次の通りである。

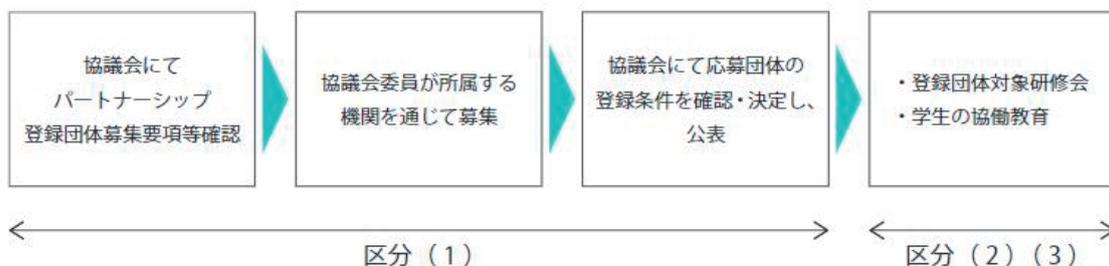


図 4-2：しまね協働教育パートナーシップ制度の運用フロー

上図の区分（1）はパートナーシップ制度運用に係る取組、区分（2）はパートナーシップ登録団体を対象とした研修会等の取組、区分（3）はパートナーシップを活用した学生の協働教育に資する取組である。これらについて、本年度は、次の表の通り事業を計画し、実行した。

表 4-1：しまね協働教育パートナーシップ平成 30 年度取組一覧

日時	内容	区分
2/26 (月) ~ 4/19 (木)	第4期登録団体募集案内開始 第4期応募締切	(1)
5/24 (木)	第8回(H30第1回)しまね協働教育パートナーシップ推進協議会 (H30年度事業計画等審議、第4期登録団体確認・決定)	(1)
5/30 (水)	インターンシップフェア (島根大学)	(3)
5/30 (水)	登録団体向け研修等 (島根大学)	(2)
5月~2月	業界・企業見学ツアー (各機関が実施)	(3)
8/6 (月) ~ 10/15 (月)	第5期登録団体募集案内開始 第5期応募締切	(1)
11/7 (水)	インターンシップフェア (島根県立大学)	(3)
11/8 (木) 11/16 (金)	登録団体向け研修会 (しまね大交流会2018出展団体向けワークショップ) (島根大学) ※11/16はCOCコース生と交流	(2)
11/29 (木)	第9回(H30第2回)しまね協働教育パートナーシップ推進協議会 (第5期登録団体確認・決定)	(1)
12/15 (土)	しまね大交流会2018 (くにびきメッセ)	(3)
1/9 (水)	登録団体向け研修会 (島根大学)	(2)
1月末~3月	登録団体紹介冊子の作成・配布	(3)
2/8 (金)	業界・企業研究フェア (島根大学)	(3)
2/13 (水)	第10回(H30第3回)しまね協働教育パートナーシップ推進協議会 (H31年度事業計画等審議、第6期登録団体募集、第1期更新)	(1)
2/18 (月) ~ 3/15 (金)	第1期登録団体更新手続き案内開始 第1期更新手続き締切	(1)
2/26 (火)	学生と企業の交流会 (松江ニューアーバンホテル)	(3)
2/25 (月) ~ 4/18 (木)	第6期登録団体募集案内開始 第6期応募締切	(1)
3/27 (水)	オールしまね協働教育フォーラム (島根大学) (中継 島根県立大学浜田キャンパス)	(2)

(1) 制度運用に係る取組について

平成30年度しまね協働教育パートナーシップ推進協議会は次の委員で構成されている。

表 4-2：しまね協働教育パートナーシップ推進協議会 委員一覧

所属・役職	氏名	備考
島根大学地域未来協創本部長 理事（学術研究・地域連携担当）	秋重幸邦	会長 オールしまねCOC+事業責任者
島根大学地域未来協創本部 副本部長	佐藤利夫	
オールしまねCOC+事業 COC+推進コーディネーター	池淵昇平	
島根県商工会議所連合会 事務局長	高尾健司	
島根県商工会連合会 事務局長	越後伸一	
島根経済同友会 事務局長	富田芳光	
島根県中小企業団体中央会 事務局長	荒田裕司	
(一般)島根県経営者協会 専務理事	森脇建二	
島根県中小企業家同友会 参与	岡 一則	
島根県商工労働部 産業振興課長	松浦士登	
島根県商工労働部 雇用政策課長	川本ゆかり	
島根労働局職業安定部 職業安定課長	菟浦 宏	
(公財)ふるさと島根定住財団 事務局長	米山祐司	
島根大学地域未来協創本部 地域人材育成部門長	松崎 貴	
島根大学教育・学生支援機構 キャリアセンター長	水野 薫	
島根県立大学 キャリアセンター長	久保田 典男	
松江工業高等専門学校 キャリア支援室長	服部真弓	

また、昨年度までに開催した第1回から第7回の推進協議会に引き続き、今年度は同協議会を次の通り開催した。

表 4-3：平成 30 年度島根協働教育パートナーシップ推進協議会開催一覧

	実施日時	議事内容
第8回	5月24日(木) 10:00~11:30	議題1. しまね協働教育パートナーシップ推進協議会規約の改正について 議題2. 第4期しまね協働教育パートナーシップ登録団体の決定について 議題3. 第5期しまね協働教育パートナーシップ登録団体の募集について 議題4. 平成30年度事業計画について 議題5. しまね協働教育パートナーシップ登録団体紹介冊子の作成について 議題6. インターンシップフェアの開催について 議題7. その他
第9回	11月29日(木) 10:30~12:00	報告1. 12/15しまね大交流会2018について 報告2. インターンシップフェア(県立大学)の開催概要について 議題1. 第5期しまね協働教育パートナーシップ登録団体の決定について 議題2. 平成30年度事業計画について 議題3. しまね協働教育パートナーシップ登録団体紹介冊子の作成について 議題4. その他
第10回	2月13日(水) 11:00~12:00	報告1. しまね大交流会2018開催結果について 報告2. 登録団体向け研修会(1/9島大)について 議題1. 第6期登録団体の募集について 議題2. 第1期登録団体の更新手続きについて 議題3. しまね協働教育パートナーシップ登録団体紹介冊子の作成について 議題4. オールしまね協働教育フォーラムの開催について 議題5. H30年度事業実施状況について 議題6. H31年度事業計画について 議題7. その他

*開催場所は、島根大学と島根県立大学浜田キャンパス、松江工業高等専門学校をTV会議システムにて中継して実施。

パートナーシップ登録団体については、COC+推進コーディネーターがヒアリングを兼ねて各団体を訪問し、本パートナーシップ制度について説明を行った。その後、登録を希望する団体が本推進協議会事務局あてに申請を行い、しまね協働教育パートナーシップ推進協議会にて申請内容の審査・承認を行った。平成30年度末までに登録団体数は203団体となり年度目標を大きく上回った。登録団体一覧を表4-4に示す。また、ホームページ上に全団体のロゴおよびWebサイトへのリンクを掲載した⁸。

⁸ http://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project03/prj03_partner/

表 4-4：しまね協働教育パートナーシップ登録団体一覧

1	アースサポート株式会社	42	株式会社共立エンジニア	83	公益財団法人 しまね産業振興財団	124	株式会社テクノプロジェクト	165	株式会社豊栄工業
2	株式会社アイ・コミュニケーション	43	共和水産株式会社	84	島根自動車株式会社	125	東京靴株式会社	166	株式会社豊洋
3	株式会社アイティプロデュース	44	協和地建コンサルタント株式会社	85	島根島津株式会社	126	東洋製鉄株式会社出雲仁多工場	167	益田市
4	株式会社アイル	45	株式会社グローバル出雲工場	86	島根職業能力開発短期大学校	127	ドクターリセラ株式会社江津カスタマーセンター	168	株式会社松江エクスセルホテル東急
5	明石屋株式会社	46	株式会社クロレラサプライ	87	しまね信用金庫	128	トップ金属工業株式会社	169	松江工業高等専門学校
6	株式会社浅野歯車製作所	47	江津市	88	島根大学	129	中浦食品株式会社	170	松江市
7	浅利観光株式会社（松江アーバンホテルグループ）	48	神戸天然物化学株式会社	89	島根ダイハツ販売株式会社	130	株式会社長岡塗装店	171	松江第一精工株式会社
8	一般社団法人海士町観光協会	49	甲陽ケミカル株式会社	90	島根中央信用金庫	131	株式会社中筋組	172	松江土建株式会社
9	アルファー食品株式会社	50	株式会社コスモ建設コンサルタント	91	島根電工株式会社	132	中村プレス株式会社	173	松江山本金属株式会社
10	株式会社イーウェル松江オペレーションセンター	51	株式会社コダマ	92	島根トヨタグループ	133	有限会社なにわ旅館	174	株式会社松永牧場
11	飯石森林組合	52	(株)コダマサイエンス	93	島根ナカバヤシ株式会社	134	西日本旅客鉄道株式会社米子支社	175	丸京製菓株式会社
12	株式会社イード	53	寿製菓株式会社	94	株式会社島根富士通	135	西ノ島町	176	株式会社丸合
13	飯南町	54	株式会社コニシ	95	シマネ益田電子株式会社	136	日新ホールディングス株式会社	177	まるなか建設株式会社
14	イズテック株式会社	55	株式会社コミグリ	96	JUKI 松江株式会社	137	株式会社日西テクノプラン	178	マルハ食品株式会社
15	出雲市	56	サイバートラスト株式会社	97	社会福祉法人壽光会	138	日精版有限会社	179	株式会社みしまや
16	株式会社出雲村田製作所	57	境港海陸運送株式会社	98	株式会社ジュンテンドー	139	株式会社ニッポウ島根工場	180	社会福祉法人みずうみ
17	一畑電気鉄道株式会社	58	境港市観光協会	99	社会福祉法人尚仁福祉会	140	株式会社日本海技術コンサルタンツ	181	医療法人社団 水澄み会
18	合資会社一文字家	59	山陰ケーブルビジョン株式会社	100	株式会社昭和測量設計事務所	141	日本システム開発株式会社	182	株式会社ミック
19	今井産業株式会社	60	株式会社山陰合同銀行	101	有限会社白石家	142	株式会社日本パーカーライジング広島工場	183	三菱マヒンドラ農機株式会社
20	株式会社今井書店	61	山陰酸業工業株式会社	102	社会福祉法人しらくり会	143	株式会社ネットワーク応用通信研究所	184	皆美グループ
21	株式会社石見銀山生活文化研究所	62	株式会社山陰中央新報社	103	株式会社伸興サンライズ	144	株式会社バイタルリード	185	株式会社御船組
22	石見食品株式会社	63	山陰中央テレビジョン放送株式会社	104	社会医療法人仁寿会	145	株式会社パソナテック	186	美保テクノス株式会社
23	株式会社ウシオ	64	株式会社山海	105	シンワ技研コンサルタント株式会社	146	泰精工株式会社	187	株式会社昭和
24	雲南市	65	株式会社サンクラフト	106	スタジオ和オリエント株式会社	147	パナソニックESソーラーシステム製造株式会社	188	株式会社守谷物産研究所
25	エクスウェア株式会社	66	三光株式会社	107	須山木材株式会社	148	浜田市	189	モルツワイル株式会社
26	NTN鋳造株式会社	67	サン電子工業株式会社	108	セコム山陰株式会社	149	パルソフトウェア株式会社	190	株式会社モンスター・ラボ
27	株式会社エブリプラン	68	株式会社さんびる	109	株式会社セントラル情報センター	150	飯古建設有限会社	191	株式会社八雲ソフトウェア
28	株式会社オーエム機械穴道工場	69	株式会社さんれいフーズ	110	曾田鉄工有限会社	151	有限会社ピー・エム・イー	192	安来市
29	オーエム金属工業株式会社	70	株式会社さんわファクトリー	111	大福工業株式会社	152	株式会社 日立メタルプレジジョン	193	ヤンマーキャステクノ株式会社
30	大田市	71	株式会社シーエスエー	112	有限会社高浜印刷	153	社会福祉法人ひまわり福祉会	194	弓ヶ浜水産株式会社
31	邑南町	72	株式会社 CMC Solutions	113	有限会社高村	154	株式会社ヒューマンシステム	195	株式会社吉田ふるさと村
32	大畑建設株式会社	73	JA共済連島根	114	株式会社タケタ造園	155	ヒラタ精機株式会社	196	コシウ工業株式会社
33	大見工業株式会社	74	株式会社シティプラスチック	115	株式会社田中種苗	156	株式会社ファシリティ出雲研究所	197	米子信用金庫
34	株式会社大屋ハイテック	75	島根イーグル株式会社	116	株式会社田部	157	ファミリーイナダ株式会社	198	株式会社りそな銀行島根カスターセンター
35	株式会社岡貞組	76	株式会社島根銀行	117	株式会社谷口印刷・ハーベスト出版	158	フェンリル株式会社	199	流通株式会社
36	株式会社オネスト	77	島根県	118	株式会社玉造温泉まちでこ	159	株式会社藤井基礎設計事務所	200	株式会社ワールド測量設計
37	カナツ技建工業株式会社	78	島根県警察本部	119	有限会社竹葉	160	フジコーポレーション株式会社	201	株式会社ワイテック
38	株式会社キグチテクノクス	79	社会福祉法人島根県社会福祉事業団	120	株式会社中海テレビ放送	161	富士産業株式会社山陰事業部	202	和幸情報システム株式会社
39	木次乳業有限会社	80	島根県信用保証協会	121	中国環境株式会社	162	公益財団法人ふるさと島根定住財団	203	株式会社ワコムアイティ
40	久文建設株式会社	81	島根県農業協同組合	122	津山製菓株式会社	163	特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい		
41	協栄金属工業株式会社	82	島根県立大学 島根県立大学短期大学部	123	帝人コードレ株式会社	164	株式会社プロビズモ		

1

2

3

4

しまね協働教育パートナーシップ

5

6

7

8

(2) パートナーシップ登録団体を対象とした研修会等の取組

本年度のパートナーシップ登録団体を対象とした研修会は表 4-5 の通りである。

表 4-5：パートナーシップ登録団体対象研修会等開催一覧

名称	日時	開催場所	参加団体数・人数
●登録団体対象セミナー			
	①5月30日(水) 14:00~14:15	島根大学(松江キャンパス) 大学会館3階 大集会室	16団体16名
	②11月8日(木) 16:30~18:30	島根大学(松江キャンパス) 附属図書館3階 多目的室	15団体25名
	③11月16日(金) 17:00~19:30	島根大学(松江キャンパス) 大学会館3階 大集会室	12団体29名
	④1月9日(水) 15:00~18:00	島根大学(松江キャンパス) 大学会館2階 集会室	30団体32名
●オールしまね協働教育フォーラム			
	3月27日(水) 14:00~17:30	島根大学(松江キャンパス) *中継:島根県立大学(浜田キャンパス)	161名

●登録団体対象セミナー 各回の概要

①「出展者対象事前研修」(5月30日開催)

インターンシップフェアの開催に合わせ、出展者対象事前研修(インターンシップフェアに出展する事業所出展に向けた心構えや学生の意識調査結果について島根大学キャリアセンター田中講師より講義を行った。

このセミナーの参加者を対象としたアンケート結果からは、「説明をする上でのポイントが分かり良かった」「現在の動向や、どんな学生さんが参加されているかわかった」とこのセミナーの有用感を提供することができた。また、インターンシップ出展者としてのインターンシップフェア全体についても、4段階評価で「とても良かった」または「良かった」と答えた回答者の割合が100%となり、高評価を得た。ミニセミナーという形で短時間に行ったが、学生・出展者(企業)間の、意識の違いを埋め、双方のミスマッチを防いだことが、インターンシップフェア全体の高評価の一因とも考えられる。



セミナーの内容を即実践



セミナーの内容を即実践

②「しまね大交流会 2018 出展者向けワークショップ (1) - データ分析「引き出し」編 -」(11月8日開催)

③「しまね大交流会 2018 出展者向けワークショップ (2) - アイデア・企画「ほぐし」編 -」(11月16日開催)

しまね大交流会の開催に合わせ、出展者向けのワークショップを島根大学地域未来協創本部地域人材育成マネージャー高須講師が行った。本セミナーはしまね交流会の出展準備に役立つ情報と日々の業務に役立つことを2回のワークショップを通して身に付けることを目標とし開催した。ワークショップ(1)では、アクティブリスニングについて学び、ワークショップ(2)では、その実践を学生相手に行った。出展者は、学生相手の実践から得た知見をしまね大交流会本番に活かすこともでき、出展内容の質的向上にも貢献することができた。

④「学生が参加したくなるインターンシッププログラム作成講座」(1月9日開催)

テーマを「学生が参加したくなるインターンシッププログラム作成講座」とし、講師には、NPO法人ETIC 伊藤淳司氏、瀬沼希望氏を迎えた。本講座は、2部構成で行われ、前半部分ではインターンシップの現状、プログラムの作成方法について説明を行った。後半からは夏季インターンシップに参加した学生も参加し、一緒にインターンシッププログラムを作成するワークを行った。昨年度も同様の企画を開催したが、それより多くの方が参加し、研修中は活発な意見交換等が行われた。参加した学生からは「社会人になってもこういった学びの場があり、わからないことは企業の垣根を越えて勉強できることが分かってよかった」という意見があり、学生にとっても将来山陰で働く姿を思い描く良い機会となった。

このセミナーの参加者を対象としたアンケート結果は、セミナーに対する評価が、4段階評価で「良かった」または「まあまあ良かった」と答えた回答者の割合が100%となり、これまで同様に高評価だった。その理由を自由記述で問うたところ、「実際に学生さんインターンシップの話が聞け、勉強になりました」「学生の生の声が聞けたこと、自社に合うプログラムを作れば良いと思いました(期間、内容、ターゲットの学生)」「学生さんの声を聴けたこと、目的意識を持つことが企業側にも大切だと分かった」など学生の生の声を聞くことにより満足度が高くなったと思われる。



プログラム作成ワークの様子



プログラム作成ワークの様子

● オールしまね協働教育フォーラム

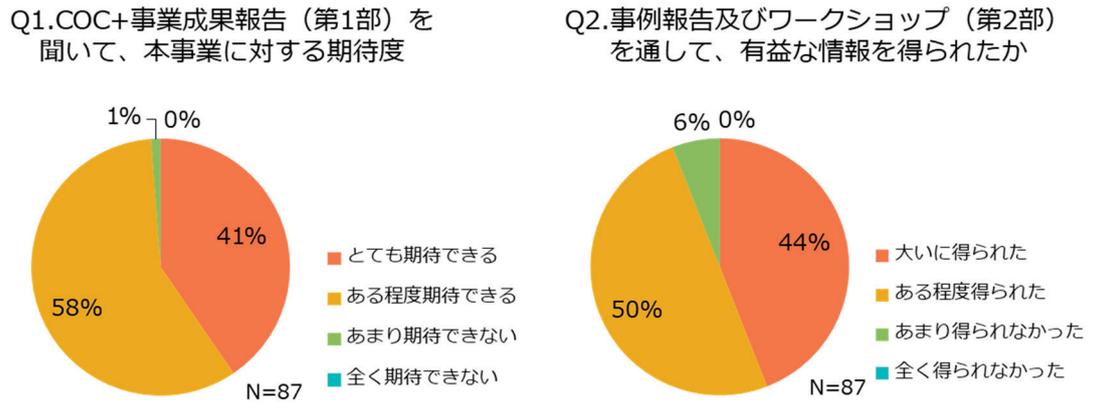
しまね協働教育パートナーシップの理念の共有および、登録団体間の連帯感醸成、各登録団体自身の自己研鑽につながる有益な情報の提供などを目的とした「オールしまね協働教育フォーラム」を、オールしまねCOC+事業の平成30年度成果報告会と合わせて次の通り開催した。第2部の「オールしまね協働教育フォーラム」では、各高等教育機関の学生及び協働先の企業・団体の担当者から事例報告を行い、続いてワークショップでは、事例報告の発表者が各グループに入り、事例報告内容や成功要因を共有し、持続可能な地域協働教育のあり方について議論を深めた。

日時	2019年3月27日(水) 14:00~17:25
場所	【主会場】島根大学 松江キャンパス 大学ホール 【副会場】島根県立大学 浜田キャンパス 中講義室4 【交流会】大学食堂 Sogno【ソーニョ】
対象	しまね協働教育パートナーシップ登録団体 ほか 地元企業、行政、教育機関、一般市民 等
プログラム	開会挨拶 服部泰直(島根大学学長/オールしまねCOC+事業推進代表者) 【第1部】オールしまねCOC+事業 平成30年度成果報告 『大学発』から『地域発』へ—持続可能な地域づくりを検討する— 【第2部】オールしまね協働教育フォーラム (1) 協働教育の事例報告 学生×地域 事例報告LT(ライトニングトーク) ①島根大学「キャリアデザインプログラム」 協働先: 中浦食品、島根県建設業協会、松江東高校、持田小学校 ②島根大学「中山間地域フィールド演習」 協働先: つむぎ(JR出雲大東駅管理者)

	<p>③島根大学「駅魅力化プロジェクト」 協働先：JR 西日本米子支社</p> <p>④島根大学「吉田プロジェクト」 協働先：吉田ふるさと村</p> <p>⑤島根大学「カエルプロジェクト」 協働先：島根県教育委員会</p> <p>⑥県立大学「久保田研究室」 協働先：益田市、益田市教育委員会、益田地区振興センター、 益田商店会</p> <p>⑦松江高専「インターンシップ」 協働先：日立メタルプレジジョン</p> <p>(2) 事例報告者を交えたワークショップ</p> <p>閉会挨拶 秋重 幸邦 (島根大学理事・副学長／オールしまね COC+事業責任者)</p> <p>*18:00～ 交流会</p>
--	---

本フォーラムには、地元企業、行政、教育機関などから 161 名の参加があった。当日の参加者アンケートの結果を図 4-3 に示す。

図 4-3：アンケート結果



有益な情報を得たと回答があった割合は94%であり、そのうち「ある程度得られた」、「大いに得られた」と答えた参加者の「具体的な気づきや印象に残ったこと」に関する自由記述の抜粋を次に示す。

- 7つの取り組みを、それぞれ聞きましたが、学生（若者）の純粋な視点に新たな感動を受けました。今後、この取り組みの受け入れにどこかで協力出来ればと思いました。（企業・団体）
- 自分たちに何ができないことがないか、考えるきっかけになった。（企業・団体）
- 産学官を巻き込んで積極的に活動されていることを知ることができた。当社としても何らかの協力がよりできるよう働きかけていきたい。（企業・団体）
- 学生と企業が具体的に協働していることがわかってよかった。学生にとっても企業にとっても有益な取組だと思う。（自治体）
- 教育機関と産業界とか、しっかり本気で対話を深めていく大事さ。協働教育に向けての可能性を感じました。（自治体）
- 地域で活動する際に必要な事、どのような目標を立て、取り組むべきかを確認できました。（学生・高専生）
- 様々な事例や関わり方、方法があっっておもしろかった。企業さんとの本音トークがとても良かった。（学生・高専生）
- 学生と企業等との関係の多様さ、活動のレベルの幅の広さ等について実践から知ることができました。（大学・高専教職員）

アンケートの結果、本フォーラムの参加者の満足度が高かったことから、知りたい情報または聞いてためになる情報を提供できたものと考えている。本フォーラムで得られた各団体のニーズに基づき、インターンシップなどの様々な協働教育事例を共有・議論する場の提供など、地域の教育力向上に資する活動を引き続き行っていきたい。

<記録写真>



会場の様子



事例報告

（島大キャリアデザインプログラム）



事例報告

(吉田プロジェクト×吉田ふるさと村)



事例報告

(カエルプロジェクト×島根県教育委員会)



ワークショップの様子



ワークショップの様子

1

2

3

4

5

6

7

8

(3) パートナーシップを活用した学生の協働教育に資する取組

平成 30 年度末までにしまね協働教育パートナーシップ登録団体数は 203 団体 となり、最終年度の目標値をすでに上回った。さらには、学生に登録団体の魅力を紹介する学生向け冊子を 7,000 部作製した (図 4-4)。就職に関する情報だけでなく、インターンシップや OB・OG 紹介なども掲載し、学生が地域の企業等を「知る」ための重要なツールとして各高等教育機関に配布し、キャリア教育や就職活動指導などに活用を開始した。

また、パートナーシップ登録団体の協力を得て、インターンシップフェア (東部：5 月 30 日、西部：11 月 7 日) や企業ツアー (5/26、5/30、6/2、6/6、8/6、8/29 等)、学生と企業との交流会 (5/23、7/11、11/16 等)、業界・企業研究フェア (2 月 8 日) などを開催した。これらの取組の詳細については第 2 章に報告した。また、第 3 章に報告した「しまね大交流会 (12 月 15 日)」の出展にあたって、当パートナーシップ登録団体に協力を得て多数出展いただいた。詳細は各章に記載したのでそちらを参照いただきたい。

図 4-4：しまね協働教育パートナーシップ 事業所ガイドブック



第5章. 地域情報アーカイブ Ago-Lab

地域情報アーカイブ Ago-Lab（以下、Ago-Lab）は、地域ステークホルダーが持つ地方創生に関わる情報の蓄積・相互共有・発信を行うために WEB 上に展開する構築型の地域情報アーカイブプラットフォームとして設置したものである(図 5-1)。

Ago-Lab の導入により、これまで個々の Web サイトや Facebook 等の SNS 上に散在していた地域情報を一元的に集約することが可能になる。Ago-Lab は、地方創生に関わる活動をする個人・組織等が互いに繋がりあう場を地域社会に提供するとともに、誰でも簡単に島根の地域情報を検索・入手できる仕組みを活用した地域学習の優れたツールとしても活用でき、ひいては、島根県の活力や魅力を県内外に発信することを可能にするものである。

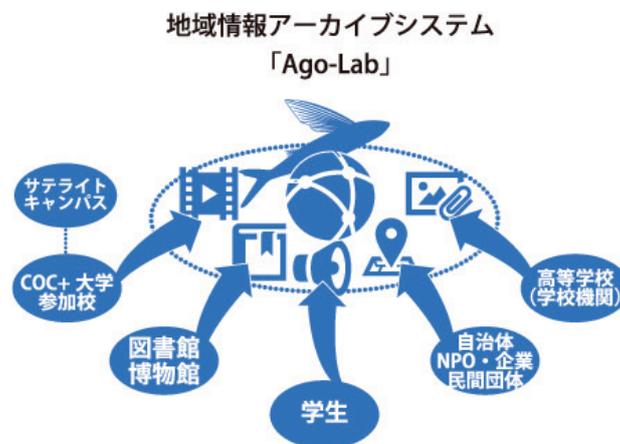


図 5-1 : Ago-Lab とは

Ago-Lab は、平成 27 年度に基盤のプログラム開発を行い、平成 28 年度に限定リリース、一般リリースを行った。トップページのイメージを図 5-2 に示す。

一般的なソーシャルメディアと同様に「記事の閲覧」に関しては、アカウントの登録なしに行うことが可能であるが、「記事の投稿」に関しては、利用規約を承諾の上、アカウントの取得が必要である。アカウント取得後は、記事の作成・投稿を行うマイページを利用可能になる。マイページは、パソコンだけでなくスマートフォンからもアクセス可能で、投稿のしやすさを確保している。

本年度は、昨年度に引き続いて Ago-Lab を、地域志向教育の現場で活用する取組に注力し、SNS を用いた新しい教育の在り方の検討を同時に行った。

1
2
3
4
5
6
7
8

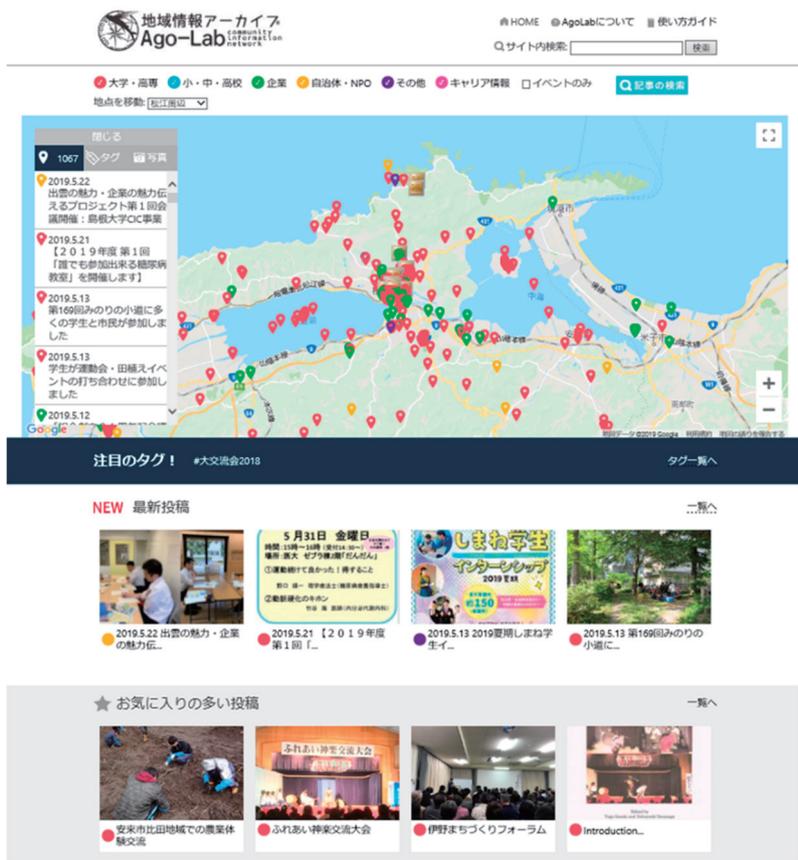


図 5-2 : Ago-Lab トップページ (令和元年 5 月 22 日現在)

【Ago-Lab の本年度実績】

本プロジェクトに特化した KPI は特に設けていないが、以下の項目を取組の評価指標として報告する。

表 5-1 : Ago-Lab の本年度実績

投稿アカウント数	1,314 (平成29年度末772件)
ページビュー数	61,246回 (平成29年度末37,906件) * 平成29年4月からカウント機能を追加
Ago-Lab活用授業 (島根大学)	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップセミナー (受講者数401名) ⇒ワーク「島根県19市町村魅力発信プロジェクト」にて、発信ツールとして利用。 ・島根学 (受講者数379名) ⇒地域情報の収集サイトとして推奨利用 ・地域未来論 (受講者数73名) ⇒地域情報の収集サイトとして推奨利用 ・事例ビジネス開発論 (受講者数22名) ⇒地域ビジネスに関する情報収集サイトとして推奨利用 (ほか)
Ago-Lab活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・しまね大交流会 ⇒出展団体による事前PRの投稿サイトとして利用 (44団体が活用した)

「スタートアップセミナー」や「島根学」といった多くの学生が受講する授業やしまね大交流会の事前PRの場として Ago-Lab を活用したことにより、昨年度末から約2万以上ページビューが増加している。Ago-Lab の地域情報の発信およびその集約機能により、幅広い層に対し投稿者がその地域の活動や魅力を伝えることができた。

また、「スタートアップセミナー」を受講した学生のうち、「チームプロジェクトの成果を Web で発信することは社会的に意義があった」との質問に対し、肯定的にとらえた割合が70%を超えた（図 5-3）。

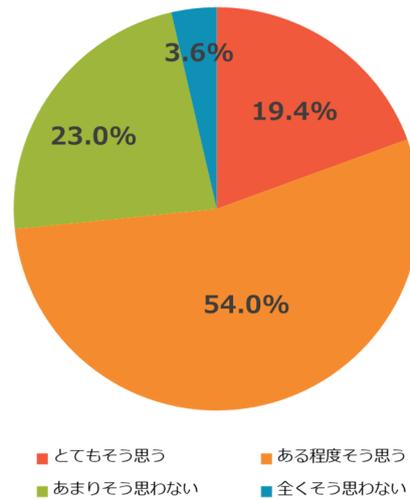


図 5-3: 授業で取組んだプロジェクトの成果を Web で発信することの社会的意義 (N=300)

Ago-Lab は、順調に記事の数を増やしつつあり、それに伴って、授業での活用場面も増えてきている。また、大学生が地域志向教育の成果物等を Ago-Lab を用いて発信することで、発信した内容そのものを一つの情報源として他者が使うことも可能になった。現在島根県内の多くの高等学校で取組まれている地域課題研究等とも連携し、さらなるサイトの充実につとめたい。

第6章. しまねクリエイティブラボネットワーク

しまねクリエイティブラボネットワークプロジェクトは、学生・教職員・企業・NPO等が立場や分野を超えて交流できる「多様性と流動性のある空間」の開設により、アイデア・スキルの醸成や具現化、中小零細企業が単独では困難だった製品開発・技術向上の支援を目指すほか、地域ステークホルダーと学生の交流により教育促進と雇用創出にも寄与する空間づくりを目指すものである。本プロジェクトの計画骨子を図6-1および表6-1に示す。



図 6-1：島根大学におけるオープンスペースの計画骨子

表 6-1：3つの「コミュニティラボ」の方向性

計画名称	方向性
地域コミュニティラボ	事業協働地域を中心とした山陰地域そのものを情報源とした地域情報の集積・交流地。
技術コミュニティラボ	事業化までを見通せる技術および研究を核とするコミュニティの形成。
ものづくりコミュニティラボ	学生の創発力の育成と学外との交流。

以下各ラボの取組実績を報告する。

6-1. 地域コミュニティラボ⁹

地域コミュニティラボとは、島根大学において従前からのCOC事業の進展により学生・教職員が地域について知る機会が増加したことに対し、地域側からの情報発信と交流を学内で行える場所として、平成28年度に開設した。具体的には、オールしまねCOC+事業に賛同する山陰地域の地方公共団体、教育機関、研究機関、特定非営利活動法人、営利企業その他の各種団体の活動状況や活動成果を紹介する展示を行うものである。これにより、本学学生や教職員への地域に関する情報提供を行い、島根大学の地域志向教育や学生の島根県内への就職、教員と各種団体との共同研究・共同事業等の推進に資することを目的としている。

これまで行ってきた展示に引き続き、本年度は表6-2に示す5つの展示を行うことがで

⁹ http://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project04/prj04_lab01/

きた。また、大学附属図書館という環境において、地域の情報を発信する展示スペースが持つ意味と可能性については、昌子ほか（2018）¹⁰にまとめているので参照されたい。

表 6-2：本年度実施展示一覧

No.	展示期間	展示名	来館者数
2018-1	4/17（火）～5/1（火）	松江と茶の湯文化 －不昧公200年祭記念企画展－	779名
2018-2	5/12～（土）～6/3（日）	島根半島四十二浦巡り －再発見される半島の歴史－	625名
2018-3	11/16（金）～11/29（木）	島根出身・西蔵仏教求法僧 －能海寛150周年記念展－	892名
2018-4	12/5（水）～12/24（月）	お城の動物園－松江城の今昔－	650名
2018-5	1/12（土）～1/27（日）	さの子さん、上方を旅する －江戸の旅事情－	253名
合計			3,199名

今年度の展示も昨年度に引き続き、年間 3000 名以上の来館者があった。次ページ以降に、各展示の開催結果を報告する。

¹⁰ 昌子 喜信・高須 佳奈・中野 洋平（2018）「地域コミュニティラボ ―地域の情報を発信する展示スペース―」 淞雲 20, 67-82 <http://ir.lib.shimane-u.ac.jp/40905>

2018-1：「松江と茶の湯文化ー不昧公 200 年祭記念企画展ー」展

主催	松江市 島根大学	 <p>チラシ</p>
協力	不昧公 200 年祭記念事業推進委員会 島根県 手銭記念館	
主な展示物	<ul style="list-style-type: none"> ・肖像画／松江城年表&系図／不昧公の足跡&関連写真パネル ・御用釜 楽山焼き/布志名焼き ・漆工芸 小島漆壺斎の棗 ・月照寺／田部美術館／普門院／明々庵／菅田庵／堀川遊覧船紹介パネル ・不昧公 200 年祭ポスター／200 年祭概要パネル ・お手軽茶道具セット(八百万・楽山) ・工芸菓子【彩雲堂】 ほか 	
関連企画	関連書籍の展示 (4/17 (火) ～5/1 (火)) お茶会 (4/28 (土) 島根大学茶道部実施)	
記録写真	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例</p>
	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例</p>

2018-2：「島根半島四十二浦巡り－再発見される半島の歴史－」展

主催	島根半島四十二浦巡り再発見研究会 島根大学	 <p>チラシ</p>
協力	一畑寺 島根半島・宍道湖・中海（国引き）ジオパーク推進協 議会	
主な展示物	<ul style="list-style-type: none"> ・解説パネル ・旅巡りガイドブック ・ジオパークの地質図 ・三江線沿線の市民の方から提供された古写真 	
関連企画	特になし	
記録写真	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例</p>
	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例</p>

1

2

3

4

5

6

しまねクリエイティブラボネットワーク

7

8

2018-3：「島根出身・西藏仏教求法僧－能海寛 150 周年記念展－」展

主催	能海寛研究会 島根大学	 <p>チラシ</p>
協力	・BSS 山陰放送	
主な展示物	<ul style="list-style-type: none"> ・解説パネル ・能見寛著作集 ・能見寛関連書類 	
関連企画	関連講演会（11/20（火）実施）	
記録写真	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例</p>
	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例</p>

2018-4：「お城の動物園－松江城の今昔－」展

主催	任意サークル「生きもののわ」 島根大学	 <p>チラシ</p>
協力	松江市 島根県立図書館 村田浩一（よこはま動物園ズーラシア園長）	
主な展示物	<ul style="list-style-type: none"> ・解説パネル ・松江城の今昔 ・松江城関連書類 	
関連企画	ギャラリートーク（12/20（木）実施）	
記録写真	 <p>展示物一例</p>	 <p>ギャラリートーク開催時の様子</p>
	 <p>ギャラリートーク開催時の様子</p>	 <p>ギャラリートーク開催時の様子</p>

1

2

3

4

5

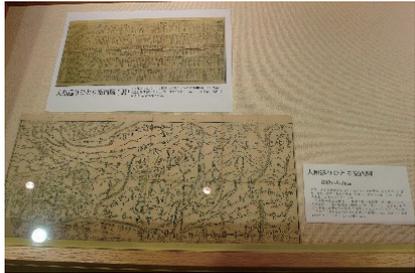
6

しまねクリエイティブラボネットワーク

7

8

2018-5 : 「さの子さん、上方を旅するー江戸の旅事情ー」展

主催	出雲文化活用プロジェクト 島根大学	 <p>チラシ</p>
協力	-	
主な展示物	<ul style="list-style-type: none"> ・解説パネル ・さの子の旅行記録 ・さの子が持ち帰ったガイド・パンフレット類 ・当時の旅行関係の資料 	
関連企画	ギャラリートーク (1/21 (月) 実施)	
記録写真	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例</p>
	 <p>展示物一例</p>	 <p>ギャラリートーク開催時の様子</p>

6-2. 技術コミュニティラボ¹¹

技術コミュニティラボとは、情報提供者である大学教員等と産業界を結びつけ地域における大学の垣根を低くするとともに、産学官連携をベースとしたイノベーションを創出するための新たな取組として、少人数・双方向性の情報交換の「場」として昨年度7月に開設した。運営は、島根大学 研究・学術情報機構 産学連携センターと島根県が共同で行った。開催の際も従来の「セミナー」や「研修会」のような表現を用いず、各回を「ミーティング」と称して実施している。

ミーティングは、大学教員等からの情報提供1時間と質疑応答1時間の合計2時間で行うことを基本的な形式としている。大学教員による発表も、参加者が活発なコミュニケーションを図るための一つの手段である「情報提供」として解釈され、情報提供後も1時間程度のディスカッションの時間が設けられている。平成30年度は下記3回のミーティングを開催し、60人の参加となった。

また、通常のミーティングとは別に、しまね大交流大会と連携し、出展者交流会の時間帯に若手データサイエンティストによるLT（ライトニングトーク）を実施し、40名の参加があった。

表 6-3：技術コミュニティラボ本年度実施ミーティング一覧

	実施日時	ミーティングテーマ	参加者数
2018-1	5月24日(木) 14:00～	航空宇宙分野における流体の数値シミュレーション活用	12
2018-2	7月27日(金) 14:00～	センサネットワーク技術とその応用	23
2018-3	11月30日(金) 14:00～	IoTを活用したモニタリングシステム	25
番外編	12月15日(土) 11:00～	技術コミュニティラボin大交流会 ～蔵出し！大学・高専 若手データサイエンティストLT～	40
		合計	100

以下、各ミーティングの開催報告を記す。

¹¹ <http://www.crc.shimane-u.ac.jp/r-kikaku/lab/home.htm>

2018-1：「航空宇宙分野における流体の数値シミュレーション活用」

日時	5月24日(木) 14:00～	 <p>チラシ</p>
場所	島根大学旧産学連携センター	
参加者	12名(産5名、学6名、官1名)	
プログラム	<p>14:00-15:00 情報提供(総理工学系(機械・電気電子工学)新城 淳史 准教授)</p> <p>15:00-16:00 意見交換・ディスカッション</p> <p>18:00~20:00 懇親会</p>	
シーズのポイント	・航空機・機械設計等への流体シミュレーションの活用 ・よりリアルで複雑な流体现象の解明	
記録写真		

1

2

3

4

5

6

しまねクリエイティブラボネットワーク

7

8

2018-2 : 「センサネットワーク技術とその応用」

日時	7月27日(金) 14:00～	 <p>チラシ</p>
場所	島根大学旧産学連携センター	
参加者	23名(産:8、官:8、学7)	
プログラム	<p>14:00-15:00 情報提供(知能情報デザイン学科 神崎 映光 准教授)</p> <p>15:00-16:00 意見交換・ディスカッション</p> <p>17:40~20:00 懇親会</p>	
シーズのポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・無線センサネットワーク研究と活用事例 ・「動き回る」センサで作るモバイルセンサネットワーク技術 ・幅広い産業分野において活用可能 	
記録写真		

1
2
3
4
5
6
7
8

6
しまねクリエイティブラボネットワーク

2018-3 : 「IoT を活用したモニタリングシステム」

日時	11月30日(金) 14:00~	 <p style="text-align: center;">チラシ</p>
場所	島根大学地域未来協創本部・北陵町(旧産学連携センター)	
参加者	25名(産8, 官7, 学9名)	
プログラム	<p>14:00-15:00 情報提供(松江工業高等専門学校 杉山 耕一朗 准教授)</p> <p>15:00-16:00 意見交換</p> <p>18:00~20:30 懇親会</p>	
シーズのポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・「安価」かつ「多数」の ToT デバイスによる環境情報の収集と分析 ・活用事例の紹介：教育環境の見える化、地域農業での水資源管理 ・ハードウェア・ソフトウェア的な「ものづくり」 	
記録写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	

1

2

3

4

5

6

7

8

番外編：技術コミュニティラボ in 大交流会～蔵出し！大学・高専 若手データサイエンティスト LT～

日時	12月15日(土) 11:00～	
場所	くにびきメッセ大展示場（大交流会メイン会場）	
参加者	40名	
プログラム	<ol style="list-style-type: none"> 1. 島根大学人間科学部 宮崎 亮 准教授 「ウェアラブル端末を用いた朝型・夜型タイプ別運動プログラム」 2. 島根大学総合理工学部 白井 匡人 特任助教 「データサイエンスの活用と機械学習」 3. 島根大学総合理工学部 神崎 映光 准教授 「センサネットワーク技術とその応用」 4. 島根大学地域包括ケア教育研究センター 中野 邦彦 助教 「ヘルスケアデータサイエンスと自治体オープンデータ」 5. 松江工業高等専門学校情報工学科 杉山 耕一朗 准教授 「IoTを活用した環境モニタリングシステム」 	
記録写真		

チラシ

平成29年度より開催している「技術コミュニティラボ」の直接的な成果として2件の共同研究を実施している。1つ目は、AI（人工知能）を用いたweb面接システムの構築に関する共同研究である。深層学習により顔の表情からの性格判定、回答の信頼性判定、会話の高精度テキスト化等を目指している。2つ目は、組み込み型ルビーに関する共同研究であり、これによりIoTシステムにおいてより簡易かつ迅速にシステムを作動させることが期待される。

また、今年度は初めての試みとして「しまね大交流会」にて、『技術コミュニティラボ in 大交流会 2018～蔵出し！大学・高専 若手データサイエンティスト LT～』を開催した。島根大学および松江高専における若手データサイエンティスト5人による発表の後、情報交換発表を行い、後日面談8件、外部資金への共同申請2件、共同研究を目指した話し合い

1

2

3

4

5

6

しまねクリエイティブラボネットワーク

7

8

の継続2件、学連携2件（IoT×災害、IoT・AI×農業）を創出した。

6-3. ものづくりコミュニティラボ

平成30年3月に島根大学教育学部棟木工室内にものづくりコミュニティラボ（昨年度に計画調書の「教育コミュニティラボ」から名称を変更）を設置し、本年度は本ラボの積極的な活用を図り、今年度は表6-4に示す6つの取組を行った。

具体的には、昨年度に続き橋爪一治（教育学部）と高須佳奈（地域未来協創本部）が大学生向けの教養科目「ものづくりと創造性」を開講し、8名の学生がものづくりをベースとしたPBLに取組んだ。また、同ラボを活用し、市民向けのものづくりワークショップを公開講座や松江・安来広域連携事業親子講座などの形式で4講座計24回提供し、小学生を含む47名が講座を受講した。活動の様子は、抜粋したものを写真で示す。また表6-4には記載していないが、中学生を対象としたロボコン教室等の試行も行った。

今年度は、「豊かな発想力・創造性を備えた課題解決能力の高い人材育成」という地域からの要望に応える人材育成の場所として、学生および社会人・一般市民を対象にした授業科目、公開講座、セミナー等の開催をすることができた。また本ラボは、学生からのニーズに基づいたものとなっており、ものづくりによる課題解決を志す学生らの取組を支援する体制を整えることができた。

表6-4：ものづくりコミュニティラボ本年度取組一覧

	項目	日時	担当者等	参加者数
1	【授業科目】 「ものづくりと創造性」	平成30年度 前期授業	橋爪一治（教育学部） 高須佳奈（地域未来協創本部）	8
2	【前期公開講座】 「くらしを彩るものづくり講座（初級編）」	6/9（土）9:00～16:00	橋爪一治（教育学部）	10
3	【通年公開講座】 「木育教室」	5/13～12/16	山下晃功（本学名誉教授） 野田真幹（NPOもりふれ倶楽部）	8
4	【通年公開講座】 「くらしを作る・・・木工教室」	4/22～3/17	山下晃功（島根大学名誉教授）	16
5	【市民に向けた講座の開講】 親子講座「つくる・楽しむ・わかる 科学教室『音の科学』」	7/28（土）10:00～ 13:30～	高須佳奈（地域未来協創本部）	44
6	【後期公開講座】 大人のための科学・ものづくり教室	11/10（土）および11/17（土）	高須佳奈（地域未来協創本部）	13
計 6 回実施、参加者数 延べ 99 名				



「ものづくりと創造性」授業風景



親子講座の様子



公開講座の様子



中学生向けロボコン教室

以上の通り、「地域コミュニティラボ」では、本ラボを活用した展示の企画～設営といった一連のプロセスを通じ、一般市民団体も含む広い地域ステークホルダーが、それぞれが保有する地域資源の価値の再認識と探究の必要性に対する洞察を得、住民団体レベルからの地方創生のきっかけを提供することができた。また、「技術コミュニティラボ」では、少人数・双方向型の最新技術に関するミーティングというスタンスをとり、実施したことで、研究者と地元企業のマッチングが進み、商品開発に関する独自の勉強会が発足するなど産学連携の新たな接点を見出すことができた。そして、「ものづくりコミュニティラボ」では、昨年度以上に本ラボを活用し、学生のみならず市民向けの講座を実施できた。

第7章. その他事業全般に係る事項

オールしまね COC+事業を効果的に実施していくため、主幹校である島根大学に COC+推進委員会（旧称：地域協創推進本部会議）を設置し、これを開催した。また、本事業全体について事業計画の見直し・改善等のマネジメントを行う「しまね COC+事業推進協議会」を高等教育機関間や島根県および県内産業界・各団体の代表との連携のもと開催した。また、その下部組織として「しまね COC+事業推進協議会教育プログラム開発専門委員会」を開催し、各高等教育機関の取組内容の共有や共同企画の調整を行うとともに事業終了後の継続について協議した。合わせて、昨年度（平成29年度）の事業の成果報告および一次・二次評価の結果等までを収録した年次報告書を作成・公表し¹²、この報告書を持って事業協働機関に対してフォローアップアンケートを実施した。

その他、事業の取組についての情報発信、映像を用いた PR など各種広報活動を行った。第4回事業成果報告会は、オールしまね協働教育フォーラムと同時開催することで、事業協働機関の代表者だけでなく、実際に本事業に関わる個別の企業・自治体・各種団体とも事業理念の共有や進捗状況・取組内容について共有を図れるように企画した。これについては、第4章（p.74）に報告したのでこちらを参照いただきたい。

7-1. COC+推進委員会の開催

本 COC+事業の事業計画の決定、計画全体の進捗マネジメントを行う体制として、地域協創推進本部を島根大学におき、表7-1の通り会議を開催した。委員一覧は表7-2に示した。

表7-1. 平成30年度開催 COC+推進委員会一覧

	実施日時	議事内容
第1回	5月15日（火） 16:00～17:00	議題1. 平成30年度 COC+事業計画について 議題2. 平成29年度COC及びCOC+事業評価の実施について 議題3. その他
第2回	6月11日（月） 17:35～18:30	議題1. 平成29年度COC及びCOC+事業の第一次評価について 議題2. その他

12

<http://coc.lib.shimane-u.ac.jp/files/attach/1/1930/%E5%B3%B6%E6%A0%B9%E5%A4%A7%E5%AD%A6COC%E3%83%BBCOC%20H28%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E6%88%90%E6%9E%9C%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf>

表 7-2：平成 30 年度 COC+推進委員会委員名簿

役 職	氏 名	備 考
学長	服部 泰直	委員長
理事（総務・労務担当）／副学長	藤田 達朗	
理事（学術研究・地域連携担当）／副学長／地域未来協創本部長	秋重 幸邦	副委員長, COC+事業責任者
理事（教育・学生支援担当）／副学長	荒瀬 榮	
理事（医療・附属病院担当）／副学長	井川 幹夫	
理事（大学経営・財務, 事務総括担当）	吉田 靖	
理事（社会・産学連携担当）	宮脇 和秀	
地域未来協創本部副本部長	佐藤 利夫	
法文学部長	田中 則雄	
教育学部長	加藤 寿朗	
人間科学部長	村瀬 俊樹	
医学部長	並河 徹	
総合理工学部長／自然科学系研究科長	廣光 一郎	
生物資源科学部長	井藤 和人	
法務研究科長	朝田 良作	
COC+推進コーディネーター	池淵 昇平	
地域未来協創本部地域人材育成部門長	松崎 貴	

7-2. しまね COC+事業推進協議会の開催

本事業が地域の本質的課題により効果的に貢献するよう、産官学それぞれの立場から、事業計画全体の精査を行うため、県内各高等教育機関および事業協働自治体、事業協働機関の代表者によるしまねCOC+推進協議会を表7-3の通り開催した。委員構成は、表7-4に示した。

表 7-3：平成 30 年度 しまね COC+事業推進協議会の開催

	実施日時	議題等
第4回	3月26日（火） 13:30～15:30	(1) 報告事項：平成30年度事業報告について (2) 議題：平成31年度事業計画（案）について (3) 議題：オールしまねCOC+事業 今後の課題について (4) その他

表 7-4：平成 30 年度 しまね COC+事業推進協議会 委員名簿

役 職	氏 名	備 考
松江商工会議所会頭	古瀬 誠	
島根経済同友会代表幹事	川上 裕治	
島根県中小企業団体中央会 専務理事	中村 光男	
株式会社山陰中央新報社 代表取締役社長	松尾 倫男	
株式会社山陰合同銀行 専務執行役員	今若 康浩	
公益財団法人ふるさと島根定住財団 理事長	原 仁史	
特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい 理事	三輪 利春	
特定非営利活動法人てごねっと石見 理事長	藤田 貴子	
島根大学長	服部 泰直	委員長
島根県立大学長	清原 正義	参加校代表
松江工業高等専門学校長	平山 けい	参加校代表
島根県政策企画局長	野津 建二	参加自治体代表
島根大学理事（学術研究・イノベーション創出担当） 地域未来協創本部長	秋重 幸邦	COC+事業責任者
島根大学地域未来協創本部 副本部長	佐藤 利夫	
島根大学 COC+推進コーディネーター	池淵 昇平	地域未来協創本部客員教授
島根大学地域未来協創本部 地域人材育成部門長	松崎 貴	

協議会では、平成 30年度の事業総括として、本事業で取り組む 5 つのプロジェクトの概要、およびそれぞれの主な実施状況と取組成果について報告があり、平成 31 年度事業計画については、補助金が最終年度で大幅に減額された中でも、「しまね大交流会」については島根県からもコストシェアが実現し、昨年以上に充実した開催が可能であると報告があった。

意見交換では、若いうちから県内企業を知ってもらうためにも、中小企業がレベルアップするためにも「しまね大交流会」を今後も続けてほしい、といった意見や、県としてもCOC+事業での流れを発展させ、総合戦略に盛り込んでいきたい、といった意見があった。

また、今後の課題として、これまでの協働体制を継続していくための仕組みを検討する必要がある、検討は本協議会の下部委員会である「教育プログラム開発専門委員会」において進めることが確認された。

7-3. しまねCOC+事業推進協議会教育プログラム開発専門委員会の開催

教育プログラム開発専門委員会を島根大学と島根県立大学浜田キャンパス、松江工業高等専門学校をTV会議システムにて中継して、表7-5の通り実施した。委員一覧について表7-6に記載した。

表7-5. 平成30年度開催 教育プログラム開発専門委員会開催概要

	実施日時	議事内容
第4回	5月15日(火) 14:30~15:30	議題1. 各校の教育プログラム(地域志向関係、キャリア関係)の計画について 議題2. H30年度COC+事業実施計画(ロードマップ)について 議題3. その他
第5回	2月13日(水) 10:00~11:00	議題1. COC+中間評価結果及びフォローアップ結果について 議題2. H30年度COC+事業実施状況について 議題3. H31年度COC+事業計画(案)について 議題4. H32年度以降の事業継続について 議題5. その他

表7-6. 教育プログラム開発専門委員会 委員一覧

役職	氏名	備考
島根大学地域未来協創本部本部長	秋重 幸邦	理事(学術研究・地域連携担当)
島根大学地域未来協創本部副本部長	佐藤 利夫	
島根大学COC+推進コーディネーター	池淵 昇平	
島根大学地域未来協創本部地域人材育成部門長	松崎 貴	
島根大学地域未来協創本部地域人材育成部門/講師	高須 佳奈	
島根大学教育・学生支援機構 キャリアセンター准教授	丸山 実子	
島根大学教育・学生支援機構 キャリアセンター講師	田中 久美子	
島根大学COC+キャリアプランナー	赤藤 明彦	
島根大学COC+キャリアプランナー	三浦 大紀	
島根県立大学キャリアセンター長	久保田 典男	
島根県立大学キャリア支援室長	俵 正光	
松江工業高等専門学校 校長補佐(研究担当)	堀内 匡	
松江工業高等専門学校 キャリア支援室長	服部 真弓	
島根県政策企画局政策企画監室 企画員	赤井 英則	
島根県商工労働部雇用政策課 主任	大串 健太郎	

本委員会では、各校の取組内容の共有、COC+事業の全体計画、数値目標の状況について確認したほか、補助金終了後の事業継続について検討を開始した。意見交換では、今後の方向性について、終了ではなく効果の高いものに選択と集中をしながら継続したほうがよい、という意見で一致した。

7-4. 事業フォローアップアンケートの実施

事業協働機関を対象としたフォローアップアンケート調査を平成30年6月8日に実施した。その結果、平成29年度事業に対する満足度が75%（「とても満足している」または「ある程度満足している」と答えた事業協働機関の合計）となり、目標値65%を上回った。

7-5. 平成30年度事業に対する評価の実施

地域協創本部会議構成員による第一次（内部）評価を令和元年6月に行った。評価結果は次の通りである。

表 7-7 平成30年度COC+事業 第一次評価結果

評価項目	評価点
I. 地域未来創造人材の育成	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
II. 異業種大交流会	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
III. しまね協働教育パートナーシップ	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
IV. しまねクリエイティブラボネットワーク	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
V. 地域情報アーカイブ“Ago-Lab”	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
VI. 全体	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
総合評価	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

評価点) 5: 目標・計画を大きく上回った/4: 上回った/3: 目標・計画の通り実施した/2: 下回った/1: 大きく下回った

【講評】

I. 地域未来創造人材の育成

地域志向型初年次教育科目の全学必修化やキャリアデザインプログラムの実施など、地域での学びが体系的に実施された。また、正課外においては、地域協働型のプロジェクトやバスツアー等が自治体等の支援を得て実施され、延べ1300名を超える学生が参加するなど、地域との接点や交流が増えたことから、計画を上回る取り組みがなされたと判断し、評価点「4」とする。

II. 異業種大交流会

大学生及び高校生が昨年度比112%増の1481名の参加があり、企業側・学生側双方の満足度も向上し、コストシェアも拡大するなど、計画を上回ったと判断し、評価点「4」とする。

III. しまね協働教育パートナーシップ

登録団体数が67団体増え203団体となり、1年前倒しで最終目標を達成した。さらに、事業所ガイドブックを新たに作成し活用を開始したことなど、計画を上回る取り組みがなされたも

のと判断し、評価点「4」とする。

IV. しまねクリエイティブラボネットワーク

「地域コミュニティラボ」、「技術コミュニティラボ」、「ものづくりコミュニティラボ」がそれぞれ活発に運用され、計画通り進捗していることから、評価点「3」とする。

V. 地域情報アーカイブ“Ago-Lab”

投稿アカウント数が1314件と平成28年度の12倍となり、ページビュー数ともに増加した。また、地域志向教育やしまね大交流会での連動も図られており、計画を上回ったと判断し、評価点「4」とする。

VI. 全体

事業協働地域就職率が目標を達成できていないものの、その他の目標の多くが達成されており、一部の事業は計画を上回って実施されていることから、評価点「4」とする。

以上のとおり、IからVIの項目別評価点等を総合的に勘案し、総合評価は評価点「4」とする。

【課題・提言】

I. 地域未来創造人材の育成

- ・アンケート等により教育効果を多角的に検証する必要がある。
- ・事業協働地域就職率向上への対策として開始した地元高校からの進学への取組に期待する。

II. 異業種大交流会

- ・学生が1回限りの参加ではなく、学年の進行とともに新たな視点で継続的に参加できるようにさらなる工夫が必要。また、企業や自治体の方にもっと大学の研究室等のブースを訪問していただけるような工夫が必要である。

III. しまね協働教育パートナーシップ

- ・事業協働機関へのインターンシップ参加者数が目標値は達成しているものの、減少傾向にあるため、パートナーシップ企業等との連携により、本県でのインターンシップの強化が図られるよう期待する。

IV. しまねクリエイティブラボネットワーク

- ・それぞれの取組の成果の検証や教育効果の可視化が必要である。

VI. 全体

- ・重要KPIの1つである事業協働地域就職率が目標を下回っている状況であり、要因分析を継続し、同就職率を向上させるための取組が必要である。
- ・プロジェクト間の連携による相乗的な効果を期待するとともに、その成果を可視化する取組が必要である。

外部評価委員による第二次（外部）評価を令和元年 7 月に行った。評価結果は次の通りである。

表 7-8 平成 30 年度 COC 事業 第二次評価結果

評価項目	評価点
I. 地域未来創造人材の育成	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
II. 異業種大交流会	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
III. しまね協働教育パートナーシップ	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
IV. しまねクリエイティブラボネットワーク	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
V. 地域情報アーカイブ “Ago-Lab”	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
VI. 全体	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
総合評価	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

評価点) 5: 目標・計画を大きく上回った/4: 上回った/3: 目標・計画の通り実施した/2: 下回った/1: 大きく下回った

【講評】

全ての評価項目において目標・計画を上回る取り組みであったと評価し、全体、総合評価を含め、評価点 4 とする。

特に、「IV. しまねクリエイティブラボネットワーク」については、「地域コミュニティラボ」では歴史と文化をふまえた活動、「技術コミュニティラボ」では特徴的な研究につながる活動、「ものづくりコミュニティラボ」ではデジタルサイエンスや木工など、様々な活動が展開されていることを評価した。

【課題・提言】

- ・ この事業は大学生に地域を理解させ、地域に定着させることを主眼としたものである。事業開始後 5 年目であり、中長期的な視点での追跡調査が必要である。本年度は最終年度であるが、事業終了後もこのような試みを継続発展させ、地域への定着を図る必要がある。高校卒業後あるいは島根大学を卒業後にいったん県外に出た学生の将来的な還流も実績としてカウントすべきである。
- ・ 地域貢献人材育成入試はもっと PR したほうが良い。
- ・ 島根の魅力を発掘し、自信をもって若い世代へ伝えてほしい。
- ・ 「しまね大交流会」は地域の企業の活躍や将来性等を知る貴重な機会である。高校生が大学生と交流する機会は大切である。高校生の参加数増を評価したい。

- ・地域貢献人材育成入試では、「地域枠」として島根・鳥取両県内校の生徒を対象にしている。したがって、出口においても島根県だけでなく鳥取県への就職数もカウントできるのではないかとと思われる。
- ・たたら、Ruby、中海・宍道湖といったこの地域にゆかりのある特徴的な分野において活躍できる人材を育成する戦略を立てることも重要である。

【外部評価委員】

中村宗一郎氏（国立大学法人信州大学理事・副学長）、清水寿夫氏（境港市副市長）、廣田晃良氏（日本政策投資銀行松江事務所長）、木内吾平氏（JR西日本米子支社山陰地域振興本部課長）、大原義起氏（中国ニュービジネス協議会常務理事）、中山智徳氏（島根大学生物資源科学部4年生）、以上6名

1

2

3

4

5

6

7

その他事業全般に係る事項

8

第8章. 文部科学省による事業フォローアップについて

平成27年度より事業を開始したCOC+事業は、日本学術振興会に設けられた「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業委員会」による審査・評価を受けることとなっている¹³。この委員会による、COC+事業の効果的な実施及び事業目標の着実な達成に資するため、選定された各事業の進捗状況や成果等を適切に把握・確認し、必要に応じて指導・助言を行う一連の取組は、フォローアップと呼ばれ、図8-1の通り、COC+事業最終年度の翌年度にあたる平成32年度（令和2年度）までの計画がなされている（日本学術振興会による図版を基に作成¹⁴）。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
平成27年度COC+選定事業			選定	フォローアップ	中間評価	フォローアップ	フォローアップ	事後評価
平成25年度COC選定事業	選定			平成28年度評価				
平成26年度COC選定事業		選定		平成28年度評価				

・・・事業期間
・・・事業期間終了後

図8-1：COC+事業におけるフォローアップの概要
（日本学術振興会 Web サイトを元に作成）

平成27年度より、COC事業はCOC+事業に組み込んだ実施となり、平成30年度は総体としてのフォローアップの年度となった。

フォローアップの結果は以下のとおりであり、課題として挙げられている点もあるが、特に順調に進捗している点のほうが多く記載されている。

1. 進捗状況の概要
- 特に順調に進捗している点
 - ・正課外教育のキャリア教育として4つのプロジェクトを共同開発・実践しており、特に「しまね大交流会」は高校生を含む多くの参加者（平成29年度2,170名）を得るイベントとして地域からも評価されるなど、効果をあげつつある点は優れている。
 - 課題（今後対応状況の確認を必要とする点）
 - ・特になし。
2. 中間評価時に付された留意事項への対応
- 特に順調に進捗している点
 - ・しまねクリエイティブラボネットワークとして、平成29年度末までに3つのラボが設置

¹³日本学術振興会：<https://www.jsps.go.jp/j-coc/index.html>

¹⁴日本学術振興会：https://www.jsps.go.jp/j-coc/data/followup/00_coc_gaiyou.pdf

されたことで、学生、教職員、市民・企業等を有機的につなげる仕組みが整備され、事業協働機関との共同企画等が展開されている。

■課題（今後対応状況の確認を必要とする点）

- ・ キャップストーン科目については、地域志向教育と専門教育との有機的連携の観点から、PDCAに基づく調査等を実施し、その有効性を継続的に検証していくことが求められる。
- ・ 教育プログラム開発専門委員会での協議を通して、「しまね大交流会」等の正課外教育のコンテンツを、各 COC+参加校の正課教育カリキュラムに有機的に連動させていく取組が期待される。

3. 達成目標と事業内容

■特に順調に進捗している点

- ・ 事業協働機関へのインターンシップ参加者数、事業協働機関との共同研究・受託研究件数、しまね協働教育パートナーシップ参加企業・NPO 等件数等が目標値を上回って展開しており、順調に進捗している。

■課題（今後対応状況の確認を必要とする点）

- ・ 事業協働地域就職率については、山陰出身学生の進学増加の可能性を見据えつつ、新たに開始した高大接続事業の効果を検証しながら取組を拡充していくことが期待される。

4. 事業経費その他特筆すべき事項

■特に順調に進捗している点

- ・ 本事業で推進している 5 つのプロジェクトの一部について、事業協働機関外からの経費面でのコストシェアを実現しており、順調に進捗している。
- ・ 高等学校におけるキャリア教育との連携を含め、地域一体となった更なる取組の推進が期待される。

■課題（今後対応状況の確認を必要とする点）

- ・ 特になし。

課題として挙げられたキャップストーン科目については、授業評価アンケートの実施により教育効果を継続的に検証することが計画されている。また、「しまね大交流会」を正課教育に有機的に連動させていく取組もキャリアデザインプログラムなどを中心にさらに拡大する見込みである。

事業協働地域就職率については、COC 事業で構築した「地域貢献人材育成入試」によって入学した COC 人材育成コース生が、県内高校生とともに地域学習に取り組む授業科目を新たに開設し、高大接続事業の拡充を図っている。

平成27年度採択 文部科学省
地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）

平成30年度 事業成果報告書

お問い合わせ先

国立大学法人島根大学
企画部 地域連携・研究協力課
地域連携推進グループ

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
TEL 0852-32-9757
FAX 0852-32-9749
E-mail prd-chiiki@office.shimane-u.ac.jp

【編集・発行】

島根大学 地域未来協創本部
地域人材育成部門

令和元年9月発行

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
TEL 0852-32-9814
FAX 0852-32-9816
E-mail lscrc@riko.shimane-u.ac.jp

島根大学地域未来協創本部
地域人材育成部門

Division of Regional Education
Office for Regional Collaboration and Innovation, Shimane University